

Tru64 UNIX

CDE ガイドブック

Part Number: AA-RK3JA-TE

1999 年 10 月

オペレーティング・システム: 日本語 Tru64 UNIX バージョン 5.0
以降

本書では、CDE (Common Desktop Environment: 共通デスクトップ環境) について紹介するとともに、Compaq Tru64 UNIX (以前の DIGITAL UNIX) バージョン 5.0 以降について、DECwindows Motif から CDE へ移行するために必要な情報を提供します。

コンパックコンピュータ株式会社

© Compaq Computer K.K. 1999
All rights reserved.

本書の著作権はコンパックコンピュータ株式会社が保有しており、本書中の解説および図、表はコンパックコンピュータの文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、弊社は一切その責任を負いかねます。

コンパックコンピュータは、弊社または弊社の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合、その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア(対象ソフトウェア)は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

Printed in Singapore.

COMPAQ, Compaq ロゴ, Digital ロゴは U.S. Patent and Trademark Office に登録されています。以下は、Digital Equipment Corporation の商標です: ALL-IN-1, Alpha AXP, AlphaGeneration, AlphaServer, AltaVista, ATMworks, AXP, Bookreader, CDA, DDIS, DEC, DEC Ada, DECevent, DEC Fortran, DEC FUSE, DECnet, DECstation, DECsystem, DECterm, DECUS, DECwindows, DTIF, Massbus, MicroVAX, OpenVMS, POLYCENTER, PrintServer, Q-bus, StorageWorks, Tru64, TruCluster, TURBOchannel, ULTRIX, ULTRIX Mail Connection, ULTRIX Worksystem Software, UNIBUS, VAX, VAXstation, VMS, XUI。このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

Adobe, Acrobat Reader, PostScript, および Display PostScript は米国 Adobe Systems 社の登録商標です。Open Software Foundation, OSF, OSF/1, OSF/Motif, および Motif は Open Software Foundation 社の商標です。UNIX は The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。The Open Group は The Open Group の米国ならびに他の国における商標です。Netscape, Netscape Navigator, および Netscape Communications ロゴは、米国 Netscape Communications Corporation 社の商標です。X Window System は、米国 X/Open Company Ltd. 社の商標です。

目次

まえがき

Part 1 CDE (Common Desktop Environment) の使用

1 CDE の紹介

1.1	ログインおよびアプリケーションへのアクセス	1-2
1.1.1	フロント・パネル	1-4
1.1.2	ワークスペース	1-4
1.2	デスクトップおよびアプリケーションの管理	1-5
1.3	詳しい情報の入手	1-7
1.3.1	マニュアルとガイド	1-7
1.3.2	ネットスケープ・ナビゲータによるオンライン・ドキュメントの表示	1-9
1.3.3	オンライン・ヘルプ	1-10
1.3.3.1	ヘルプ・マネージャの使用方法	1-11
1.3.3.2	アプリケーションのヘルプ・メニューの使用	1-13
1.3.4	リファレンス・ページ	1-14
1.3.4.1	コマンドおよびアプリケーションのリファレンス・ページの検索	1-14
1.3.4.2	man コマンドの使用方法	1-15
1.3.4.3	マニュアル・ページ・ビューアの使用法	1-15

2 CDE の開始

2.1	CDE デスクトップでのナビゲート	2-1
2.1.1	マウスの使用方法	2-1

2.1.2	キーボードの使用方法	2-3
2.2	ウィンドウの使用方法	2-4
2.2.1	ウィンドウ・コントロールの管理	2-4
2.2.2	複数のウィンドウ，メニュー，およびダイアログ・ボックスの管理	2-6
2.2.2.1	複数ウィンドウの操作	2-6
2.2.2.2	メニューの操作	2-7
2.2.2.3	ダイアログ・ボックスの操作	2-8
2.3	セッションの開始	2-9
2.3.1	言語の選択	2-11
2.3.2	セッションの選択	2-11
2.3.3	ログイン画面・オプションのリセット	2-12
2.4	セッションの一時停止	2-12
2.5	セッションの終了	2-12
3	フロント・パネルの使用方法	
3.1	フロント・パネルの概観	3-1
3.2	フロント・パネルのメニューおよびワークスペースの使用方法	3-4
3.2.1	サブパネル・メニューの使用方法	3-4
3.2.1.1	個人アプリケーションのサブパネル	3-5
3.2.1.2	個人プリンタのサブパネル	3-6
3.2.1.3	ヘルプのサブパネル	3-7
3.2.1.4	SysMan Applications サブパネル	3-9
3.2.2	ワークスペースの使用方法	3-11
3.2.2.1	ワークスペース・メニューの使用方法	3-12
3.2.2.2	CDE Window List の使用	3-13
4	デスクトップおよびアプリケーションの管理	
4.1	ファイルおよびフォルダの管理	4-1

4.1.1	ファイル・マネージャの「ファイル」メニューの使用方法	4-3
4.1.2	ファイル・マネージャの「選択」メニューの使用方法	4-3
4.1.3	ファイル・マネージャの「表示」メニューの使用方法	4-4
4.2	アプリケーションの管理	4-5
4.2.1	組み込みアプリケーション・グループへのアクセス	4-6
4.2.2	アプリケーション・マネージャのメニューの使用方法	4-7
4.2.3	アプリケーション・マネージャからのアプリケーションの 実行	4-7
4.3	環境のカスタマイズ	4-7
4.3.1	スクリーン表示の変更	4-8
4.3.2	システム特性の設定	4-9
4.3.3	スタートアップおよびログアウト動作の指定	4-10
5	統合されているアプリケーションの使用方法	
5.1	アプリケーションの起動	5-1
5.2	ネットワーク経由のアプリケーションの実行	5-2
5.2.1	システムへのアクセス権の付与	5-3
5.2.2	表示を可能にする	5-3
5.3	デスクトップ・アプリケーションの使用方法	5-4
5.3.1	漢字端末エミュレータの使用方法	5-5
5.3.1.1	その他の漢字端末エミュレータの機能のまとめ	5-6
5.3.2	テキスト比較の使用方法	5-7
5.3.3	イメージビューアの使用方法	5-8
5.3.4	入力サーバ・オプションの使用方法	5-8
5.3.5	キーボード設定の使用方法	5-9
5.3.6	キーキャップ編集の使用方法	5-10
5.4	システム管理アプリケーションの使用方法	5-11
5.5	SysMan Menu の使用方法	5-14

5.6	SysMan Station の使用方法	5-16
Part 2 DECwindows から CDE への移行		
6 CDE への移行		
6.1	CDE と DECwindows Motif の共通機能	6-1
6.1.1	X サーバおよび X クライアント	6-2
6.1.2	セッション・マネージャ	6-2
6.1.3	ウィンドウ・マネージャ	6-3
6.1.4	X クライアント・アプリケーション	6-3
6.2	CDE と DECwindows Motif の相違点	6-3
6.3	詳しい情報の取得	6-4
7 新しいセッション・マネージャの使用方法		
7.1	セッションの開始および終了	7-1
7.2	アプリケーションへのアクセス	7-3
7.2.1	フロント・パネルからのアプリケーションの管理	7-4
7.2.1.1	サブパネルへのアプリケーションの追加	7-5
7.2.1.2	フロント・パネルへのサブパネル・コントロールの追加	7-6
7.2.1.3	フロント・パネル上のコントロールの置換	7-6
7.2.1.4	フロント・パネルに対するカスタマイズ内容の削除 ...	7-7
7.2.2	アプリケーション・マネージャからのアプリケーションの起動	7-7
7.2.3	ファイル・マネージャによるアプリケーションの実行	7-8
7.2.4	DECwindows Motif アプリケーションの使用方法	7-9
8 環境のカスタマイズ		
8.1	スタートアップ環境のカスタマイズ	8-1
8.2	セッション・マネージャの設定変更	8-3

8.3	ウィンドウのパターンとカラーのカスタマイズ	8-3
8.3.1	ウィンドウ・マネージャの変更	8-4
8.3.2	スクリーン・セーブおよびロック・スクリーン・バックグラウンドの指定	8-4
8.3.3	バックグラウンド・パターンの選択	8-4
8.3.4	スクリーンおよびウィンドウのカラーの変更	8-5
8.4	セキュリティ設定の変更	8-6
8.5	キーボード設定のカスタマイズ	8-6
8.5.1	スタイル・マネージャによるキーボード設定の調整	8-7
8.5.2	「キーボード設定」によるキーボード設定の調整	8-8
8.5.3	PC スタイル・キーボードの変更	8-8
8.6	セッション言語の指定	8-12
8.7	マウスおよびポインタの動作内容のカスタマイズ	8-12
8.8	設定のセーブおよびリストア	8-14
8.9	リソース・ファイルの変更	8-14
9	国際化機能の使用方法	
9.1	使用言語の選択	9-1
9.2	キーボード・タイプ, キーボード属性, 入力方法の指定	9-2
9.3	端末エミュレータの使用方法	9-3
9.4	メールの使用方法	9-4
10	メールとカレンダーの移行	
10.1	メール・フォーマットの変換	10-1
10.1.1	メールの格納方法について	10-2
10.1.1.1	MH/dxmail の格納	10-2
10.1.1.2	CDE メール の格納	10-3
10.1.2	メール変換ユーティリティによるメールの変換	10-4
10.1.2.1	メール・ディレクトリ全体の変換方法	10-4

10.1.2.2	個々のフォルダの変換方法	10-4
10.1.2.3	メール変換制御フラグの使用方法	10-5
10.1.2.4	不正なメール・メッセージの変換	10-5
10.1.3	ファイル・マネージャによるメールの変換方法	10-6
10.1.3.1	メール階層全体の変換方法	10-6
10.1.3.2	個々のフォルダの変換方法	10-6
10.2	カレンダー・データベースの変換	10-7

A メール・ハンドラの相違点

A.1	CDE のメール・アプリケーションで利用できる機能	A-1
A.2	CDE のメール・アプリケーションで使えない機能	A-2
A.3	MH と CDE メール・アプリケーションの相違点について	A-3

索引



1-1	CDE 環境	1-2
1-2	ログイン画面	1-3
1-3	CDE フロント・パネル	1-4
1-4	ワークスペース・スイッチ	1-5
1-5	ファイル・マネージャ	1-5
1-6	アプリケーション・マネージャ	1-6
1-7	スタイル・マネージャ	1-6
1-8	オンライン・ヘルプ	1-12
1-9	ヘルプ・マネージャのサブパネル	1-13
2-1	マウスのボタン	2-2
2-2	ウィンドウのコンポーネント	2-5
2-3	ログイン画面	2-10
3-1	CDE フロント・パネルのコントロール	3-1

3-2	CDE フロント・パネルの SysMan Station コントロール	3-3
3-3	CDE 個人アプリケーションのサブパネル	3-5
3-4	CDE 個人プリンタのサブパネル	3-7
3-5	CDE ヘルプ・マネージャのサブパネル	3-8
3-6	SysMan Applications サブパネル	3-9
3-7	CDE フロント・パネルのワークスペース・スイッチ	3-11
3-8	ワークスペース・ボタンのポップアップ・メニュー	3-12
3-9	CDE ワークスペース・メニュー	3-12
3-10	CDE Window List	3-14
4-1	CDE ファイル・マネージャ	4-2
4-2	CDE アプリケーション・マネージャ	4-6
4-3	CDE スタイル・マネージャ	4-7
5-1	漢字端末エミュレータ・アプリケーション	5-6
5-2	テキスト比較アプリケーション	5-7
5-3	イメージビューア・アプリケーション	5-8
5-4	入力サーバ・オプション・アプリケーション	5-9
5-5	キーボード設定アプリケーション	5-10
5-6	キーキャップ編集アプリケーション	5-11
5-7	アプリケーション・マネージャにおける SysMan のカテゴリ	5-12
7-1	CDE フロント・パネルのコントロール	7-3
7-2	サブパネルの矢印	7-4
7-3	ワークスペース・ボタン	7-4
7-4	サブパネル	7-5
7-5	ファイル・マネージャのポップアップ・メニュー	7-9
8-1	「起動」コントロール	8-2
8-2	「背景」コントロール	8-5
8-3	カラー・コントロール	8-5
8-4	「ピープ音」コントロール	8-7

8-5	「キーボード」コントロール	8-8
8-6	ログイン画面	8-12
8-7	「マウス」コントロール	8-13

表

1-1	ユーザ・ドキュメント	1-7
1-2	プログラミング・ドキュメント	1-8
1-3	ToolTalk ドキュメント	1-8
1-4	オンライン・ヘルプ・ボリュームの内容	1-13
2-1	ウィンドウ・コントロール	2-5
2-2	メニュー・タイプ	2-8
2-3	ダイアログ・ボックスのコントロール	2-9
3-1	フロント・パネルのコントロール	3-2
4-1	ファイル・マネージャの「ファイル」メニュー	4-3
4-2	ファイル・マネージャの「選択」メニュー	4-4
4-3	ファイル・マネージャの「表示」メニュー	4-4
5-1	デスクトップ・アプリケーション	5-5
7-1	組み込みのアプリケーション・グループ	7-7
7-2	CDE での使用を推奨するアプリケーション	7-9
7-3	サポートされなくなった DECwindows アプリケーション	7-11
8-1	LK201/LK401 キーの機能および対応する PC スタイル・キー	8-10
A-1	メール・ハンドラの相違点	A-3

まえがき

本書では、CDE (Common Desktop Environment) の概要について説明します。CDE は、Compaq Tru64 UNIX® (以前の DIGITAL UNIX) オペレーティング・システムとの対話を簡単に行うための手段を提供するグラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI) です。

『CDE ガイドブック』は、次の 2 つのパートで構成されています。

- 第 1 部では、デスクトップ環境になじみのないユーザのために共通デスクトップ環境 (Common Desktop Environment: CDE) について紹介しています。
- 第 2 部では、DECwindows Motif から CDE へ移行するための情報を提供しています。

注意

本書で DECwindows と呼ぶ場合は、DECwindows Motif ソフトウェアを意味します。

本書の対象読者

本書は 2 つのパートで構成されており、それぞれのパートで対象としている読者は次のとおりです。

- デスクトップ環境になじみのないユーザ
- DECwindows Motif から CDE へ移行したいユーザ

デスクトップ環境を初めて使用するユーザのために、本書では、システムにログインして新しい環境を試し、デスクトップを管理して、統合されたアプリケーションを使用するために必要な情報を提供します。

DECwindows から CDE へ移行するユーザにとっては、新しい環境の概要を理解するために本書を利用することができます。また、今まで DECwindows

Motif で実行していた処理を CDE で実行するための方法についても理解することができます。

本書は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』と併用されることをお奨めします。

追加および変更された機能

次に、本書での主な変更について説明します。

- オペレーティング・システムの本バージョンでは、「システム管理」アプリケーションに対して、`setup` ユーティリティをはじめ、数多くの新機能が提供されているとともに、強化が行われています。詳細については、『*インストラクション・ガイド*』、『*システム管理ガイド*』、『*Tru64 UNIX 概要*』、『`sysman_intro(8)` リファレンス・ページ』、および各アプリケーションのオンライン・ヘルプを参照してください。
- よく使用される CDE 機能および統合されているアプリケーションの図が追加されました。
- Adobe 社の Display PostScript (DPS) 製品がリタイアになりました。この製品には、クライアント・ライブラリ、X Server 拡張、およびさまざまなアプリケーションや例が含まれています。このため、Compaq でも、Tru64 UNIX から Adobe DPS をリタイアさせました。代わりに利用できる製品がないため、Adobe DPS ライブラリを使用して独自のアプリケーションを開発していたお客様のための移行パスはありません。次の Adobe アプリケーションがリタイアとなり、オペレーティング・システムから削除されました。

- `dpsclock`
- `dpsexec`
- `draw`
- `fontview`
- `makepsres`
- `pswrap`
- `scratchpad`
- `texteroids`

- wonderland
- xepdf
- /usr/lib/X11/fonts/Type1Adobe の下にあるすべての Adobe フォント

dxbook, dxmail, dxnotepad, および showps など, DPS に依存していた Adobe Display PostScript (DPS) ユーティリティのサポートは, もう利用できません。

ghostscript および **ghostview** ユーティリティを代わりに使用することができます。これらのユーティリティは, フリーウェア配布メディアから入手できます。

Adobe DPS を使用する次のアプリケーションはリタイアとなり, オペレーティング・システムから削除されました。

- dxvdoc
- dxbook
- dxnotepad (APCD 内の WorldWide Language Support ソフトウェアの I18N バージョン)
- CDE フロント・パネル上の「個人アプリケーション」サブパネルからネットスケープ・ナビゲータにアクセスできるようになりました。起動手順については, 1.3.2 項を参照してください。
- 3.1 節に, root ユーザの SysMan Station フロント・パネル・コントロールを示します。
- 3.2.1.4 項で, 「SysMan Applications」サブパネルについて説明します。
- 3.2.2.2 項で, CDE Window List の概要について紹介します。このツールは, 本リリースで新しく提供されるものであり, 複数のワークスペースに渡ってアプリケーション・ウィンドウを検索する際に役立ちます。
- 第 5 章では, 現在統合されているアプリケーションについて正確に記述しています。また, SysMan Menu および SysMan Station アプリケーション, 漢字端末エミュレータ (DECterm) アプリケーションについても, 概要を紹介しています。
- 8.1 節では, ディスプレイ固有のセッションについて説明しています。

本書の構成

本書の構成は次のとおりです。

- 第 1 部では、デスクトップ環境になじみのないユーザのために CDE について紹介しています。
- 第 2 部では、DECwindows Motif から CDE へ移行するための情報を提供しています。
- 付録 A では、メール・ハンドラの相違について説明しています。

第 1 部	共通デスクトップ環境 (CDE) について紹介し、この環境を使い始めるための情報を提供します。
第 1 章	CDE の主なコンポーネントについて説明し、ドキュメント・セット、オンライン・ヘルプ、リファレンス・ページへのアクセス方法について説明します。
第 2 章	マウスおよびキーボードを使用して CDE デスクトップを操作する方法、デスクトップ・セッションを開始/終了する方法について説明します。
第 3 章	フロント・パネルについて紹介し、アプリケーションへのアクセス方法、サブパネルの使用法、ワークスペースの使用法について説明します。
第 4 章	デスクトップにおけるファイルの操作、アプリケーションへのアクセス、環境のカスタマイズについて説明します。
第 5 章	デスクトップおよび CDE に統合されているシステム管理ユーティリティの概要を説明するとともに、SysMan Menu および SysMan Station について紹介します。
第 2 部	DECwindows Motif 環境から CDE への移行について説明します。
第 6 章	DECwindows Motif と CDE との間の共通のコンポーネントおよび違いについて概要を説明します。
第 7 章	セッションの起動/終了およびアプリケーションへのアクセスに関する、DECwindows Motif と CDE との違いについて説明します。
第 8 章	CDE におけるデスクトップ環境のカスタマイズについて説明します。
第 9 章	DECwindows Motif で使用している国際化機能の CDE への移行について説明します。

第 10 章	DECwindows のメール・フォルダおよびカレンダー・データベースを、CDE のメールおよびカレンダー・アプリケーションが認識できるフォーマットに変換する方法について説明します。
付録 A	MH/DXmail と CDE メールの違いについて説明します。

表記法

本書では、次の表記法を使用します。

%	
\$	パーセント記号は、C シェルのシステム・プロンプトを表します。ドル記号は、Bourne シェル、Korn シェル、および POSIX シェルの場合のシステム・プロンプトを表します。
#	番号記号は root としてログインした場合のシステム・プロンプトを表します。
% cat	対話式の例における太字(ボールド体)は、ユーザが入力する文字を示します。
<i>file</i>	イタリック体 (斜体) は、変数値、プレースホルダ、および関数の引数名を示します。
[]	
{ }	構文定義では、大カッコはオプションの項目を示し、中カッコは必須項目を示します。大カッコまたは中カッコの中の項目を縦線で区切っている場合は、そこに併記されている項目の中から 1 つの項目を選択することを示します。
cat(1)	リファレンス・ページの参照には、該当するセクション番号をカッコ内に示します。たとえば、cat(1) は、cat コマンドについての情報が、リファレンス・ページのセクション 1 に記載されていることを示します。

Return

四角で囲まれたキー名はユーザがそのキーを押すことを示します。

Ctrl/x

この記号は、スラッシュの前に指定されているキーを押しながら、スラッシュの後のキーまたはマウス・ボタンを押すことを示します。例中では、このようなキーの組み合わせは、四角あるいは大カッコで囲まれて示されます(たとえば、Ctrl/C)。

Part 1

CDE (Common Desktop Environment) の 使用

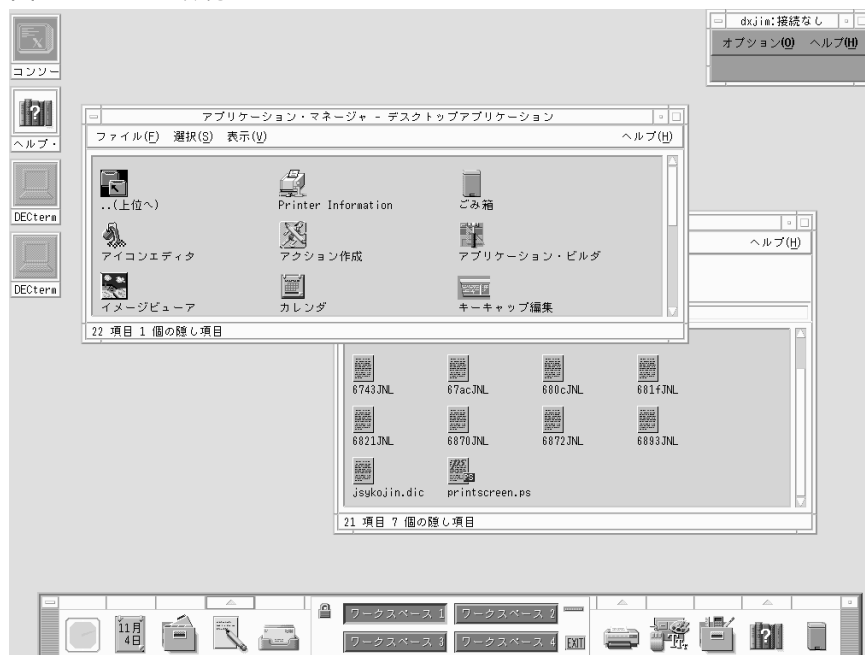


CDE の紹介

CDE (Common Desktop Environment) は、オペレーティング・システムとの対話を簡単に行うための手段を提供します。CDE は、X Consortium の X Window System、Open Software Foundation の Motif ユーザ・インタフェースなどの業界標準をベースとして共同開発されたグラフィカル・ユーザ・インタフェースです。CDE インタフェースの使用により、マウスまたはキーボードによるアプリケーションのナビゲート、およびアプリケーションとの対話が実行できます。

CDE は、カスタマイズ可能なビジュアルなデスクトップ環境を提供します。このデスクトップを使用すると、アプリケーションへのアクセスやアプリケーションの管理が簡単になります。CDE のスクリーン上には、フロント・パネル領域が表示されます (図 1-1 を参照してください)。フロント・パネルは、スクリーン領域の一番下にグラフィック表示され、そこからアプリケーション、プリンタ、オンライン・ヘルプなどの、使用頻度の高いオブジェクトにアクセスできます。また、フロント・パネルは、別々のワークスペースで作業を行うためのオプションも提供します。ワークスペースとは、フロント・パネルを含むスクリーン自体のことです。フロント・パネル上のコントロール・ボタンを使用することにより、ワークスペースを切り替えることができます。

図 1-1: CDE 環境



この章では、次の項目についての概要を説明します。

- ログインおよびアプリケーションへのアクセス
- デスクトップおよびアプリケーションの管理
- ドキュメント・セット、オンライン・ヘルプ、リファレンス・ページを含めて、その他の情報源の検索

1.1 ログインおよびアプリケーションへのアクセス

ログイン・マネージャによって表示されるログイン画面 (図 1-2) にユーザ・ログイン名およびパスワードを入力することにより、デスクトップにアクセスすることができます。さらに、開始したいセッションのタイプやセッション中に使用する言語を選択するためのオプション・メニューも提供されます。

図 1-2: ログイン画面



ユーザには、次のセッションを開始するための次のようなオプションが提供されています。

- 通常のデスクトップ・セッションでは、ログイン・マネージャがログインおよびパスワードを確認した後で、CDE セッション・マネージャが起動されます。これは、デフォルトのデスクトップです。セッション・マネージャは、セッションの終了時に最後のセッションの状態を保管し、次のログイン時に、そのセッションをリストアします。
- フェイルセーフ・セッションでは、単一のターミナル・ウィンドウ、およびウィンドウ・マネージャが起動されます。このセッションは、問題が発生してセッションへのログインができない状態で、1 つのターミナル・ウィンドウにアクセスする必要がある場合に役立ちます。
- コマンド行ログイン・セッションは、デスクトップを中断して、ベース・オペレーティング・システム環境、つまりウィンドウのない環境で作業する手段を提供します。ログイン・マネージャがアクティブではなく、X サーバが実行されないため、ログイン画面は表示されません。

この節では、次の事項について説明します。

- フロント・パネル
- ワークスペース

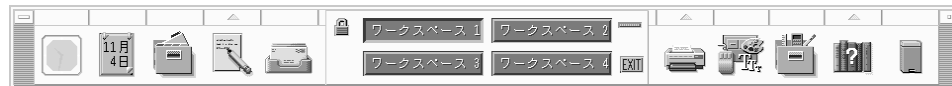
システムのデフォルトの言語はシステム管理者が設定します。ログイン画面でユーザが選択することにより、システムに組み込まれている他の言語にアクセスすることもできます。オプション・メニューから言語を選択すると、ユーザ・セッションの間だけ LANG 環境変数が設定されます。セッションを終了すると、デフォルトの言語がリストアされます。国際化機能の使用方法については、第 9 章を参照してください。

1.1.1 フロント・パネル

CDE のフロント・パネルはデスクトップの一番下に表示されます。フロント・パネルには、アプリケーションを起動するためのコントロール (アイコンで表示)、および日常の作業に使用するサブパネルがあります。また、ワークスペース・スイッチも提供され、これを使用して異なる作業領域間を移動できます。フロント・パネルから使用できるデフォルトのアプリケーション、およびサブパネルとワークスペースの使用方法についての詳細は、第 3 章に説明しています。

図 1-3 に、省略時の CDE フロント・パネルを示します。

図 1-3: CDE フロント・パネル



フロント・パネルやサブパネルでのコントロールの追加と削除、ワークスペースの追加と削除、およびワークスペースの名前変更によって、フロント・パネルをカスタマイズできます。デスクトップの使用について熟知しているユーザーであれば、フロント・パネルをカスタマイズするための構成ファイルを作成することもできます。フロント・パネルのカスタマイズについての説明は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。また、構成ファイルの作成についての説明は、『*Common Desktop Environment: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド*』を参照してください。

1.1.2 ワークスペース

ワークスペースとは、スクリーンの表示領域です。CDE では、フロント・パネルにある「ワークスペース 1」～「ワークスペース 4」のついたワークスペース・スイッチを使用して、異なるワークスペース間を移動できます。あるワークスペースから別のワークスペースに切り替えることにより、複数の作業領域を使用することができます。たとえば、1 つのワークスペースをメール管理用に、別のワークスペースをプロジェクト管理用にといった具合に使用できます。フロント・パネルは、各ワークスペースで使用できます。

図 1-4: ワークスペース・スイッチ



省略時の設定では，ワークスペースが 4 つありますが，新しいワークスペースの追加，元のワークスペースの削除，またはワークスペースの名前の変更が可能です。詳細については，第 3 章を参照してください。

1.2 デスクトップおよびアプリケーションの管理

デスクトップには，ファイル・マネージャ，アプリケーション・マネージャ，およびスタイル・マネージャがあります。各マネージャにはそれぞれ，デスクトップ環境に固有のコントロールが提供されています。これらのコントロールについて，次に説明します。

- ファイル・マネージャ

ファイル・マネージャは，ファイル，ディレクトリ，アプリケーションなどのデスクトップ・オブジェクトを画面表示します。すべてのオブジェクトは，アイコンで表示されます。ファイル・マネージャのドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用すると，簡単にファイルおよびディレクトリの操作，他のアプリケーションとの対話を行うことができます。

図 1-5: ファイル・マネージャ



- アプリケーション・マネージャ

アプリケーション・マネージャは、システムで使えるアプリケーションおよびその他のツールを起動できる特別なディレクトリ (フォルダ) です。使用できるアプリケーションの多くは、デスクトップに組み込まれているか、または自動的にインストールされたものですが、他のアプリケーションを追加してアプリケーション・マネージャをカスタマイズすることもできます。

図 1-6: アプリケーション・マネージャ



- スタイル・マネージャ

スタイル・マネージャを使用すると、デスクトップの表示をカスタマイズできます。スタイル・マネージャで制御できるのは、ワークスペースの色とパレット、フォント、背景パターン、キーボード・クリック、文字のリピート、マウス・ボタンの設定、音声、スクリーン・ブランクとスクリーン・ロック、ウィンドウ・フォーカス、アイコンの配置、およびセッションの開始方法と終了方法などです。

図 1-7: スタイル・マネージャ



これらのアプリケーションおよびツールの管理に関する補足情報は、第 4 章を参照してください。デスクトップおよびシステム管理アプリケーションを使用する方法については、第 5 章を参照してください。

1.3 詳しい情報の入手

ドキュメントは、オンライン (CD-ROM) およびハードコピーで提供されています。CDE についての情報は、オンライン・ヘルプ、およびリファレンス・ページからも入手できます。

- 1.3.1 項では、ドキュメントについて説明します。
- 1.3.2 項では、ネットスケープ・ナビゲータを使用して、オンラインでドキュメント・セットを表示する方法について説明します。
- 1.3.3 項では、CDE オンライン・ヘルプの使用方法について説明します。
- 1.3.4 項では、マニュアル・ページ・ビューアまたは `man` コマンドを使用してリファレンス・ページを表示する方法について説明します。

1.3.1 マニュアルとガイド

ドキュメント・セットは、一般ユーザ、プログラマ、および ToolTalk プログラマを対象にしています。表 1-1 ~ 表 1-3 で、対象読者別にこれらのマニュアルをグループ分けし、それぞれのドキュメント・セットについて説明しています。なお、以下の表でタイトルが日本語のドキュメントについては、日本語版が提供されています。

表 1-1 に、一般ユーザを対象としたドキュメントを示します。

表 1-1: ユーザ・ドキュメント

マニュアル	説明
<i>Common Desktop Environment: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド</i>	CDE 環境における高度なカスタマイズの実行方法について説明します。
<i>Common Desktop Environment: Dtksh ユーザーズ・ガイド</i>	Korn シェル (kshell) スクリプトで Motif アプリケーションを作成する場合に必要な情報を提供します。
<i>Common Desktop Environment: Product Glossary</i>	CDE で使用される用語が包括的にリストされており、すべてのデスクトップ・ユーザのための情報源および参照情報として役立ちます。
<i>Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド</i>	CDE の基本的な機能を説明し、デスクトップの使用法およびファイル・マネージャやアプリケーション・マネージャなどのデスクトップ・アプリケーションの使用法について説明します。

表 1-2 に、おもにプログラマを対象としたドキュメントを示します。

表 1-2: プログラミング・ドキュメント

マニュアル	説明
<i>Common Desktop Environment: アプリケーション・ビルダ・ユーザーズ・ガイド</i>	CDE アプリケーションを開発するための対話ツールである、アプリケーション・ビルダについて説明します。
<i>Common Desktop Environment: プログラマーズ・ガイド(ヘルプ・システム編)</i>	アプリケーション・ソフトウェアのオンライン・ヘルプを開発する方法、オンライン・ヘルプをアプリケーションに組み込む方法について説明します。
<i>Common Desktop Environment: プログラマーズ・ガイド(国際化対応編)</i>	アプリケーションをローカライズして、一定のユーザ・インタフェースで、さまざまな言語、さまざまな文化に基づいた表記法をサポートできるように、アプリケーションを国際化する方法について説明します。
<i>Common Desktop Environment: プログラマーズ・ガイド</i>	アプリケーション開発のための情報として、CDE を構成する要素とその使用方法について説明します。
<i>Common Desktop Environment: プログラマ概要</i>	新しい CDE アプリケーションの構築、アプリケーションのデスクトップへの組み込み、アプリケーション設計上の問題について概要を説明します。
<i>Common Desktop Environment: スタイル・ガイド</i>	アプリケーション設計スタイルのガイドラインを提供し、CDE レベルの認証における必要要件を説明します。

表 1-3 に、ToolTalk プログラマを対象としたドキュメントを示します。

表 1-3: ToolTalk ドキュメント

マニュアル	説明
<i>Common Desktop Environment: ToolTalk メッセージの概要</i>	ToolTalk のコンポーネント、コマンド、およびエラー・メッセージについて説明します。
<i>Common Desktop Environment: ToolTalk Reference Manual</i>	ToolTalk サービスにおけるアプリケーション・インタフェース (API) のコンポーネント、コマンド、およびエラー・メッセージについて説明します。
<i>Common Desktop Environment: ToolTalk User's Guide</i>	ToolTalk サービスおよび ToolTalk メッセージを送受信するためのアプリケーションの変更方法について説明します。

1.3.2 ネットスケープ・ナビゲータによるオンライン・ドキュメントの表示

オンライン・ドキュメント・セットは、HTML (Hypertext Markup Language) 形式のバージョンを利用することができます。

ネットスケープ・ナビゲータ・アプリケーションを使用して、HTML 形式のドキュメントを表示することができます。オペレーティング・システムの本バージョンでは、Netscape Communicator 4.5 が一緒に出荷されますが、ネットスケープ・ナビゲータはこれに含まれています。詳細については、『インストレーション・ガイド』を参照してください。

ドキュメントをオンラインで参照するには、次の手順でネットスケープ・ナビゲータを使用します。

1. root としてログインするか、または su コマンドを使用して root 特権を取得します。
2. CD-ROM をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。
3. システムに接続されている CD-ROM デバイスが 1 台だけの場合は、次のコマンドを使用して、/usr/share/doclib/online の下に、CD-ROM をマウントします。

```
# mount -r -t cdfs -o rrip /dev/disk/cdrom0c /usr/share/doclib/online
```

CD-ROM デバイスが複数ある場合は、次のようなコマンドを入力して、システムに接続されている CD-ROM デバイスを判断したのち、使用する CD-ROM デバイスを決定します。

```
#ls /dev/disk/cdrom*c
```


```
/dev/disk/cdrom0c
```


```
/dev/disk/cdrom1c
```

注意

日本語ドキュメントと英文ドキュメントはそれぞれ別の CD-ROM で提供されています。

4. 次のいずれかの方法で、CDE デスクトップからネッスケーブ・ナビゲータを起動します。

- a. CDE フロント・パネルで「テキスト・エディタ」アイコン  の上の矢印をクリックして、「個人アプリケーション」サブパネルを表示します。

- b. ネッスケーブ・アイコン  をクリックします。

- c. 端末エミュレータ・ウィンドウから、次のコマンドを入力し、バックグラウンドでネッスケーブ・ナビゲータを実行します。

```
$ /usr/bin/X11/netscap &
```

オプションについての情報は、netscape(1) リファレンス・ページを参照してください。

5. 「ナビゲータ」ウィンドウで

/usr/doc/netscap/Digital_UNIX.html ファイルをオープンして、ホーム・ページをロードします。


注意

このホームページからアクセスできるのは、英文ドキュメントだけです。日本語ドキュメント CD-ROM に含まれている日本語 CDE ドキュメントを参照する場合は、
/DOCS/HTML/LIBRARY.HTM にアクセスしてください
(『リリース・ノート』を参照)。

6. Tru64 UNIX Documentation を選択します。
7. 「ブックマーク」メニューから「ブックマークを追加」メニュー項目を選択して、このページを将来の使用のために保管します。

1.3.3 オンライン・ヘルプ

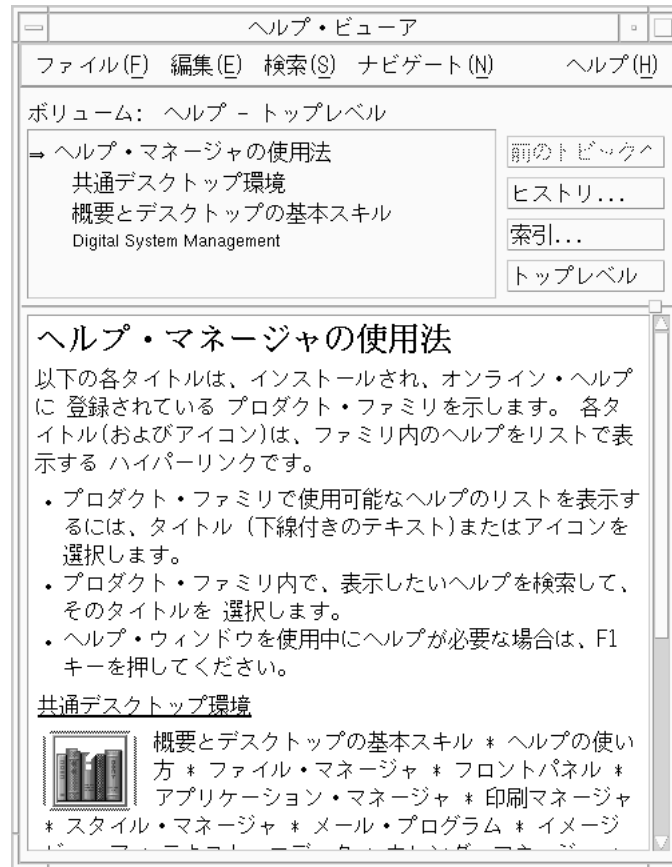
オンライン・ヘルプでは、CDE インタフェースおよびアプリケーションに関する詳しい説明が提供されます。

- フロント・パネルからヘルプ・マネージャ  をクリックして、ヘルプ・ボリュームにアクセスします。
- アプリケーション内からヘルプ・ボリュームにアクセスするには、Help メニューをクリックします。

1.3.3.1 ヘルプ・マネージャの使用方法

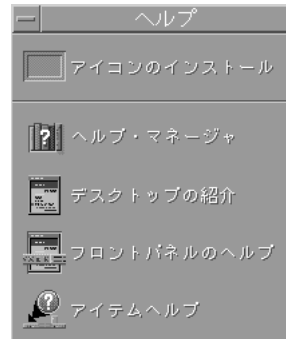
ヘルプ・マネージャは、特殊なヘルプ・ボリュームであり、フロント・パネルから利用できます。これは、システムに登録されているすべてのオンライン・ヘルプをリストします。登録されているオンライン・ヘルプを参照するには、ヘルプ・マネージャ・アイコンをクリックします。ヘルプ・マネージャのオンライン・ヘルプ・ボリューム内をナビゲートするには、任意の下線つきトピックをクリックし、ヘルプ・メニューとボタンを使用します。

図 1-8: オンライン・ヘルプ



ヘルプ・マネージャ・アイコンの上には矢印がついていて、サブパネルが使用できることを示しています。デスクトップおよびフロント・パネルに関する特定のヘルプ・トピックを見るには、その矢印をクリックします。サブパネルには、フロント・パネルに関するアイテム・ヘルプも提供されています。アイテム・ヘルプは、対話形式になっています。このオプションをクリックすると、ポインタが疑問符 (?) に変わり、ポインタをフロント・パネルまたはサブパネルの項目に合わせて離すと、その項目に関するヘルプを表示することができます。

図 1-9: ヘルプ・マネージャのサブパネル



1.3.3.2 アプリケーションのヘルプ・メニューの使用

ヘルプ・ボリュームの中からヘルプにアクセスするには、「ヘルプ」メニューをクリックします。オンライン・ヘルプ・ボリュームは、いくつかの節に分割されています。表 1-4 に、オンライン・ヘルプ・ボリュームの内容について説明します。

表 1-4: オンライン・ヘルプ・ボリュームの内容

メニュー項目	説明
概要	アプリケーションの目的、起動方法、終了方法について説明します。
使い方	アプリケーションの一般的な使用方法について、例を示しながら手順に従って説明します。
リファレンス	アプリケーション内の各ウィンドウ、ダイアログ・ボックス、メニューについて説明するとともに、トラブルシューティング情報も示します。
アイテムヘルプ	疑問符に変わったポインタを、ウィンドウやダイアログ・ボックスの任意の箇所でクリックすることにより、特定のフィールドまたはウィンドウ領域に関するヘルプ情報を取得することができます。
ヘルプの使い方	オンライン・ヘルプの編成方法と使用方法について説明します。
アプリケーションについて	アプリケーションのバージョンや著作権に関する情報を表示します。

1.3.4 リファレンス・ページ

リファレンス・ページは、マンページ (manpage) と呼ばれ、システム上の各コマンドやアプリケーションのコマンド形式や機能の説明を提供するためのオンライン・ヘルプです。リファレンス・ページのサブセットがシステムにインストールされている場合には、次のいずれかのツールを使用してリファレンス・ページにアクセスできます。

- 1.3.4.1 項では、キーワードを使用して、コマンドやアプリケーションのリファレンス・ページを見つける方法について説明します。
- 1.3.4.2 項では、端末エミュレータ・ウィンドウで `man` コマンドを入力して、リファレンス・ページを参照する方法について説明します。
- 1.3.4.3 項は、マニュアル・ページ・ビューアについて説明します。これは、リファレンス・ページの表示および印刷ができるグラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI) です。

1.3.4.1 コマンドおよびアプリケーションのリファレンス・ページの検索

コマンドまたはアプリケーションに関連するリファレンス・ページがわからない場合には、`-k` フラグを指定した `man` コマンド、または `apropos` コマンドのいずれかと一緒にキーワードを使用することにより、目的のリファレンス・ページを検索することができます。

たとえば、GIF グラフィック形式に関連するリファレンス・ページを検索するには、次のように入力します。

```
$ man -k gif
gif2tiff (1) - create a .SM TIFF file from a GIF87 format image file
giftoppm (1) - convert a GIF file into a portable pixmap
ppmtogif (1) - convert a portable pixmap into a GIF file
$
```

出力として、名称の行のタイトルまたは説明のいずれかに、*gif* または *GIF* という文字列のあるリファレンス・ページが表示されます。検索では、大文字/小文字は区別されません。`apropos` コマンドと `man -k` コマンドは同等の処理をし、出力も同じになります。

CDE セッション・マネージャを起動するコマンド行に関するリファレンス・ページを検索するには、次のように入力します。

```
$ apropos session
```


出力を見ると、次の行が含まれているのがわかります。

```
dtsession (1) - the CDE Session Manager
```

したがって、`dtsession(1)` のリファレンス・ページにアクセスすることができます。

1.3.4.2 man コマンドの使用法

端末エミュレータ・ウィンドウ上でリファレンス・ページを参照するには、`man` コマンドに続けて、参照したいコマンドやアプリケーションの名前を入力します。たとえば、CDE セッション・マネージャのリファレンス・ページを参照するには、次のように入力します。




```
$ man dtsession
```

詳細については、`man(1)` リファレンス・ページを参照してください。
キーワードを使用してコマンド名およびアプリケーション名を調べる方法については、1.3.4.1 項を参照してください。

1.3.4.3 マニュアル・ページ・ビューアの使用法

マニュアル・ページ・ビューアでは、リファレンス・ページの表示や印刷ができるグラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI) を提供します。

マニュアル・ページ・ビューアを使用してリファレンス・ページを参照する方法は、次のとおりです。

1. アプリケーション・マネージャ  をクリックします。
2. デスクトップアプリケーション・アイコン  をダブル・クリックします。
3. 次のいずれかの方法で、リファレンス・ページを表示することができます。
 - マニュアル・ページ・ビューアのアイコン  をダブル・クリックして、参照したいリファレンス・ページの名前を入力します。リファレンス・ページ名が複数のセクションにある場合 (たとえば

`make(1)` と `make(1p)` には、*command.section* という形式を使用することができます。後者の例では、`make.1p` と入力します。

- リファレンス・ページ・アイコンを、ファイル・マネージャからマニュアル・ページ・ビューア・アイコンの上へドラッグ・アンド・ドロップします。たとえば、ファイル・マネージャで `/usr/man/man1` ディレクトリを参照している場合は、`man.1.gz` ファイルのアイコンをクリックし、それをマニュアル・ページ・ビューア・アイコンの上にドラッグしてドロップすると、`man(1)` リファレンス・ページが表示されます。

キーワードを使用してコマンドおよびアプリケーションの名前を調べる方法についての説明は、1.3.4.1 項を参照してください。

CDE の開始

CDE (Common Desktop Environment)では、オペレーティング・システムとの対話に使用するビジュアルなデスクトップが提供されます。この章では、デスクトップ環境で処理を行うための、基本的な操作方法について説明します。また、デスクトップ・セッションの開始、一時停止、および終了の方法についても説明します。

この章では、次の事項について説明します。

- CDE デスクトップでのナビゲート
- ウィンドウの使用方法
- セッションの開始
- セッションの一時停止
- セッションの終了

2.1 CDE デスクトップでのナビゲート

CDE デスクトップ内のナビゲートは、マウスまたはキーボードを使用して行います。どちらを使用しても、デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスおよび対話が可能です。次の各項では、マウスおよびキーボードによる制御について説明します。

この節では、次の事項について説明します。

- マウスの使用方法
- キーボードの使用方法

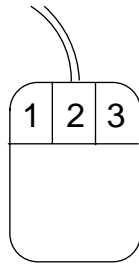
2.1.1 マウスの使用方法

マウスは、ワークステーションに接続されている、3つのボタンを備えた制御装置です。平らな面の上でマウスを動かすと、それに伴ってデスクトップに表示されるポインタが動きます。ポインタは、省略時の設定では矢印

のような形をしていますが、実行されるアクションに応じて変化します。
マウス・ポインタを使用してタスクを実行する場合には、実行する対象の上にポインタを合わせてアクションを指定します。

3つのマウス・ボタンは、実行されるアクションのタイプを決定します。省略時の設定では、左側のボタンがマウス・ボタン 1、中央のボタンがマウス・ボタン 2、右側のボタンがマウス・ボタン 3 です。マウス・ボタンを押して離すと、アクションが実行されます。

図 2-1: マウスのボタン



マウス・ボタン 1 は、通常、次の処理を行うために使用されます。

- アプリケーションの起動
- デスクトップまたはアプリケーション内のオブジェクトの選択および管理
- テキストのカット・アンド・ペースト
- デスクトップ上のオブジェクトの移動
- デスクトップ上のオブジェクトのサイズ変更

マウス・ボタン 2 は、コピー・アンド・ペーストの操作やオブジェクトの移動に使用できます。マウス・ボタン 2 は、CDE Window List の表示にも使用することができます (3.2.2.2 項で説明)。

マウス・ボタン 3 は、ポップアップ・メニューの表示および操作に使用されます (2.2.2.2 項で説明)。

マウスを使用してデスクトップおよびアプリケーションと対話する場合には、通常はクリック、ダブルクリック、またはドラッグ・アンド・ドロップの操作の指示があります。

- マウスでオブジェクトをクリックするには、オブジェクトをポイントして、指定されているマウス・ボタンを押して離します。

- マウスでオブジェクトをダブルクリックするには、オブジェクトをポイントして、指定されているマウス・ボタンを 2 回続けてクリックします。
- マウスでオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップするには、オブジェクトにポインタを合わせ、指定されているマウス・ボタンを押したままポインタ (およびオブジェクト) を新しい位置に移動させます。マウス・ボタンを離して、オブジェクトを新しい位置にドロップします。

マウスの使用方法についての詳しい説明は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

2.1.2 キーボードの使用方法

マウスの代わりに、キーボードを使用してデスクトップと対話することもできます。キーボードをナビゲータとして使用するには、アクションを完成させるためにキーを組み合わせます。キーボードを使用して実行できるアクションは、次のとおりです。

- アプリケーションの起動
- デスクトップ上のオブジェクトの選択
- デスクトップ上のオブジェクトのサイズ変更
- デスクトップ上のオブジェクトの移動
- アプリケーション内でのスクロール・バーの操作
- オブジェクトの表示および選択

この章で説明しているタスクのほとんどは、マウスまたはキーボードを使用して実行できますが、マウスの使用例しか記述していないことがあります。タスクを完了するためのキーボードの使用についての指示は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

注意

本書では、**Delete** キーや **Alt/F11** などの特定のキーやキーの組み合わせを使用するように指示している場合があります。使用しているキーボードに指定のキーがない場合は、キーボードのハードウェア・マニュアルを参照するか、または第 8 章を読んで、キーボードの設定をカスタマイズしてください。

2.2 ウィンドウの使用方法

ほとんどのアプリケーションは、起動するとフレームのついた長方形のウィンドウがデスクトップ上に表示されます。アプリケーションによっては、2つ以上のウィンドウが表示されることもあります。

ウィンドウは、それ自体が作業領域で、アプリケーションと対話する場所です。ウィンドウ・フレームにはさまざまなコントロールがついており、ウィンドウの管理に使用します。ウィンドウ・コントロールは、タイトル・バー、サイズ変更枠、ボタン、およびスクロール・バーから構成されます。ウィンドウによっては、メニュー・バーを持つものもあります。

メニュー・バーでは、ウィンドウやアプリケーションのより詳細な操作のための、メニューおよびメニュー項目を選択できます。メニュー項目を選択すると、ダイアログ・ボックスがオープンされることもあります。ダイアログ・ボックスは、ウィンドウに似ており、システムまたはアプリケーションと対話するための手段として提供されます。

次の各項では、ウィンドウ・コントロールについて説明し、さらにウィンドウ、メニュー、およびダイアログ・ボックスの管理について説明します。アクションを完成させるには、マウスまたはキーボードを使用するテクニックについてよく知っておく必要があります。この章の残りの節では、マウスによる使用方法について示します。

この節では、次の事項について説明します。

- ウィンドウ・コントロールの管理
- 複数のウィンドウ、メニュー、およびダイアログ・ボックスの管理

2.2.1 ウィンドウ・コントロールの管理

通常、ウィンドウ・フレームは、タイトル・バー、サイズ変更枠、ボタン、およびスクロール・バーから構成されます。表 2-1 に、これらの機能を示します。

図 2-2: ウィンドウのコンポーネント

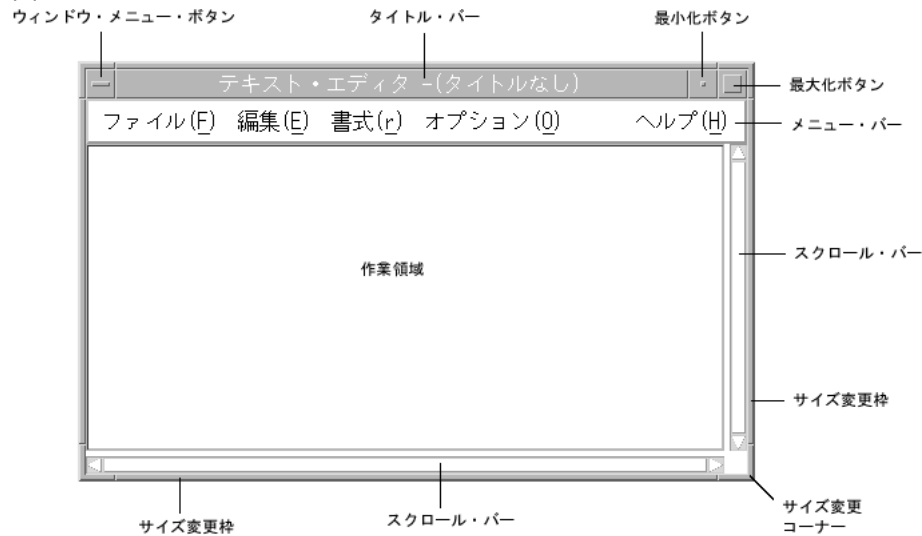


表 2-1: ウィンドウ・コントロール

ウィンドウ・コントロール	説明
タイトル・バー	<p>アプリケーションの名前を表示し、ウィンドウ・メニュー・ボタン、最小化ボタン、および最大化ボタンを含みます。</p> <p>ウィンドウ・メニュー・ボタンをクリックしてウィンドウ・メニューを表示した後、メニュー項目をクリックしてウィンドウの特性を変更します。ウィンドウ・メニュー・ボタンをダブルクリックすると、アプリケーションがクローズされます (終了します)。</p> <p>最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウがアイコン化されます。アイコンは、オブジェクトをグラフィックで表示したものです。アイコンをリストアするには、それをダブルクリックします。</p> <p>最大化ボタンをクリックすると、ウィンドウが最大サイズで表示されます。ウィンドウを元のサイズにリストアするには、最大化ボタンを再びクリックします。</p>

ウィンドウ・コントロール	説明
サイズ変更枠およびコーナー	ウィンドウのサイズを大きく、あるいは小さくします。枠あるいはコーナーのいずれかをドラッグして、ウィンドウのサイズを変更します。
スクロール・バー	現在の作業領域に表示されていない (隠れている) テキストまたはグラフィックなどの情報を見ることができます。水平スクロール・バーまたは垂直スクロール・バー、あるいはその両方を自由に使用できます。スクロール用の矢印をクリックするか、またはスクロール・バーにポインタを合わせて必要な方向にマウスを動かすことによって、スクロール・バーをスライドします。

2.2.2 複数のウィンドウ，メニュー，およびダイアログ・ボックスの管理

アプリケーションを実行すると、ウィンドウがオープンします。たいいていの場合、複数のアプリケーションを同時に実行するので、2 つ以上のウィンドウがデスクトップ上で同時にオープンされます。さらに、ほとんどのアプリケーション・ウィンドウにはメニュー・バーがあり、アプリケーションによっては、2 つのウィンドウをオープンするもの、またはダイアログ・ボックスを提供するものがあります。

次の各項では、ウィンドウ，メニュー，およびダイアログ・ボックスの管理の概要について説明します。

2.2.2.1 複数ウィンドウの操作

ウィンドウ・コントロールの使用は、ウィンドウの管理のための 1 つの方法です。マウスおよびキーボードを使用して、複数のウィンドウを管理することもできます。以下に、マウスを使用して実行できるいくつかのアクションをリストします。

- ウィンドウの任意の場所をポイントし、マウス・ボタン 1 または 2 をクリックして、ウィンドウをアクティブにします。ウィンドウは、サイズ変更枠またはタイトル・バーをポイントし、マウス・ボタン 2 をクリックしてもアクティブにすることができます。ウィンドウのタイトル・バーが変化して、ウィンドウが入力可能になったことを示します。

- ウィンドウのタイトル・バーまたはアイコンをポイントして、ウィンドウまたはウィンドウ・アイコンを新しい位置にドラッグし、そのウィンドウまたはウィンドウ・アイコンを移動します。
- 一部が隠れているウィンドウまたはウィンドウ・アイコンの任意の場所をクリックして、そのウィンドウまたはウィンドウ・アイコンをデスクトップの一番前に移動します。
- 次の手順に従って、あるウィンドウからテキストをコピーし、別のウィンドウにペーストします。

1. コピーしたいテキストの開始部分にポインタを移動します。
2. ポインタをテキストの終了部分までドラッグして、マウス・ボタンを離すと、コピーしたいテキストが強調表示されます。
3. テキストを挿入したい位置をポイントします。
4. マウス・ボタン 2 をクリックして、テキストをペーストします。

選択したテキストをペーストする必要がなくなった場合は、選択したテキストを含むウィンドウ内にポインタを保持したまま、空白の領域を指して、マウス・ボタンを離します。

詳細については、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

2.2.2.2 メニューの操作

メニューには、ウィンドウ、アプリケーション、およびデスクトップとの対話に使用できる項目のリストが提供されます。また、メニュー項目により、選択したオブジェクトに対して実行されるアクションを指定する場合もあります。メニュー項目が薄く表示されている場合は、その項目が現在は使用できず、別の条件の場合に使用できることを示します。

表 2-2 に、3 つのタイプのメニューをリストします。

表 2-2: メニュー・タイプ

メニュー・タイプ	説明
プルダウン	<p>タイトル・バーのすぐ下にあるアプリケーション・メニュー・バーに配置されます。1 つのメニュー・バーに、1 つまたは複数のプルダウン・メニューが入っていることがあります。</p> <p>メニューをプルダウンするには、メニュー名をクリックします。</p> <p>メニュー項目を選択するには、メニュー名をクリックしてから、そのメニュー項目をクリックします。</p>
ポップアップ	<p>一部のアプリケーション、デスクトップ・オブジェクト、およびワークスペース自体の中で表示されます。アプリケーションでは、このメニューにある項目とプルダウン・メニューにある項目が重複していることがあります。ポップアップ・メニューにプルダウン・メニューの項目をまとめると、アプリケーションで作業する際の使い勝手がさらによくなります。</p> <p>メニューをポップアップするには、アプリケーション・ウィンドウ内、デスクトップ・オブジェクト上、またはデスクトップ上でマウス・ボタン 3 をクリックします。</p>
オプション	<p>ダイアログ・ボックス内に表示されます。オプション・メニューは、ボタンで表示され、2 つ以上の項目が入っていても、アクティブ・オプションしか表示されません。</p> <p>すべてのメニュー項目を見るには、オプション・メニュー (ボタン) をクリックします。</p> <p>オプション・メニューからメニュー項目を選択するには、オプション・メニュー (ボタン) をクリックしてから、該当する項目をクリックします。</p>

後ろに矢印がついているメニュー項目を選択すると、サブメニューがオープンされます。サブメニューにある項目をクリックして、その項目を選択します。後ろに 3 つのドット (...) がついているメニュー項目を選択すると、選択を限定する追加情報のダイアログ・ボックスがオープンされます。

詳細については、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

2.2.2.3 ダイアログ・ボックスの操作

アプリケーションによっては、ダイアログ・ボックスを持つものがあります。通常、ダイアログ・ボックスには、アクションを実行する前に追加的な情報の入力を行います。ダイアログ・ボックスには、いくつかの種類のコントロールが表示されます。ダイアログ・ボックスによっては、いくつかのコ

ントロールを使用できるものと、1 つのコントロールしか使用できないものがあります。

表 2-3 に、ダイアログ・ボックスで使用できるコントロールをリストします。

表 2-3: ダイアログ・ボックスのコントロール

コントロール	用途
テキスト入力ボックス	要求された情報を入力するためのフィールドを提供します。挿入カーソルは、テキストを入力する位置を示します。カーソルがフィールド内で点滅していると、テキスト入力ボックスは入力可能になっています。カーソルが点滅していない場合は、テキスト入力ボックスをクリックして、アクティブ化します。削除キーを使用して、フィールド内の文字を削除できます。
ラジオ・ボタン	使用できるオプションのリストを提供します。ラジオ・ボタンをクリックして、オプションのリストを見ることができます。
チェック・ボタン	有効と無効の設定を制御します。チェック・ボタンをクリックして、有効と無効の設定を切り替えます。
スライダおよびスケール	数値を選択します。スライダまたはスケールをドラッグして、値を選択します。
リスト・ボックス	オプションのメニューを提供します。リスト・ボックスに多くのオプションが入っている場合には、スクロール・バーが表示されます。オプションを選択するには、それをクリックします。
プッシュ・ボタン	質問に対する答え、入力した情報をアプリケーションが処理する方法の指示、またはオプション・セットの提供に使用されます。プッシュ・ボタンの操作を実行するには、それをクリックします。

ダイアログ・ボックスについての詳しい説明は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

2.3 セッションの開始

ログイン・マネージャは、図 2-3 に示すログイン画面を表示します。ログイン画面には、ユーザ名およびパスワードを入力するためのフィールドがあります。また、スクリーンの下部のいくつかのプッシュ・ボタンを使用して、ログイン・セッションを管理します。

図 2-3: ログイン画面



この節では、次の事項について説明します。

- 言語の選択
- セッションの選択
- ログイン画面・オプションのリセット

ボタン ^a	説明
了解 (OK)	入力した情報が正しいことを示します。
やり直し (Start Over)	不正な情報を入力した場合、または位置がわからなくなった場合に、ログイン画面をリセットします。
オプション (Options)	オプション・メニューを表示します。オプション・メニューを使用して、開始したいセッション・タイプの選択および言語の指定を行います。
ヘルプ (Help)	ログイン画面の使用方法についての詳しい情報を提供します。

^aこれらのボタンのラベルは、システムの省略時の言語が日本語に設定されている場合は日本語で表示され、Cロケールに設定されている場合は英語で表示されます。

セッションを開始するには、次のいずれかの操作を行います。

1. ユーザ名をタイプしたら、リターン・キーを押すか、または OK をクリックします。
2. 「オプション」メニューがある場合は、メニューから必要なオプションを選択できます。
3. パスワードをタイプしたら、リターン・キーを押すか、または OK をクリックします。

2.3.1 言語の選択

システムの省略時設定の言語は、システム管理者により設定されます。ただし、次の手順に従って、オプション・メニューを使用することにより、システムに組み込まれているその他の言語にアクセスできます。

1. 「オプション」メニューをクリックします。
2. 「言語 (Languages)」メニュー項目をクリックして、言語グループを選択します。
3. 言語を選択します。

「オプション」メニューから言語を選択すると、LANG 環境変数が設定されます。セッション終了時に、省略時設定の言語がリストアされます。

2.3.2 セッションの選択

セッションを選択すると、ログイン・セッション中の作業環境の設定が決定されます。通常のデスクトップ・セッション、フェイルセーフ・セッション、あるいはコマンド行セッションを開始するためのオプションが提供されます。

次の手順に従って、「オプション(Options)」メニューからセッションを選択します。

1. 「オプション(Options)」メニューをクリックします。
2. 「セッション (Session)」メニュー項目をクリックします。
3. 開始したいセッションのタイプを選択します。

通常のデスクトップ (Regular Desktop) セッションは、CDE セッション・マネージャを起動します。CDE デスクトップ・セッションを開始すると、コンソール・ウィンドウおよびフロント・パネルが表示されます。コンソールには、セッション時に受信したすべてのシステム・メッセージが表示されます。フロント・パネルからは、アプリケーションおよびワークスペースにアクセスできます。フロント・パネルについての説明は、第 3 章を参照してください。

フェイルセーフ (Failsafe) セッションは、ターミナル・ウィンドウをオープンして、ウィンドウ・マネージャを開始します。フェイルセーフ・セッショ

ンへのログインは、デスクトップ・セッションを開始する前にコマンドを実行したい場合に有効です。たとえば、セッションを開始する前に解決しておきたい問題がある場合です。


コマンド行ログイン・セッションは、デスクトップを中断して、ベース・オペレーティング・システム環境、つまりウィンドウを持たない環境で作業する手段を提供します。ログイン・マネージャがアクティブではなく、X サーバが実行されないので、ログイン画面は表示されません。

2.3.3 ログイン画面・オプションのリセット

選択したオプションが必要なオプションではない場合には、ログイン画面をリセットできます。ログイン画面をリセットすると、選択したすべてのオプションは、省略時の値に戻されます。

2.4 セッションの一時停止


現在のセッションをしばらくの間離れたい場合には、セッションを無期限に一時停止できます。セッションを一時停止するとワークステーションがロックされますが、すでに開始されていたアプリケーションは、継続して実行されます。次のように、作業する環境によって、セッションの一時停止の方法は異なります。

- CDE セッションを一時停止する場合は、フロント・パネルのワークスペース・コントロールの左脇にある鍵のアイコンのロック・コントロール  をクリックします。
- フェイルセーフ・セッションを一時停止する場合は、コマンド行プロンプトに `dxppause` コマンドを入力します。

セッションを一時停止すると、空白のスクリーンがワークステーションのスクリーン上に配置され、ディスプレイがロックされたことを示すダイアログ・ボックスが表示されます。スタイル・マネージャを使用して、別のスクリーン・サーバを表示するよう設定することもできます。テキスト入力ボックスにパスワードを入力すると、セッションが再開されます。

2.5 セッションの終了

次のように、作業する環境によって、セッションの終了方法は異なります。

- CDE セッションを終了するには、フロント・パネルにある Exit ボタン  をクリックします。ダイアログ・ボックスが表示されて、セッションを終了するかどうか尋ねられます。ログアウト処理の継続、ログアウト処理の取り消し、またはヘルプの選択のいずれかを選ぶことができます。

このセッションでの設定はすべて、保存およびリストアをサポートしているすべてのアプリケーションも含めて保存され、次回のセッション時にリストアされます。つまり、セッションの終了時にオープンされていた、保存およびリストアをサポートしているすべてのアプリケーションは、再ログイン時にオープンされます。アプリケーションによっては、すべての作業をリストアするものと、そのアプリケーションのメイン・スクリーンしかリストアしないものがあります。

スタイル・マネージャの起動コントロールで他のオプションを指定して起動オプションを変更している場合には、次回のセッションの状態は、ユーザの選択によって決定されることになります。

- フェイルセーフ・セッションを終了するには、端末エミュレータ・ウィンドウのコマンド行プロンプトに `exit` コマンドを入力します。
- コマンド行ログイン・セッションを終了するには、コマンド行プロンプトに `exit` コマンドを入力します。



フロント・パネルの使用法

フロント・パネルは、ワークスペースの下部に水平に表示されます。これには、アプリケーションの起動、デスクトップ・セッションでのタスクの管理、またはワークスペースの変更に使用するコントロール (またはツール) が表示されます。各コントロールは、その用途を示すアイコンで表されています。

この章では、省略時の設定で利用できるフロント・パネル上のコントロールについて説明し、さらにサブパネルとワークスペースの使用法について説明します。

この章では、次の事項について説明します。

- フロント・パネルの概観
- フロント・パネルのメニューおよびワークスペースの使用

3.1 フロント・パネルの概観

省略時の設定では、フロント・パネルに、デスクトップ・セッションの管理に利用できるいくつかのコントロールが提供されます。クロックなどのコントロールは表示専用で、アクションを実行しません。メールなどのコントロールは、アクションを実行します。つまり、メールを使用してメッセージの送受信ができます。

図 3-1 に、省略時の CDE フロント・パネルを示します。

図 3-1: CDE フロント・パネルのコントロール

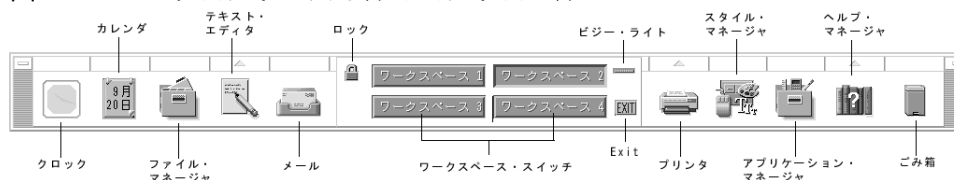


表 3-1に、使用できるフロント・パネルのコントロールを示します。各ツールの使用方法についての詳しい説明は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

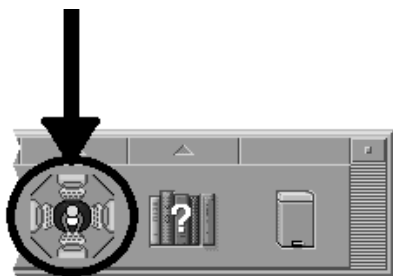
表 3-1: フロント・パネルのコントロール

アプリケーション	使用
クロック	時刻をアナログ形式で表示します。このコントロールをクリックしても、アクションは実行されません。
カレンダー	現在の月と日を表示します。このアプリケーションを使用して、アポイントメントおよび予定のスケジューリング、覚え書きの設定、他のカレンダーのブラウズ、およびグループ・アポイントメントのスケジューリングを行います。アポイントメント・ファイルをカレンダー・コントロールにドロップすると、カレンダー・データベースにそのアポイントメントが追加されます。
ファイル・マネージャ	ディレクトリ (フォルダ) とファイルを表示します。ディレクトリをファイル・マネージャ・コントロールにドロップすると、そのディレクトリがオープンされます。
テキスト・エディタ	文書またはメモを作成するためのテキスト・エディタ・ウィンドウをオープンします。ファイルをテキスト・エディタのアイコンにドロップすると、そのファイルがテキスト・エディタ・ウィンドウにオープンされます。
メール	メール・アプリケーションを起動します。このアプリケーションを使用して、メール・メッセージの送受信、保存、および転送を行います。ファイルをメール・コントロールにドロップすると、ドロップ・インしたファイルがアタッチメントとして、新規メッセージ・ウィンドウに表示されます。
ロック	セッションを無期限に一時停止します。セッションを一時停止すると、ワークステーションのディスプレイがロックされますが、アプリケーションは引き続き実行されます。セッションを再開するには、パスワードを入力します。
ワークスペース・スイッチ	ワークスペースを変更します。このスイッチを使用して、別の作業領域に移動します。省略時の設定では、ワークスペースは4つあります。
ビジー・ライト	アクションが実行中であることを示します。たとえば、アプリケーションを起動すると、ビジー・ライトが点滅します。アプリケーションの呼び出しが完了すると、ビジー・ライトは点滅しなくなります。このアイコンをクリックしても、アクションは実行されません。
Exit	セッションのログアウト処理を開始します。


アプリケーション	使用
プリンタ	省略時のプリンタの状態を表示します。ファイルをプリンタ・アイコンにドロップすると、そのファイルが省略時設定のプリンタにプリントされます。
スタイル・マネージャ	スタイル・マネージャ・アプリケーションをオープンします。このアプリケーションを使用して、環境の特性を変更します。
アプリケーション・マネージャ	システム上で使用できるアプリケーションおよびその他のツールを置く場所となるアプリケーション・マネージャを起動します。
SysMan Station	SysMan Station を開始します。SysMan Station は、ユーザがシステム・コンポーネントをビジュアルに選択し、それらのコンポーネントに適用できる SysMan アプリケーションを実行するグラフィカル・システム・マップです。これは、root としてログインした場合にのみ使用できます。図 3-2 に、SysMan Station コントロールを含む CDE フロント・パネルの一部を示します。
ヘルプ・マネージャ	使用可能な最上位レベルのオンライン・ヘルプ情報を表示します。マスタ・ヘルプ・ボリューム・ファイル (*.sdl) をヘルプ・マネージャにドロップすると、ヘルプ・ビューア・ウィンドウがオープンされ、そのボリュームの内容が表示されます。
ごみ箱	ごみ箱アプリケーションをオープンします。このアプリケーションを使用して、ファイルを削除します。ファイルをごみ箱コントロールにドロップすると、そのファイルは discard ディレクトリに送られます。

図 3-2 に、CDE フロント・パネルにある SysMan Station コントロールを示します。これは、root としてログインした場合にのみ使用できます。

図 3-2: CDE フロント・パネルの SysMan Station コントロール



3.2 フロント・パネルのメニューおよびワークスペースの使用方法

いくつかのフロント・パネルのコントロールの上には矢印  がついていて、サブパネルが使用できることを示しています。サブパネルは、デスクトップ・セッションの管理に使用できる、他のコントロールへのアクセスを提供するメニューです。省略時のサブパネルのメニューについての詳細は、3.2.1 項を参照してください。

フロント・パネルにあるすべてのコントロールには、ポップアップ・メニューがあります。ポップアップ・メニューには、コントロールをポイントして、マウス・ボタン 3 をクリックすることによりアクセスできます。通常、ポップアップ・メニューには、サブパネルの追加または削除に使用できるコントロール、あるいはオンライン・ヘルプ・ボリュームを見るためのコントロールが入っています。アクションを実行するテキスト・エディタなどのコントロールでも、メニューからのアクションの開始に使用できるポップアップ・メニュー・コントロールが提供されます。メニューの使用に関する一般情報については、表 2-2 を参照してください。

ワークスペース・メニューを使用して、ワークスペースを管理できます。ワークスペース・メニューは、ポップアップ・メニューで、ウィンドウやフロント・パネルなどの管理に使用できます。ワークスペース・メニューについての詳細は、3.2.2.1 項を参照してください。

CDE Window List を使用すると、複数のワークスペースでオープンしている多数のウィンドウの中からアプリケーション・ウィンドウを検索することができます。3.2.2.2 項で、CDE Window List の使用方法について説明します。

この節では、次の事項について説明します。

- サブパネル・メニューの使用方法
- ワークスペースの使用方法

3.2.1 サブパネル・メニューの使用方法

サブパネル・メニューを使用して、フロント・パネルの他のツール、またはコントロールにアクセスできます。また、フロント・パネルの各サブパネルには「アイコンのインストール」コントロールが提供されており、他のツールをサブパネルに追加するために使用できます。

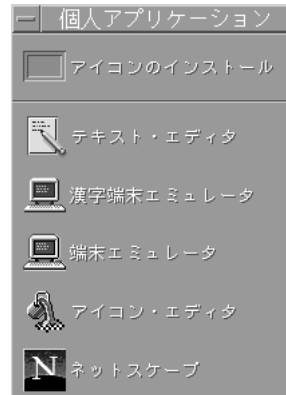
省略時の設定では、フロント・パネルからサブパネルを使用できるのは、個人アプリケーション、個人プリンタ、およびヘルプ・マネージャの 3 つです。サブパネルをオープンするには、コントロール・アイコン上部の矢印の部分をクリックします。root としてログインしている場合には、フロント・パネルの SysMan Station コントロールの上にある SysMan Applications サブパネルにもアクセスすることができます。

次の各項では、省略時の設定のサブパネルについて説明します。サブパネルの使用方法およびカスタマイズについては、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

3.2.1.1 個人アプリケーションのサブパネル

個人アプリケーションのサブパネルには、使用頻度の高いアプリケーションが入っています。これは、フロント・パネルにあるテキスト・エディタ・コントロールの上に配置されています。図 3-3 に、個人アプリケーションのサブパネルを示します。

図 3-3: CDE 個人アプリケーションのサブパネル



このサブパネルでは、次のメニュー項目が使用できます。

- アイコンのインストール

このコントロールを使用して、個人アプリケーションのサブパネルにアイコンを追加できます。アイコンを追加するには、ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャから、項目を「アイコンのインストール」コントロールまでドラッグして、マウス・ボタンを離します。その項目がサブパネルに追加されます。

- テキスト・エディタ

このコントロールを使用して、メモやメッセージなどのテキスト・ファイルを作成します。このコントロールは、フロント・パネルから使用できるテキスト・エディタ・コントロールと同じものです。

- 端末エミュレータ

このコントロールを使用して、ANSI 規格および ISO 規格に準拠する VT220 端末の一部をエミュレートする `dtterm` 端末エミュレータを起動します。この端末エミュレータを使用することによって、UNIX コマンドの入力、テキストのコピーおよびペースト、またはリモート・システムとの通信ができるようになります。

注意

ロケールによっては、`dtterm` の代わりに、DECwindows Motif 端末エミュレータの `dxterm` が、このサブパネルで使用されています。日本語ロケールの場合、「端末エミュレータ」アイコンによって `dtterm` が起動され、「漢字端末エミュレータ」アイコンによって `dxterm` が起動されます。詳細については、第 9 章を参照してください。

- アイコン・エディタ

このコントロールを使用して、`bitmap` フォーマットまたは `pixmap` フォーマットのアイコンおよび背景イメージの作成または修正を行います。

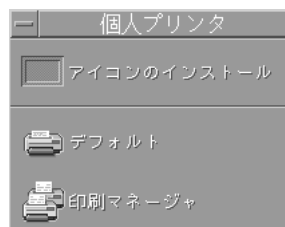
- ネットスケープ

このコントロールを使用して、ネットスケープ・ナビゲータを起動します。

3.2.1.2 個人プリンタのサブパネル

個人プリンタのサブパネルには、省略時設定のプリンタがリストされます。これは、フロント・パネルのプリンタ・コントロールの上に配置されています。図 3-4 に、個人プリンタのサブパネルを示します。

図 3-4: CDE 個人プリンタのサブパネル



メニュー項目には、次のものがあります。

- アイコンのインストール

このコントロールを使用して、項目を個人プリンタのサブパネルに追加します。項目を追加するには、ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャから「アイコンのインストール」コントロールまで項目をドラッグして、マウス・ボタンを離します。その項目がサブパネルに追加されます。

- デフォルト

このコントロールは、省略時のプリンタのプリント・ジョブの状態を表示します。ファイルをこのメニュー項目にドラッグ・アンド・ドロップすると、そのジョブが省略時のプリンタまたはユーザが選択したプリンタに印刷されます。このコントロールは、フロント・パネルにある「プリンタ」コントロールと同じものです。

- 印刷マネージャ

このコントロールを使用して、システムで利用できるプリンタの概要を調べることができます。

3.2.1.3 ヘルプのサブパネル

ヘルプ・マネージャのサブパネルには、他に使用できるヘルプ・ボリュームがリストされます。これは、フロント・パネルのヘルプ・マネージャのコントロールの上に配置されています。図 3-5 に、ヘルプ・マネージャのサブパネルを示します。

図 3-5: CDE ヘルプ・マネージャのサブパネル



メニュー項目には、次のものがあります。

- アイコンのインストール

このコントロールを使用して、項目をヘルプ・マネージャのサブパネルに追加します。項目を追加するには、ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャから、項目を「アイコンのインストール」コントロールまでドラッグして、マウス・ボタンを離します。その項目がサブパネルに追加されます。

- ヘルプ・マネージャ

このコントロールを使用すると、最も上位のヘルプ情報が表示されます。このコントロールは、フロント・パネルにあるヘルプ・マネージャのコントロールと同じものです。

- デスクトップの紹介

このコントロールを使用して、デスクトップについて紹介しているヘルプ・ボリュームを表示します。

- フロント・パネルのヘルプ

このコントロールを使用して、フロント・パネルのヘルプを表示します。

- アイテムヘルプ

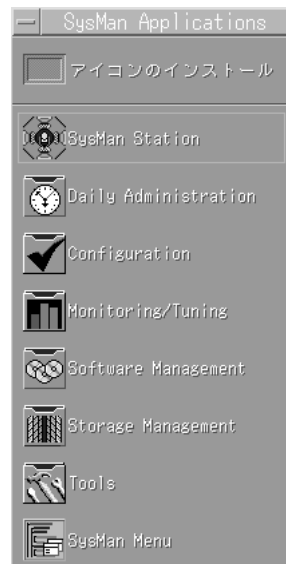
このコントロールを使用して、フロント・パネルの各コントロールについてのヘルプを表示できます。「アイテムヘルプ」コントロールをクリックし、疑問符 (?) に変わったポインタをフロント・パネルのコントロール上で離すことにより、そのオブジェクトについてのヘルプが表示できます。

3.2.1.4 SysMan Applications サブパネル

SysMan Applications サブパネルには、System Management Applications がリストされます。これは、フロント・パネルの SysMan Station コントロールの上にあります。フロント・パネル上の SysMan Applications サブパネルと SysMan Station コントロールはどちらも、root としてログインしている場合にのみ使用できます。

図 3-6 に、SysMan Applications サブパネルを示します。

図 3-6: SysMan Applications サブパネル



メニュー項目には、次のものがあります。

- アイコンのインストール

このコントロールを使用して、項目を SysMan Applications サブパネルに追加します。項目を追加するには、ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャから「アイコンのインストール」コントロールまで項目をドラッグして、マウス・ボタンを離します。その項目がサブパネルに追加されます。

- SysMan Station

このコントロールを使用して SysMan Station を開始します。SysMan Station は、ユーザがビジュアルにシステム・コンポーネントを選択し、

それらのコンポーネントに適用する SysMan アプリケーションを実行できるようにするグラフィカル・システム・マップです。これは、root としてログインしている場合にだけ使用することができます。

- **Daily Administration (日常管理)**

このコントロールは、頻繁に実行されるシステム管理タスクにアクセスします。

- **Configuration (コンフィグレーション)**

このコントロールは、インストレーション後に、システムを構成するために使用されるアプリケーションにアクセスします。通常、これらのアプリケーションは、システムを一度セットアップすると使用する必要がありません。

- **Monitoring/Tuning (モニタリング/チューニング)**

このコントロールは、システムの起動後に、システムのモニタや調整のために使用されるアプリケーションにアクセスします。

- **Software Management (ソフトウェア管理)**

このコントロールは、システムに追加のソフトウェアをインストールしたり管理したりするために使用されるアプリケーションにアクセスします。

- **Storage Management (ストレージ管理)**

このコントロールは、ファイル・システムのモニタおよび管理に使用されるアプリケーションにアクセスします。

- **Tools (ツール)**

このコントロールは、Display Window アプリケーションで、さまざまなシステム統計情報を表示するために使用されるアプリケーションにアクセスします。経過や傾向をモニタするために、同じ統計情報を繰り返し表示することができます。

- **SysMan Menu (SysMan メニュー)**

このコントロールは、ユーザのさまざまな環境で利用できるシステム管理タスクの階層メニューである SysMan Menu にアクセスします。

3.2.2 ワークスペースの使用法

ワークスペースは、作業をカテゴリ別に分けて処理するための手段を提供します。フロント・パネル上のワークスペース・スイッチを使用することにより、作業するワークスペースを切り替えることができます。省略時の設定では、ワークスペース・スイッチとして、「ワークスペース 1」～「ワークスペース 4」の 4 つのボタンが用意されています。ワークスペース・ボタンをクリックすることにより、ワークスペース間を移動することができます。図 3-7 に、ワークスペース・スイッチを示します。

図 3-7: CDE フロント・パネルのワークスペース・スイッチ



各ワークスペースには、フロント・パネルが提供されます。これにより、アプリケーションを検索したり、各ワークスペースを必要に応じてカスタマイズすることができます。また、ワークスペースの名前を変更することもできます。ワークスペースの名前を変更するには、次の手順に従ってください。

1. 変更したいワークスペースのボタンをクリックします。選択したワークスペースが表示されます。
2. ワークスペース・ボタンを再びクリックします。これにより、ボタンが、入力テキスト・フィールドに変更されます。
3. 新しい名前をそのテキスト・フィールドでタイプして、リターン・キーを押します。

ワークスペース・ボタンのポップアップ・メニューを使用して、ワークスペースの名前の変更、ワークスペースの追加、ワークスペースの削除を行うことができます。ワークスペース・ボタンのポップアップ・メニューを使用するには、次の手順に従ってください。

1. 変更したいワークスペースのボタンをポイントして、マウス・ボタン 3 を押します。図 3-8 のようなポップアップ・メニューが表示されます。

図 3-8: ワークスペース・ボタンのポップアップ・メニュー

ワークスペース ワークスペース 1
ワークスペースの追加(A)
削除(D)
名前の変更(R)
ヘルプ(H)

2. ポップアップ・メニューから、目的のオプションを選択します。

ワークスペースを追加すると、そのワークスペースには「新規」というラベルが表示されます。上記のどちらの方法を使用しても、ワークスペース名を変更できます。

ウィンドウを含んでいるワークスペースを削除すると、それらのウィンドウはすぐ次のワークスペースに移動されます。削除するワークスペースが最後のワークスペースで、ウィンドウが含まれている場合は、そのワークスペースを削除すると、すべてのウィンドウが最初のワークスペース (省略時の設定では「ワークスペース 1」と表示されている) に移動します。

3.2.2.1 ワークスペース・メニューの使用方法

CDE では、ワークスペース・メニューを提供しています。ワークスペース・メニューは、各ワークスペースを管理するための項目が入っているポップアップ・メニューです。ワークスペース・メニューをオープンするには、スクリーン上の任意のプランク領域をポイントして、マウス・ボタン 3 をクリックします。図 3-9 に、CDE ワークスペース・メニューを示します。

図 3-9: CDE ワークスペース・メニュー

ワークスペース・メニュー
プログラム
奥のウィンドウを手前へ
手前のウィンドウを奥へ
再表示
フロントパネルのアイコン化/復元
アイコン整理
ワークスペース・マネージャの再起動...
ログアウト...

ワークスペース・メニューを使用して、次の処理を実行できます。

- ウィンドウ配置の操作

- 表示のリフレッシュ
- フロント・パネルの最小化またはリストア
- ウィンドウ・マネージャの再起動 (構成ファイルをカスタマイズしている場合)
- ワークスペース間のオブジェクトの移動
- セッションからのログアウト

項目を追加または削除することにより、ワークスペース・メニューをカスタマイズできます。詳細については、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

3.2.2.2 CDE Window List の使用

CDE では、すべてのワークスペースにあるアプリケーション・ウィンドウを検索する際に役立つウィンドウ・リストを提供しています。次のいずれかの方法で、CDE Window List をオープンします。

- ワークスペース背景の任意の空き領域をポイントして、マウス・ボタン 2 をクリックします。
- Alt/F11 キーを組み合わせで押します。

図 3-10 に、CDE Window List を示します。

図 3-10: CDE Window List



CDE Window List を使用すると、複数のワークスペースでオープンしている多数のウィンドウの中からアプリケーション・ウィンドウを迅速に検索することができます。CDE Window List を使用すると、次のような処理を行うことができます。

- アプリケーション・ウィンドウを見つける。
- アイコン・イメージ、ロケーション、およびアプリケーション・ウィンドウの状態を示す。
- CDE Window List から直接アプリケーション・ウィンドウに移動する。
- アプリケーション・ウィンドウのリストを、タイトル、クラス、ワークスペース、作成時間 (最後に使用されたものがリストの最後にくる) でソートする。
- アプリケーション・ウィンドウを、タイトル、クラス、またはワークスペースで検索する。

CDE Window List の使用方法についての詳細は、オンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、CDE Window List を起動して、「ヘルプ」ボタンをクリックします。

デスクトップおよびアプリケーションの管理

この章では、デスクトップおよびアプリケーションの管理に関する情報について説明します。CDE デスクトップは、ファイル・マネージャ、スタイル・マネージャ、およびアプリケーション・マネージャを提供します。それぞれのマネージャを使用して、デスクトップ環境の管理とカスタマイズを行うことができます。

- アイコン・ベースのファイル・マネージャは、システム上でディレクトリ (フォルダ) やファイルを管理するために使用します。4.1 節を参照してください。新しいディレクトリやファイルの作成、ディレクトリやファイルの検索、および削除が行えます。ファイル・マネージャはデスクトップに統合されているので、オブジェクトをファイル・マネージャからドラッグして、他のアプリケーションで 사용할 ことができます。
- アプリケーション・マネージャは、システム上の他のツールにアクセスするために使用します。4.2 節を参照してください。アプリケーション・マネージャからは、アプリケーションを起動したり、アプリケーションをフロント・パネルに移動したりできます。
- スタイル・マネージャは、デスクトップの表示をカスタマイズするために使用します。4.3 節を参照してください。色、背景パターン、ウィンドウ属性、マウスとキーボードの属性が変更でき、またセッションの開始方法と終了方法が選択できます。

以降の各節では、ファイル・マネージャ、アプリケーション・マネージャ、およびスタイル・マネージャの使用方法について詳しく説明します。

4.1 ファイルおよびフォルダの管理

ファイル・マネージャは、システム上でディレクトリ (フォルダ) やファイルを管理するためのアプリケーションです。ディレクトリには、サブディレクトリ、ファイル、およびアプリケーションを入れることができ、これらがす

べてファイル・マネージャ内でアイコン表示されます。ファイル・マネージャの下のディレクトリ構造は、非グラフィック環境と同じ構造になっています。実際には、ファイルは名前だけで表示できます。


ファイル・マネージャ  を起動すると、現在のディレクトリ・パス、メニュー、表示領域を含むウィンドウがオープンされ、その表示領域にディレクトリの内容がアイコン表示されます。状態表示行には、表示中のディレクトリ内のオブジェクト数が表示されます。図 4-1 に、CDE ファイル・マネージャを示します。

図 4-1: CDE ファイル・マネージャ



ファイル・マネージャのメニューを使用して、ディレクトリおよびファイルの変更、移動、および名前の変更ができます。特定のファイルにアクションを実行したり、ファイルの表示方法を指定することもできます。以降の各項では、ファイル・マネージャのメニューで利用できるオプションについて説明します。ファイル管理のその他の方法についての詳しい説明は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

この節では、次の事項について説明します。

- ファイル・マネージャの「ファイル」メニューの使用方法
- ファイル・マネージャの「選択」メニューの使用方法
- ファイル・マネージャの「表示」メニューの使用方法

4.1.1 ファイル・マネージャの「ファイル」メニューの使用方法

「ファイル」メニューは、ディレクトリやファイルの名前の変更、およびファイル・マネージャ内でのディレクトリやファイルの移動を行うのに使用します。表 4-1 に、ファイル・マネージャの「ファイル」メニューの選択項目を示します。

表 4-1: ファイル・マネージャの「ファイル」メニュー

メニュー項目	用途
新規フォルダ...	新しいディレクトリを作成するためのダイアログ・ボックスをオープンします。パス名を指定しなかった場合、新しいディレクトリは現在のディレクトリに作成されます。
新規ファイル...	新しいファイルを作成するためのダイアログ・ボックスをオープンします。パスを指定しなかった場合、新しいファイルは現在のディレクトリ内に作成されます。
ホームへ	ホーム・ディレクトリに移動します。表示領域には、ホーム・ディレクトリにあるすべてのファイルとディレクトリが表示されます。
上位へ	親フォルダに移動します。つまり、現在のディレクトリの上のディレクトリの内容が表示されます。
フォルダ指定...	表示したいディレクトリを指定するためのダイアログ・ボックスをオープンします。
検索...	検索したいディレクトリまたはファイルを指定するためのダイアログ・ボックスをオープンします。ディレクトリやファイルの指定には、ワイルドカードを使用できます。ファイル名がわからなければ、ファイル内容でも検索できます。検索されるファイルは、名前別にリストされます。ファイルをワークスペースに配置するオプションやファイル・マネージャにあるファイルの内容を表示するためのオプションが提供されています。
端末エミュレータを開く	端末エミュレータ・ウィンドウをオープンします。このウィンドウを使用すれば、新しいファイルの作成やファイル管理に関連するその他のタスクを実行できます。
閉じる	ファイル・マネージャを終了します。

4.1.2 ファイル・マネージャの「選択」メニューの使用方法

「選択」メニューは、指定したディレクトリまたはファイルに対してアクションを実行するのに使用します。アクションを実行する前に、必ずディレクトリまたはファイルを選択してください。ディレクトリまたはファイルを選択するには、ファイル・マネージャ・ウィンドウのアイコンをクリックし

ます。表 4-2 に、ファイル・マネージャの「選択」メニューの選択項目を示します。

表 4-2: ファイル・マネージャの「選択」メニュー

メニュー項目	用途
移動先...	ディレクトリまたはファイルを新しい場所に移動するためのダイアログ・ボックスをオープンします。
コピー先...	ディレクトリまたはファイルを新しい場所にコピーするためのダイアログ・ボックスをオープンします。
リンクとしてコピー...	ディレクトリまたはファイルを新しいデスティネーションにリンクとしてコピーするためのダイアログ・ボックスをオープンします。
ワークスペースに置く	選択したディレクトリまたはファイルをワークスペースに配置します。
ごみ箱に捨てる	選択したディレクトリまたはファイルを削除します。
名前の変更...	ディレクトリまたはファイルに対して新しい名前を指定するためのダイアログ・ボックスをオープンします。
アクセス権の変更...	選択したディレクトリまたはファイルに対する許可を変更するためのダイアログ・ボックスをオープンします。
すべてを選択	現在のディレクトリにあるすべてのディレクトリおよびファイルが指定したアクションの対象となるようにマークをつけます。
選択をすべて解除	アクションの対象としてマークがつけられたすべてのディレクトリおよびファイルからマークを解除します。

4.1.3 ファイル・マネージャの「表示」メニューの使用法

「表示」メニューは、ディレクトリおよびファイルの表示方法を操作するのに使用します。表 4-3 に、ファイル・マネージャの「表示」メニューの選択項目を示します。

表 4-3: ファイル・マネージャの「表示」メニュー

メニュー項目	用途
新しいウィンドウに表示	新しいファイル・マネージャ・ウィンドウをオープンします。
表示オプションの設定...	ヘッダのフォーマット、ファイルの配置、およびそれらの表示方法を指定するためのダイアログ・ボックスをオープンします。

4-4 デスクトップおよびアプリケーションの管理

メニュー項目	用途
デフォルト・オプションとして保存...	ファイル・マネージャの現在の設定を保存するためのダイアログ・ボックスをオープンします。
隠しオブジェクトも表示	現在のディレクトリにある隠しディレクトリおよびファイルをすべて表示します。
フィルタ・オプションの設定...	「フィルタ・オプションの設定」ダイアログ・ボックスをオープンします。ここでは、隠したいファイルをデータのタイプや名前によって指定できます。
整列	現在のディレクトリにあるオブジェクトを縦横にソートして配列します。
更新	アプリケーションを起動してから作成された新しいディレクトリまたはファイルをすべて追加して、ファイル・マネージャの表示をリフレッシュします。

4.2 アプリケーションの管理

アプリケーション・マネージャは、システム上で使用するアプリケーションおよびその他のツールを入れておく場所です。システムがインストールされるとアプリケーション・マネージャの下にアプリケーションが配置され、それらに加えてシステム管理者あるいはユーザがアプリケーションを追加することができます。図 4-2 に、CDE アプリケーション・マネージャを示します。


この節では、次の事項について説明します。

- 組み込みアプリケーション・グループへのアクセス
- アプリケーション・マネージャのメニューの使用方法
- アプリケーション・マネージャからのアプリケーションの実行

図 4-2: CDE アプリケーション・マネージャ



4.2.1 組み込みアプリケーション・グループへのアクセス

アプリケーション・マネージャ  を起動すると、いくつかのアプリケーション・グループがメイン・ウィンドウに表示されます。各アプリケーション・グループは、1つまたは複数のコントロールやサブディレクトリを収容できるディレクトリです。

省略時のアプリケーション・グループは、次のとおりです。

- 変換ツール
DECwindows のカレンダーを CDE のカレンダーへ移行し、メール・フォルダを dxmail フォーマットから CDE の dtmail フォーマットへ変換するアプリケーションが入っています。メール・フォルダを変換する方法については、10.1 節を参照してください。
- デスクトップアプリケーション
ファイル・マネージャ、スタイル・マネージャ、カレンダー・アプリケーションなどのデスクトップ・アプリケーションが入っています。
- デスクトップツール
vi テキスト・エディタ、スペルチェック、再ロード・アプリケーションなどの、デスクトップ管理に通常使用されるツールが入っています。
- インフォメーション
使用頻度の高いヘルプ・ボリュームのアイコンが入っています。
- システム管理

システム管理者がシステムを管理するためのツールが入っています。

4.2.2 アプリケーション・マネージャのメニューの使用法

アプリケーション・マネージャは、実際には、システム上の特殊ディレクトリを表示するファイル・マネージャです。ファイル・マネージャと異なる点は、アプリケーション・マネージャが管理するディレクトリおよびコントロールは、関連するグループ内にグループ・アプリケーションとして表示され、このグループに含まれているすべてのファイルは、データ・ファイル、README ファイル、テンプレート、およびアクションであることです。アプリケーション・マネージャのメニューとファイル・マネージャのメニューは、密接に関連しています。アプリケーション・マネージャのメニューの使用法についての説明は、4.1 節にあるファイル・マネージャのメニューに関する説明を参照してください。

4.2.3 アプリケーション・マネージャからのアプリケーションの実行

アプリケーション・マネージャからアプリケーションを実行するには、アプリケーション・グループのアイコンをダブルクリックしてその内容を表示してから、起動したいアプリケーションをダブルクリックします。

4.3 環境のカスタマイズ


 スタイル・マネージャは、環境をカスタマイズするためのアプリケーションです。スタイル・マネージャを起動すると、いくつかのコントロールを表示したウィンドウがオープンします。各コントロールは、アイコンで表され、それぞれ、スクリーン表示、システム特性、スタートアップおよびログアウト動作をカスタマイズするのに使用されます。各コントロールがオープンするダイアログ・ボックスには、さまざまなオプションが提供されています。図 4-3 に、CDE スタイル・マネージャを示します。

図 4-3: CDE スタイル・マネージャ




『Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド』に、スタイル・マネージャの使用法についての詳しい説明があります。以降の項では、これらのオプションについて説明します。

この節では、次の事項について説明します。

- スクリーン表示の変更
- システム特性の変更
- スタートアップおよびログアウト動作の指定


4.3.1 スクリーン表示の変更


スタイル・マネージャには、ワークスペースの表示を変更するための3つのコントロールがあります。カラー、フォント、および背景コントロールです。

カラー・コントロール  は、ウィンドウおよびアプリケーションの表示に使用される色を設定するのに使用します。省略時のカラー・パレット・リストが提供されていて、それぞれの色をデスクトップに適用する前に見ることができます。

カラー・コントロールを使用すると、次のことを実行できます。

- パレットの選択
- 既存のパレットの修正
- ワークスペースからの色の選択
- カスタム・パレットの作成
- パレットの削除
- デスクトップで使用する色の数の変更

フォント・コントロール  は、アプリケーションおよびウィンドウで使用するフォントのサイズを変更するのに使用します。ユーザが利用できるフォントは、ユーザが使用するディスプレイのタイプによって決まります。このコントロールを使用すると、選択したすべてのフォントをデスクトップに適用する前に見ることができます。


背景コントロール  は、ワークスペースの背景パターンを変更するのに使用します。このコントロールは、ユーザが選択できるいくつかのパターン


のリストを提供していて、各パターンをデスクトップに適用する前に表示領域で見ることができます。

ルート・ウィンドウの表示にしたい場合には、「NoBackdrop」オプションを選択してください。

4.3.2 システム特性の設定

スタイル・マネージャには、システム特性を設定するための 5 つのコントロールがあります。キーボード、マウス、ビープ音、画面、およびウィンドウのコントロールです。

キーボード・コントロール  を使用して、キー・クリック・ボリュームおよびオートリピート機能を設定します。キー・クリック・ボリュームは、入力するときのキー・クリック音の大きさを決定します。キー・クリック音が出ないようにするには、音量を 0 にします。オートリピート機能は、キーを押している間キーがそのアクションを反復するかどうかを決定します。

マウス・コントロール  を使用して、次のことを選択します。

- ボタンの配列の設定

マウス・ボタン 1 と 3 の動作内容を設定します。省略時の設定では、マウスは右利きのユーザ用に設定されています。マウスボタン1と3のアクションを、左利きのユーザ用に逆にすることができます。

- ダブルクリックの速度


ダブルクリック・アクションであることが伝わるように、マウスの 1 回目と 2 回目のクリックの間の最大許容間隔を設定します。

- ポインタの加速度

ポインタがディスプレイの端から端までを移動する速度を設定します。


- ポインタのしきい値


ポインタが加速する前にゆっくりとした速度で移動する距離をピクセル単位で設定します。

ビープ音コントロール  を使用して、ビープ音の聞こえ方、ビープ音のピッチ、および継続期間を設定します。音量を 0 にすると、ビープ音が出ないように設定できます。

注意

すべてのキーボードが、キー・クリック・ボリュームあるいはビープ音の変更をサポートしているわけではありません。

画面コントロール  は、一定の時間が経過するとスクリーン・セーバがスクリーン上に配置されるかどうかを指定します。空白のスクリーンを選択するか、または、利用可能なスクリーン・セーバをリストの中から選択できます。画面コントロールを使用すると、一定の時間間隔でスクリーンをロックするかどうかについても指定できます。

ウィンドウ・コントロール  は、ウィンドウがフォーカスを取得する方法、フォーカスを受け取ったウィンドウを大きくするかどうか、アイコン・ボックスを使用するかどうかなどの特性を変更します。

4.3.3 スタートアップおよびログアウト動作の指定

スタイル・マネージャには、次の項目を実行するための起動コントロールが提供されています。

- 現在のセッションの再開、または、ホーム・セッションの開始のいずれかを指定します。
- ログアウトの確認を表示するかどうかを指定します。

作業中のセッションが、現在のセッションになります。省略時の設定では、デスクトップは、ログアウト時に現在のセッションを保存します。このセッションは、その次のセッションへのログイン時に再開されます。起動コントロールを使用すると、現在のセッションに戻るか、またはホーム・セッションを開始するかを選択できます。ホーム・セッションを選択すると、システムにログインするたびに同じ設定が表示されます。つまり、ホーム・セッションは、ユーザが現在のセッションで何を実行しても変わりません。

セッションの終了前に、ログアウトの確認について照会されます。確認メッセージを表示させるかどうかは、自由に指定できます。ログアウトの確認をオフに設定すると、ログアウト処理を取り消すためのオプションは与えられません。省略時の設定では、セッションを終了するかどうか確認するプロンプトが出されます。

統合されているアプリケーションの使用方法

さまざまなデスクトップ・アプリケーション、および「システム管理 (SysMan)」と呼ばれていたシステム管理アプリケーション群が CDE に統合されています。これらのアプリケーションのほとんどは、アプリケーション・マネージャから使用できます。

この章では、次の事項について説明します。

- アプリケーションの起動
- ネットワーク経由のアプリケーションの実行
- デスクトップ・アプリケーションの使用方法
- システム管理アプリケーションの概要
- SysMan Menu の使用方法
- SysMan Station のアクセス方法

5.1 アプリケーションの起動

多数のデスクトップ・アプリケーションおよび SysMan アプリケーションを、アプリケーション・マネージャまたはコマンド行から起動することができます。アプリケーションを起動するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 統合されているアプリケーションをアプリケーション・マネージャから起動するには、次の手順に従ってください。

1. フロント・パネルのアプリケーション・マネージャ・アイコン



をクリックします。

2. アクセスしたいアプリケーション・グループをダブルクリックします。

3. 起動したいアプリケーションをダブルクリックします。

コマンド行からアプリケーションを起動するには、コマンド名を入力します。コマンド位置が `$PATH` 変数に指定されていない場合は、コマンドの絶対パス名を入力する必要があります。たとえば、コマンド行からイメージビューアを起動するには、次のように入力します。

```
$ /usr/bin/X11/dximageview &
```

コマンド行の最後にアンパサンド (&) を入力すると、アプリケーションがバックグラウンドで実行され、同じ端末エミュレータ・ウィンドウから他のタスクを実行することができます。

1.3.4.1 項で、コマンドおよびアプリケーションのリファレンス・ページを見つける方法について説明しています。リファレンス・ページには、アプリケーションを起動するコマンドや、オプション、およびコマンドのロケーションについての説明があります。

SysMan Menu または SysMan Station からは、他のシステム管理アプリケーションを起動することができます。

- 5.5 節では、SysMan Menu を使用して、システム管理データを取得し、選択したシステム管理タスクを実行する方法について説明しています。
- 5.6 節では、単一システムあるいはクラスタのシステム管理を行う際に役立つツールの SysMan Station について概説しています。

5.2 ネットワーク経由のアプリケーションの実行

システムにインストールされていないアプリケーションを実行するには、ネットワークにアクセスでき、そのアプリケーションがインストールされているリモート・システムにアカウントが必要です。リモート・アプリケーションを実行し、そのアプリケーションがローカルで実行されている場合と同様に、自分のシステムに出力を表示させることができます。これを行う前には、次の処理を行う必要があります。

- システムへのリモート・アクセスを承認します。
- リモート・システム上で自分のディスプレイを使用可能にします。

ホスト・マネージャを使用しても、リモートで実行しているアプリケーションを表示させることができます。詳細については、ホスト・マネージャのオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。

5.2.1 システムへのアクセス権の付与

ローカル・システムに、リモートで実行しているアプリケーションを表示させるには、リモート・システムにログインする前に、`xhost` コマンドを使用して、ディスプレイに対するリモート・ホスト・アクセスを用意しなければなりません。たとえば、リモート・マシンのホスト名が `trenton` の場合には、システムから次のように入力します。

```
$ /usr/bin/X11/xhost +trenton
```

これにより、ご使用のマシンにアクセスできるホストのリストに `trenton` という名前のリモート・システムが追加されます。詳細については、`xhost(1X)` リファレンス・ページを参照してください。

5.2.2 表示を可能にする

ローカル・システムへのリモート・システム・アクセス権を与えたら、リモート・システムにログインし、リモートで実行するアプリケーションの表示場所を指定してください。

表示を可能にするために入力するコマンドは、使用しているリモート・ホストのオペレーティング・システムと、使用しているシェルによって異なります。

表示を可能にするには、次の方法のうちいずれか 1 つを使用します。

- リモート・ホストが C シェルを使用している場合には、システム・プロンプトに次のように入力します。

```
setenv DISPLAY local_sysname:0
```

- リモート・ホストが Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合には、システム・プロンプトに次のように入力します。

```
DISPLAY=local_sysname:0  
export DISPLAY
```

- リモート・ホストが OpenVMS システムで、OpenVMS ネットワーク・ホストが DECnet を実行している場合には、システム・プロンプトに次のように入力します。

```
set display/create/node=local_sysname
```

OpenVMS ネットワーク・ホストで伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP) が実行されている場合には、次のように入力することにより TCP/IP ネットワーク・トランスポートを使用できます。

```
set display/create/transport=tcpip/node=local_sysname
```

OpenVMS TCP/IP データベース・ファイルでシステム名が小文字で表記されている場合には、ローカル・システムの名前を二重引用符 ("local_sysname") で囲まなければなりません。大文字で表記されている場合には、引用符は使用しないでください。hostname コマンドを使用すると、システム名がデータベース・ファイルにどのように入力されているかを確認できます。

上記の例で、local_sysname は、リモート・アプリケーションを表示させたいマシンのホスト名を表します。

システムへのアクセス権を与えて表示を可能にすると、5.1 節の説明に従い、コマンド名を使用してリモート・マシンからアプリケーションを実行できます。実行したアプリケーションは、指定したシステムに表示されます。

5.3 デスクトップ・アプリケーションの使用方法

さまざまなデスクトップ・アプリケーションが CDE に統合されています。これらのアプリケーションについては、各アプリケーションのオンライン・ヘルプ・ボリュームに説明があります。表 5-1 では、これらのアプリケーションのいくつかについて説明します。

注意

システムで使用可能なデスクトップ・アプリケーションは、ロードしているソフトウェア・サブセットによって異なります。この節では、使用できるすべてのデスクトップ・アプリケーションをリストしているわけではありません。

表 5-1 に、CDE に統合されているデスクトップ・アプリケーションのうちのいくつかを示します。

表 5-1: デスクトップ・アプリケーション

アプリケーション	アプリケーションの使用方法
漢字端末エミュレータ	ビデオ端末エミュレータを提供します。
テキスト比較	2 つのファイル間で異なる部分をグラフィック表示します。
イメージビューア	GIF, JPEG, および TIFF などの特定のフォーマットで作成されたドキュメントの内容を表示します。
キーボード設定	キーボードのカスタマイズのためのオプションを提供します。
キーキャップ編集	現在のサーバ・キーマップにより描かれているキーキャップを使用して、キーボードをグラフィック表示します。また、Keymaps アプリケーションの起動に使用できます。
入力サーバ・オプション	オペレーティング・システムによるキーストロークの解釈を変更します。

注意

入力サーバ・オプション・アプリケーションは、`/usr/dt/bin` に置かれ、アプリケーション・マネージャの下のデスクトップアプリケーションには含まれていません。このアプリケーションの起動方法については、5.3.4 項を参照してください。

ここで説明するアプリケーションの中には、特別な処理を行う高度なツールもありますが、このようなアプリケーションは、日常的に使用するものではありません。

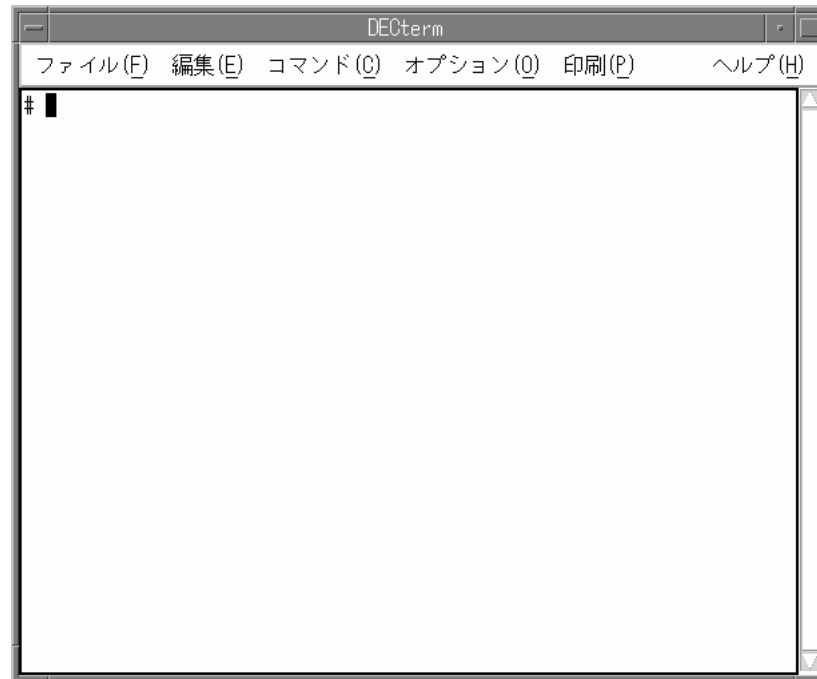
5.3.1 漢字端末エミュレータの使用方法

漢字端末エミュレータは、ビデオ端末エミュレータです。漢字端末エミュレータを起動すると、画面にウィンドウが表示されます。このウィンドウには、システムに接続されている端末に入力する場合と同様に、コマンドを入力します。また、他のシステムとのリモート通信に使用することもできます。漢字端末エミュレータを起動するには、システムで次のように入力します。

```
$ /usr/bin/X11/dxterm
```

図 5-1 に、漢字端末エミュレータ・アプリケーションを示します。

図 5-1: 漢字端末エミュレータ・アプリケーション



5.3.1.1 その他の漢字端末エミュレータの機能のまとめ

漢字端末エミュレータでは、次のような操作を行うこともできます。

- フォントのサイズやウィンドウのタイトルなど、漢字端末エミュレータ・ウィンドウの外観を変更する。
- カーソルのタイプや水平/垂直スクロール・バーの使用など、漢字端末エミュレータの表示機能を変更する。
- 端末のタイプなど、漢字端末エミュレータの一般的な機能を変更する。
- 文字を構成する。
- National Replacement Character Set (NRCS) を選択する。
- キーボード、グラフィックス、プリンタのオプションを変更する。

漢字端末エミュレータ・アプリケーションについての詳細は、`dxterm(1X)` リファレンス・ページ、およびオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してく

ださい。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、漢字端末エミュレータを起動して「ヘルプ」を選択します。

5.3.2 テキスト比較の使用法


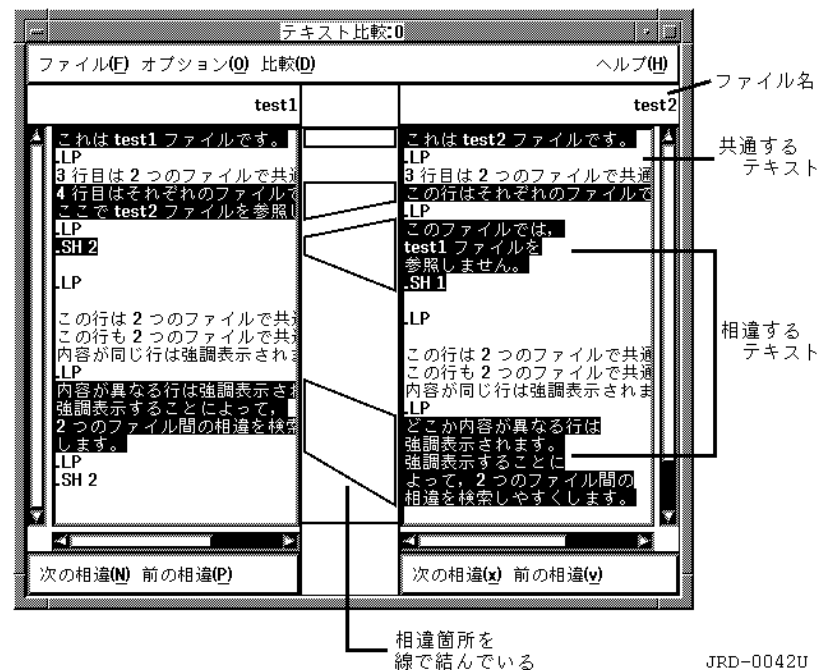
テキスト比較  は、diffコマンドに対応するグラフィック・インタフェースです。テキスト比較を使用すると、2つのASCIIテキスト・ファイルを行単位で比較し、それらの異なる部分をグラフィック表示で見ることができます。図5-2に、テキスト比較アプリケーションを示します。

図 5-2: テキスト比較アプリケーション



テキスト比較アプリケーションの使用法については、dxdiff(1X) リファレンス・ページおよびオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、テキスト比較を起動したのち、「ヘルプ」を選択します。

5.3.3 イメージビューアの使用法


イメージビューア・アプリケーション  を使用すると、グラフィック・ファイルを表示できます。サポートされているイメージ・タイプは、GIF、JPEG、TIFF、および XPM です。イメージビューア・ウィンドウでは、イメージを表示させ、ツールバー・アイコンまたはメニューのいずれかを使用して、イメージの表示を操作できます。図 5-3 に、イメージビューア・アプリケーションを示します。

図 5-3: イメージビューア・アプリケーション



イメージビューアの使用法についての詳しい説明は、`dximageview(1X)` リファレンス・ページおよびオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、イメージビューアを起動して「ヘルプ」を選択します。

5.3.4 入力サーバ・オプションの使用法

入力サーバ・オプション・アプリケーションは、上級ユーザのためのツールです。このアプリケーションを使用して入力メソッドを指定し、システムによるキーストローク文字の解釈方法を変更することができます。たとえば、日本語の漢字または中国の Hanzi 文字などの、アジアの (マルチバイト) 文字は、このアプリケーションを使用することによってキーボードから入力できます。このアプリケーションを起動するには、次の手順に従ってください。

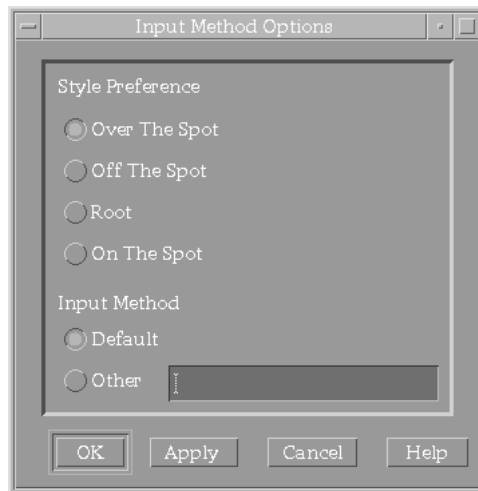
1. 端末エミュレータ・ウィンドウをオープンします。

2. 次のコマンドを入力します。

```
% /usr/dt/bin/dtimsstart
```

図 5-4 に、入力サーバ・オプション・アプリケーションを示します。

図 5-4: 入力サーバ・オプション・アプリケーション



入力サーバ・オプション・アプリケーションの使用方法についての詳しい説明は、dtimsstart(1) リファレンス・ページおよびオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、入力サーバ・オプション・アプリケーションを起動して Help を選択します。

5.3.5 キーボード設定の使用方法


キーボード設定アプリケーション  は、高度なユーザ向けのツールです。このツールを使用してキーボード設定をカスタマイズします。このツールは、通常、インストレーション中に指定できないオプションを設定する場合にだけ、システムの初期設定後に使用されます。図 5-5 に、キーボード設定アプリケーションを示します。

図 5-5: キーボード設定アプリケーション

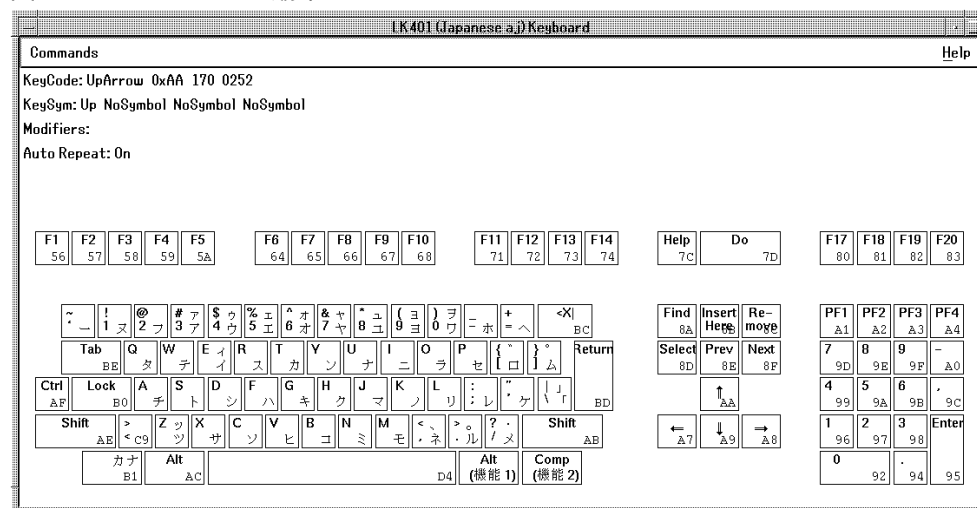


キーボード設定アプリケーションの使用方法についての詳しい説明は、dxkeyboard(1) およびオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、キーボード設定を起動して「ヘルプ」を選択します。

5.3.6 キーキャップ編集の使用方法

キーキャップ編集アプリケーションは、高度なユーザ向けのツールです。このアプリケーションを使用して、キーボード・マッピングの表示および編集ができます。図 5-6 に、キーキャップ編集アプリケーションを示します。

図 5-6: キーキャップ編集アプリケーション



キーキャップ編集アプリケーションの使用方法についての詳しい説明は、dxkeycaps(1X) リファレンス・ページおよびオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、キーキャップ編集を起動して Help を選択します。

5.4 システム管理アプリケーションの使用方法

「システム管理 (SysMan)」と呼ばれるシステム管理アプリケーション群では、システム管理者用に、管理コマンドのグラフィカルなフロント・エンドが提供されます。

5.1 節に、システム管理アプリケーションのアクセスおよび起動の方法について説明しています。システム管理アプリケーションの多くは、適切な特権がなければ使用できません。各アプリケーションの使用方法についての説明は、アプリケーションのオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。アプリケーションをオープンし、Help メニューをクリックすることによって、ヘルプ・ボリュームにアクセスできます。

システム管理アプリケーション群は、図 5-7 に示すように、いくつかのカテゴリに分類されます。

図 5-7: アプリケーション・マネージャにおける SysMan のカテゴリ



- **コンフィグレーション (Configuration)**
このカテゴリのアプリケーションは、インストール後に、システムを構成するために使用します。通常は、一度システムをセットアップすると、これらのアプリケーションを使用する必要はありません。
- **日常管理 (Daily Administration)**
このカテゴリのアプリケーションは、頻繁に実行されるシステム管理タスクのために使用されます。
- **モニタリング/チューニング (Monitoring and Tuning)**
このカテゴリのアプリケーションは、システムの起動後に、システムをモニタしたり調整したりするために使用されます。
- **ソフトウェア管理 (Software Management)**
このカテゴリのアプリケーションは、システムに追加でソフトウェアをインストールしたり管理したりするために使用されます。
- **ストレージ管理 (Storage Management)**

このカテゴリのアプリケーションは、ファイル・システムをモニタしたり管理したりするために使用されます。

- ツール (Tools)

このカテゴリのアプリケーションは、Display Window アプリケーションで、さまざまなシステム統計情報を表示するために使用します。経過や傾向をモニタするために、同じ統計情報を繰り返し表示することができます。

- SysMan メニュー (SysMan Menu)

SysMan メニューでは、X Windows、ウェブ・ブラウザ、キャラクタ・ベース端末のディスプレイなどの、さまざまに異なるユーザ環境で利用できるシステム管理タスクの階層メニューを提供します。これは、コマンド行または CDE アプリケーション・マネージャから起動することができます。権限のあるユーザは、SysMan Applications サブパネルから SysMan Menu を起動することもできます。

- SysMan ステーション (SysMan Station)

SysMan ステーションでは、システムおよびその全コンポーネントのグラフィカル・トポロジカル表現を提供することにより、システム管理者がビジュアルにシステム・コンポーネントを選択して、そのコンポーネントに適用する SysMan アプリケーションを実行できるようにします。システム管理者は、SysMan Station を使用して、単一システムおよびクラスタの両方を管理することができます。SysMan Station にアクセスするには、root としてログインする必要があります。

注意

システムで利用できるシステム管理アプリケーションは、ロードしているソフトウェア・サブセットによって異なります。この節では、使用できるすべてのシステム管理アプリケーションをリストしているわけではありません。

各 SysMan アプリケーション・グループ内のアプリケーションに関する情報を見つけるには、次の手順に従います。

1. CDE フロント・パネルのアプリケーション・マネージャ・コントロールをクリックします。

2. 「システム管理」をクリックします。
3. 「SysMan の紹介」をクリックします。
4. スクロール・ダウンして、SSysMan アプリケーション・グループのうちの 1 つをクリックします。

アプリケーション・グループ内の各 SysMan について、制限事項、構成のディペンデンス、およびオンライン・ヘルプ・ボリュームやリファレンス・ページなどの追加情報へのリンクが記述されています。アプリケーションを起動して Help を選択することによっても、そのアプリケーションのオンライン・ヘルプにアクセスすることができます。

次の項目は、SysMan アプリケーションのカテゴリではありませんが、アプリケーション・マネージャのシステム管理からも使用できます。

- システム・セットアップ・チェック

これにより System Setup アプリケーションがオープンして、Quick Setup および Custom Setup を起動します。システム・セットアップ・チェックは、インストレーション後に使用することにより、リストされている各 Configuration Applications でシステムを構成することができます。アプリケーション・アイコンの横のチェック・マークは、そのアプリケーションが実行されたことを示します。System Setup Checklist についての詳細は、オンライン・ヘルプ・ボリュームおよび『システム管理ガイド』を参照してください。

- SysMan の紹介

この項目は、「Welcome to SysMan」オンライン・ヘルプ・ボリュームへのショートカットです。

5.5 SysMan Menu の使用方法

システム管理者は、SysMan Menu を使用して、システム管理データを表示し、選択したシステム管理タスクを実行します。SysMan Menu 上のいくつかのタスクを実行するには、適切な特権が必要です。

注意

SysMan Menu 上のシステム管理タスクの多くは、アプリケーション・マネージャから使用できるものと重複しているように

見えますが、SysMan Menu では、これらのタスクへの次のプラットフォームからのアクセスも提供しています。

- 任意のローカルまたはリモート文字セル端末
- CDE や DECwindows などの任意の X11 準拠のウィンドウ環境
- パーソナル・コンピュータ (PC) 上で稼働している Windows 95 または Windows NT

SysMan Menu へのマルチプラットフォーム・アクセスについては、『システム管理ガイド』を参照してください。

適切な特権がある場合には、次のいずれかの方法で、SysMan Menu にアクセスすることができます。

- コマンド行からアクセスする場合

```
# /usr/sbin/sysman
```

使用できるオプションや、GUI および文字セル・インタフェースについての詳細は、sysman(8) リファレンス・ページを参照してください。

- CDE フロント・パネルからアクセスする場合
 - アプリケーション・マネージャから SysMan Menu アイコンを選択します。
 - SysMan Applications サブパネルから SysMan Menu アイコンを選択します。

SysMan Menu からタスクを選択して実行するには、まず、目的の項目を強調表示します。カテゴリとタスクが、次のように表示されます。

- 展開できるカテゴリの前には正の符合 (+) が付いています。
- 完全に展開されているカテゴリの前には負の符合 (-) が付いています。
- 実行可能なタスクの前にはパイプ記号 (|) が付いています。

カテゴリを展開するには、次のいずれかの操作を行います。

- 展開可能なカテゴリを選択します。
- カテゴリを強調表示して、「Select」ボタンを選択します。

タスクのタイトルが表示されるまで、サブカテゴリを展開します。いずれかの選択方法を使用して、実際のタスクを起動することができます。

タスクが SysMan Menu 階層のどこにあるのかわからない場合は、次のようにします。

1. SysMan Menu の下部にある「Find」を選択します。Find Task by Keyword ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. テキスト入力フィールドにキーワードを入力します。ワイルドカード文字を使用することができ、検索では大文字/小文字が区別されます。たとえば、ネットワークに関連するタスクを検索するには、* [Nn]etwork* と、入力することができます。
3. 表示されているリストから目的のタスクを選択します。

SysMan Menu の使用方法についての詳しい説明は、sysman(8) リファレンス・ページ、『システム管理ガイド』、およびオンライン・ヘルプ・ボリュームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ボリュームにアクセスするには、SysMan Menu を起動して Help を選択します。

5.6 SysMan Station の使用方法

システム管理者は SysMan Station を使用して、単一システムおよびクラスターの両方を管理します。SysMan Station アイコンが表示されるようにするには、root としてログインする必要があります。SysMan Station アイコンは、フロント・パネル上、SysMan Applications サブパネル、およびアプリケーション・マネージャのシステム管理アプリケーション・グループ内に表示されます。

SysMan Station は、システムおよびその全コンポーネントのグラフィカル表現を提供します。これを使用すると、システム・コンポーネントをビジュアルに選択して、そのコンポーネントに適用する SysMan アプリケーションを実行することができます。SysMan Station では、ホストからディスクやテープなどの個々のデバイスまで、システム階層のグラフィカル表現を提供します。デバイスを選択してから、適切なデバイス管理アプリケーションを適用することができます。

SysMan Station の使用方法についての詳しい説明は、sms(8) リファレンス・ページ、『システム管理ガイド』、およびオンライン・ヘルプ・ボ

リユームを参照してください。オンライン・ヘルプ・ポリユームにアクセスするには、SysMan Station を起動して Help を選択します。



Part 2

DECwindows から CDE への移行



CDE への移行

CDE (Common Desktop Environment) は、UNIX デスクトップ・インタフェースを統合し、一貫したユーザ環境および開発環境を定義するために、Motif および X11 に基づいて、UNIX の主要ベンダによって開発されました。これらのベンダは、COSE (Common Operating System Environment) コンソーシアムを結成しました。

CDE には、COSE の創設メンバとなっているベンダ および OSF (Open Software Foundation) の既存のテクノロジーが組み込まれています。CDE は Motif に置き換わるものではなく、拡張されたプログラミング・ユーティリティと一貫したユーザ・インタフェースを提供するために、Motif の上に別の層として位置付けられるものです。

本バージョンのオペレーティング・システムでは、CDE は、DECwindows Motif インタフェースの後継として提供されます。この章では、次のことについて説明します。

- CDE と DECwindows Motif とで共通のコンポーネント
- CDE と DECwindows Motif との相違点
- CDE の使用方法に関する詳細情報の検索方法

6.1 CDE と DECwindows Motif の共通機能

CDE と DECwindows Motif は、同じ前提条件のもとで動作します。それぞれ、ワークスペース環境を作成する 4 つのコンポーネントから構成されています。それらは、X サーバ、ウィンドウ・マネージャ、セッション・マネージャ、およびクライアント・アプリケーションです。次の各項では、これらのコンポーネントについて詳しく説明します。

この節では、次の事項について説明します。

- X サーバおよび X クライアント
- セッション・マネージャ

- ウィンドウ・マネージャ
- X クライアント・アプリケーション

6.1.1 X サーバおよび X クライアント

CDE および DECwindows Motif はどちらも、クライアント/サーバ・コンピューティングを採用しています。X サーバと呼ばれるコンポーネントは、表示サービスを提供します。X サーバは、アプリケーションと、ワークステーションのディスプレイ・ハードウェアとの間を仲介する役割を果たします。つまり、クライアントからディスプレイへの出力を処理し、(キーボードまたはマウスからの) 入力を、その処理に対応するクライアントに転送します。X クライアントは、X Window System が提供するサービスを使用するアプリケーションです。

X クライアントは、ご使用ワークステーションまたは他のシステムで実行できます。ネットワーク機能が組み込まれているため、あるシステムでアプリケーションを実行して X Window System プロトコルをサポートしている別のワークステーションにそれを表示させることができます。

6.1.2 セッション・マネージャ

CDE および DECwindows Motif のどちらのインタフェースでも、システムにログインするとセッション・マネージャが起動されます。セッション・マネージャは、オペレーティング・システムに対する最上位のインタフェースです。セッション・マネージャは、次の処理を実行します。

- スタートアップ・スクリプトなど、適切なスクリプト・ファイルを実行します。
- 検索パスを設定します。
- 使用可能なアプリケーションを収集し、セッション・アプリケーションを起動します。
- ウィンドウ・マネージャを起動します。

システムにログインすることにより起動される CDE セッション・マネージャは `/usr/dt/bin/dtlogin` ですが、セッション開始後は `/usr/dt/bin/dtsession` に制御が渡されます。

DECwindows Motif 環境で起動されるセッション・マネージャは、`/usr/bin/X11/dxsession` です。

6.1.3 ウィンドウ・マネージャ

CDE および DECwindows Motif のどちらの場合も、ウィンドウ・マネージャは、ウィンドウ・フレームのコンポーネントの外観、スタック順やフォーカス動作などのウィンドウの動作、キーおよびボタンの割り当て、最小化されたウィンドウ (アイコン) の外観、およびメニューの動作を制御します。

CDE ウィンドウ・マネージャは、ワークスペース・マネージャと呼ばれることが多く、OSF/Motif ウィンドウ・マネージャをベースにしています。CDE の省略時のウィンドウ・マネージャは、`/usr/dt/bin/dtwm` です。

DECwindows Motif ウィンドウ・マネージャは、`/usr/bin/X11/mwm` です。

6.1.4 X クライアント・アプリケーション

このオペレーティング・システムには、X Consortium によって提供される X クライアント・アプリケーションのサンプルが数多く組み込まれています。オペレーティング・システムでは、DECwindows Motif がデスクトップ・アプリケーション・セットを提供しています。同様に、CDE でも、DECwindows Motif インタフェースでは使用できない機能をいくつか提供するアプリケーション・セットを提供しています。

7.2 節で、CDE インタフェースでのアプリケーションの使用方法について詳しく説明しています。

6.2 CDE と DECwindows Motif の相違点

CDE と DECwindows Motif は 同じようなコンポーネントで構成されていますが、CDE は、DECwindows Motif で使用できない機能を数多く提供しています。以降の各章では、CDE を使用してセッションを管理する方法を、DECwindows Motif セッション・マネージャのメニューを使用する場合と対比して説明します。次に、これらの章で説明する内容を示します。

- 第 7 章では、セッションの開始と終了に関する相違点について、また、CDE を使用してアプリケーションにアクセスする方法について説明します。

- 第 8 章では、環境のカスタマイズの相違点について、CDE を使用してこれらの処理を実行する方法を、DECwindows Motif と対比しながら説明します。
- 第 9 章では、言語の選択、キーボード・タイプの指定、および端末エミュレータの相違点など、国際化機能の問題について説明します。
- 第 10 章では、メール・フォルダとカレンダー・データベースを、CDE のメール・アプリケーションおよびカレンダー・アプリケーションが認識できるフォーマットへ移行する方法について説明します。
- 付録 A では、CDE のメール・アプリケーションと DECwindows のメール・アプリケーションの相違点について説明します。

6.3 詳しい情報の取得

CDE ドキュメント・セットは、オンラインおよびハードコピーで提供されています。ドキュメント・セットをオンラインで表示させるには、ネットスケープ・ナビゲータを使用します。オンライン・ヘルプ・ボリュームおよびリファレンス・ページにアクセスして、CDE についての情報を得ることもできます。

1.3 節に、オンラインで CDE ドキュメント・セットを表示する方法、オンライン・ヘルプおよびリファレンス・ページへのアクセスについて説明しています。

新しいセッション・マネージャの使用方法

CDE (Common Desktop Environment) におけるセッションの管理と、DECwindows Motif におけるセッションの管理には違いがあります。この章では、環境の管理およびアプリケーションへのアクセスの方法について紹介し、CDE と DECwindows Motif の相違点について説明します。

CDE を使用することによって、DECwindows Motif で提供されるのと同等の機能に加えて、拡張された機能を利用することができます。以降の各節では、CDE セッションを開始および終了するための主要な機能について説明し、DECwindows Motif セッション・マネージャを使用して実行していた環境の管理を CDE で行うための情報を提供します。

この章では、次の事項について説明します。

- セッションの開始および終了
- アプリケーションへのアクセス

7.1 セッションの開始および終了

CDE ログイン画面は、DECwindows Motif ログイン画面では使用できなかったオプション群を提供します。CDE ログイン画面からは、セッション・タイプと使用言語を選択できます。

CDE では次の 3 つのタイプのセッションが選択できます。

- 「通常のデスクトップ・セッション」を選択すると、CDE セッション・マネージャが起動されます。これは省略時の設定で利用できるセッションです。
- 「フェイルセーフ・セッション」を選択すると、1 つのターミナル・ウィンドウとウィンドウ・マネージャが起動されます。
- 「コマンド行ログイン・セッション」を選択すると、デスクトップが中断され、ベース・オペレーティング・システム環境で作業できるようになります。

省略時の言語はシステム管理者が設定しますが、ログイン画面から「オプション」メニューを使用して、システムにインストールされている他の言語にもアクセスすることができます。セッションを終了すると、省略時の言語設定がリストアされます。

注意

CDE では、`.Xdefaults` ファイルでの `xnlLanguage` の設定はすべて無視されます。この変数は、一般的には、初めの方の DECwindows セッションで設定します。そのとき、セッション・マネージャの言語メニューから選択して、その設定を設定しておきます。CDE がこの設定が無視するのは、ユーザがログイン画面の「オプション」メニューで選択した言語が変更されないようにするためです。

CDE の場合、省略時の設定で、セッションの自動セーブおよび自動リストア機能を提供します。セッション終了時にオープンされていたアプリケーションは、セーブおよびリストア機能をサポートするものであれば、再ログイン時にすべてオープンされます。アプリケーションによって、前のセッションのすべての作業がリストアされるものと、アプリケーションのメイン・スクリーンだけがリストアされるものがあります。

DECwindows Motif セッション・マネージャで行っていたセッション開始および終了に関するカスタマイズを CDE で行う方法については、8.1 節を参照してください。

注意

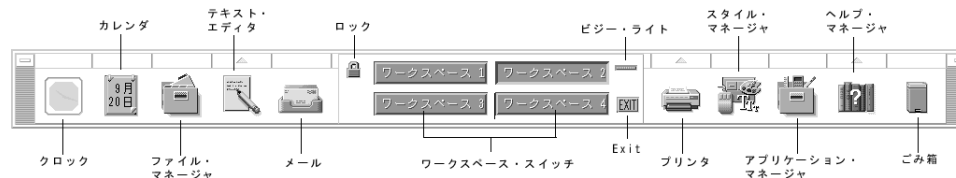
このマニュアルの以降の章では、通常のデスクトップ・セッションについてのみ説明します。フェイルセーフ・セッションまたはコマンド行ログイン・セッションの起動についての詳しい説明は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。


7.2 アプリケーションへのアクセス


CDE フロント・パネルから、いくつかのアプリケーションが起動できます。これらのアプリケーションのほとんどは、DECwindows Motif セッション・マネージャ・アプリケーション・メニュー (表 7-2 を参照) で提供されていたものであり、フロント・パネル、アプリケーション・マネージャ、ファイル・マネージャ、および端末エミュレータ・ウィンドウから起動できます。

フロント・パネルは、スクリーンの下部にある細長いウィンドウです。このウィンドウはいくつかのアプリケーションおよびコントロールを含んでおり、同様のサービス群を提供する DECwindows Motif セッション・マネージャ・メニューに相当します。フロント・パネル上のアイコンをクリックすることによりアプリケーションを起動できます。ロック・アイコンをクリックするとセッションが一時停止し、Exit アイコンをクリックするとセッションを終了します。7.2.1 項に、フロント・パネルにあるアプリケーションおよびコントロールに関する説明があります。

図 7-1: CDE フロント・パネルのコントロール



アイコン・ベースのファイル・マネージャ  はフロント・パネルから使用でき、ディレクトリ階層の表示および簡単なナビゲートができます。ドラッグ・アンド・ドロップのアクションを使用して、ディレクトリおよびファイル进行操作し、他のアプリケーションと対話することができます。ファイル・マネージャを使用して、アプリケーションを起動することもできます。

アプリケーション・マネージャ  はフロント・パネルから使用でき、システム上のアプリケーションおよびその他のツール用の特別なディレクトリです。アプリケーション・マネージャを使用して、アプリケーションを起動したり、他のアプリケーションをアプリケーション・マネージャに追加したり、アプリケーションにより簡単にアクセスできるように背景またはフロント・パネルに置くこともできます。

この章では、次の事項について説明します。

- フロント・パネルからのアプリケーションの管理
- アプリケーション・マネージャからのアプリケーションの起動
- ファイル・マネージャによるアプリケーションの実行
- DECwindows Motif アプリケーションの使用方法

7.2.1 フロント・パネルからのアプリケーションの管理

アプリケーション・マネージャおよびファイル・マネージャの他に、フロント・パネルには、DECwindows Motif 環境では使用できない概念をいくつか採り入れています。その例として、サブパネルおよびワークスペースがあります。

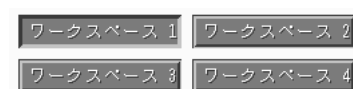
上に矢印のあるフロント・パネル・アイコンでは、サブパネルが使用できます。サブパネルは、デスクトップ・セッションをより詳細に管理するためのアプリケーションおよびコントロールのメニューを提供します。矢印をクリックすることにより、サブパネルのメニューが表示されます。

図 7-2: サブパネルの矢印



ワークスペースは、フロント・パネルを含む、スクリーン上の表示領域です。フロント・パネルのワークスペース・スイッチ（「ワークスペース 1」～「ワークスペース 4」のついたボタン）を使用して、同じセッション内で複数のワークスペースを設定し、ワークスペース間を移動することができます。それぞれのワークスペースに、フロント・パネルが表示されます。ワークスペースは 最高 64 まで設定することができます。作業するワークスペースを変更するには、任意のワークスペース・ボタンをクリックします (図 7-3 を参照)。

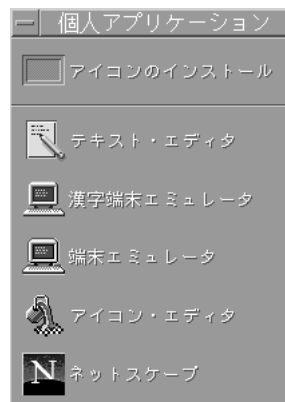
図 7-3: ワークスペース・ボタン



フロント・パネルからアプリケーションを起動するには、アプリケーション・アイコンをクリックします。サブパネルからアプリケーションを起動するには、次の手順に従ってください。

- サブパネルの矢印をクリックし、オプションのリストを表示します。

図 7-4: サブパネル



- アプリケーション・アイコンをクリックします。

7.2.1.1 サブパネルへのアプリケーションの追加

ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャ上に存在する任意のアプリケーション・アイコンを使用して、アプリケーションをサブパネルに追加できます。アプリケーションをサブパネルに追加するには、次の手順に従ってください。

1. ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャをオープンし、追加したいアプリケーション・アイコンを表示します。
2. アプリケーション・アイコンを追加したいサブパネルをオープンします。
3. ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャからアイコンをドラッグし、サブパネルの「アイコンのインストール」までドロップします。

サブパネルに追加されたアプリケーション・アイコンは、ファイル・マネージャまたはアプリケーション・マネージャにある場合と同じように動作します。

7.2.1.2 フロント・パネルへのサブパネル・コントロールの追加

サブパネルのコントロールのコピーを、より簡単にアクセスするためにフロント・パネルに追加できます。フロント・パネルにサブパネルのコントロールをコピーするには、次の手順に従ってください。

1. コピーしたいアプリケーション・アイコンを含むサブパネルをオープンします。
2. 追加したいアプリケーション・アイコンをポイントしてマウス・ボタン 3 をクリックし、ポップアップ・メニューを表示させます。
3. ポップアップ・メニューから、「メインパネルへ表示」を選択します。

7.2.1.3 フロント・パネル上のコントロールの置換

フロント・パネルのコントロールを簡単に置換するには、サブパネルのコントロールと交換します。

1. 置換したいコントロールのサブパネルをオープンします。そのコントロールにサブパネル・コントロールがない場合には、次の手順に従って作成できます。
 - a. フロント・パネルのコントロールをポイントして、マウス・ボタン 3 をクリックします。
 - b. ポップアップ・メニューから、「サブパネルの追加」を選択します。
 - c. 新しいサブパネルが表示されます。
 - d. 7.2.1.2 項の説明に従って、フロント・パネルに配置したいコントロールをサブパネルに追加します。
2. サブパネルのコントロールをポイントしてマウス・ボタン 3 をクリックし、ポップアップ・メニューを表示します。
3. ポップアップ・メニューから、「メインパネルへ表示」を選択します。

サブパネルを作成したけれども保持したくない場合には、フロント・パネル・コントロールのアイコンをポイントして、マウス・ボタン 3 をクリックします。その後、「サブパネルの削除」オプションを選択します。

ユーザが操作に習熟している場合には、フロント・パネルの特性を変更するフロント・パネル構成ファイルを作成または編集できます。詳細については、『*Common Desktop Environment: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド*』を参照してください。

7.2.1.4 フロント・パネルに対するカスタマイズ内容の削除

「アイコンのインストール」コントロールまたはフロント・パネルのポップアップ・メニューを使用して行われたフロント・パネルに対するカスタマイズは、次の手順に従って取り除くことができます。

1. アプリケーション・マネージャをオープンします。
2. 「デスクトップツール」をダブルクリックします。
3. 「フロント・パネルの復元」をダブルクリックします。

この手順は、フロント・パネル構成ファイルを使用して行われたカスタマイズには影響しません。

7.2.2 アプリケーション・マネージャからのアプリケーションの起動

アプリケーション・マネージャには、組み込みのアプリケーション・グループが含まれています。各アプリケーション・グループは、アプリケーションをオープンするための1つまたは複数のアイコンを含むディレクトリです。アイコン・グループには、データ・ファイル、テンプレート、“read me”ファイルなど、他のアプリケーション・ファイルが含まれます。表 7-1 に、アプリケーション・マネージャ内の省略時の組み込みアプリケーション・グループを示します。

表 7-1: 組み込みのアプリケーション・グループ

グループ	説明
Conversion_Tools	DECwindows カレンダーから CDE カレンダーへ移行し、メール・フォルダを dxmail フォーマットから CDE の dtmail フォーマットへ変換するアプリケーションを提供します。
デスクトップアプリケーション	ファイル・マネージャ、アプリケーション・マネージャ、カレンダー・アプリケーションなどのデスクトップ・アプリケーションを提供します。
デスクトップツール	vi テキスト・エディタ、スペル・チェック、アプリケーションの再ロードなど、デスクトップを管理するために一般に使用するツールを提供します。

グループ	説明
インフォメーション	よく使用するヘルプ・ボリュームを提供します。
システム管理	システムを管理するためにシステム管理者が使用するツールを提供します。

この他にもアプリケーション・グループを追加できます。上記の表で示すのは、省略時のグループです。

アプリケーション・マネージャからアプリケーションを起動するには、次の手順に従ってください。

1. アプリケーションが配置されているアプリケーション・グループをダブルクリックします。
2. アプリケーションをダブルクリックします。

『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』の説明に従って、ユーザ自身のアプリケーション・グループを作成することもできます。

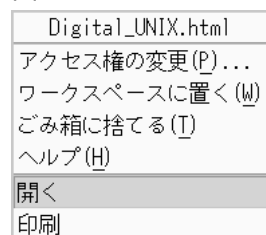
7.2.3 ファイル・マネージャによるアプリケーションの実行

ファイル・マネージャは、ファイル、フォルダ、アプリケーションなどのデスクトップ・オブジェクトの作成、検索、および管理を行う場合に主に使用されます。アプリケーションがデータ・ファイルを使用する場合、そのアプリケーションのデータ・ファイルを使用して、ファイル・マネージャからアプリケーションを起動できます。

データ・ファイルを使用してアプリケーションを起動する場合には、次のいずれかの方法を使用します。

- アプリケーションのデータ・ファイルをダブルクリックします。
たとえば、ビットマップ・ファイル `.bm` をダブルクリックすると、アイコン・エディタ・アプリケーションが開始されます。
- アプリケーションのデータ・ファイルをポイントしてマウス・ボタン 3 をクリックし、ポップアップ・メニューから「開く」を選択します。

図 7-5: ファイル・マネージャのポップアップ・メニュー



ファイル・マネージャでドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、アプリケーションと対話させることができます。たとえば、ファイル・マネージャからファイルをドラッグし、印刷マネージャにドロップすることによりファイルをプリントできます。また、拡張子 `.sdl` が付くヘルプ・ボリュームをドラッグしてヘルプ・マネージャにドロップすると、このヘルプ・ボリュームをオープンすることができます。

7.2.4 DECwindows Motif アプリケーションの使用方法

DECwindows Motif の前バージョンで利用できたアプリケーションのほとんどは、CDE でもそれに相当するものを提供しています。相当するものが CDE には提供されていないアプリケーションについてはデスクトップに組み込まれており、アプリケーション・マネージャを介して使用できます。

表 7-2 に、DECwindows Motif アプリケーションをリストします。アプリケーション名の後に、使用を推奨するアプリケーション、実行可能プログラム名、およびそのロケーションを示します。CDE に組み込まれていない DECwindows Motif アプリケーションを使用したい場合には、`/usr/bin/X11` にあるものを使用できます。

表 7-2: CDE での使用を推奨するアプリケーション

DECwindows アプリケーション名	推奨アプリケーション名	実行プログラム	ロケーション
ブックリーダー	ネットスケープ ^a	<code>netscape</code>	フロント・パネル (「個人アプリケーション」サブパネル)
	CDE ヘルプ・ビューア ^a	<code>dthelpview</code>	フロント・パネル (ヘルプ・マネージャ)
電卓	CDE 電卓	<code>dtcalc</code>	フロント・パネル

DECwindows アプリケーション名	推奨アプリケーション名	実行プログラム	ロケーション
カレンダー	CDE カレンダー ^b	dtdcm	フロント・パネル
カードファイラ	クリップボードの内容	xclipboard	アプリケーション・マネージャ
イメージビューア	イメージビューア ^c	dximageview	アプリケーション・マネージャ
時計	CDE 時計 ^d		フロント・パネル
漢字端末エミュレータ	CDE 端末エミュレータ	dtterm	フロント・パネル ^e
テキスト比較	テキスト比較 ^f	dxdiff	アプリケーション・マネージャ
電子メール	CDE メール ^b	dtmail	フロント・パネル
ノートパッド	CDE テキスト・エディタ	dtpad	フロント・パネル
ペイント	CDE アイコン・エディタ	dticon	フロント・パネル (「個人アプリケーション」サブパネル)

^aドキュメント・セットおよびオンライン・ヘルプについての説明は、1.3 節を参照してください。

^bDECwindows Motif のメール・フォルダおよびカレンダー・データベースを、CDE のメールおよびカレンダーのアプリケーションが認識できるフォーマットに変換するために使用できる移行ツールを用意しています。これらの変換プログラムの使用方法については、第 10 章を参照してください。

^cCDE に統合されているデスクトップ・アプリケーションのイメージビューア (dximageview) の使用を推奨します。イメージビューアは、アプリケーション・マネージャから使用できます。詳細については、5.3.3 項を参照してください。

^dCDE の時計は、表示専用で処理は行いません。アラームを設定するには、CDE のカレンダー・アプリケーションを使用してください。

^eフロント・パネルから CDE 端末エミュレータを開始すると、システム・リソースをかなり多量に消費します。端末エミュレータ・ウィンドウをいくつかオープンする場合には、既存の端末エミュレータ・ウィンドウから「ウィンドウ」メニューを選択し、「新規」メニュー項目を選択して、新しい端末エミュレータを起動してください。

^fテキスト比較は、CDE に組み込まれているデスクトップ・アプリケーションです。詳細については、5.3.2 項を参照してください。

次の DECwindows アプリケーションは、本バージョンのオペレーティング・システムからサポートされなくなりました。表 7-3 に代替アプリケーションを示します。

表 7-3: サポートされなくなった DECwindows アプリケーション

リタイアした DECWindows アプリケーション	代替アプリケーション
dxprint	dtlp
dxcalendar	dtcm
dxcalc	dtcalc, xcalc
dxclock	フロント・パネル, xclock
dxpaint	dticon/dtstyle, bitmap
dxnotepad	dtpad
dxbook	dthelpview, Netscape
dxcardfiler	N/A
dxsession	xdm, dtsession
dxvdoc	ghostview
dxmail	dtmail, xmh, exmh, Netscape メール



環境のカスタマイズ

新しいユーザ・インタフェースに移行する際には、常に変更を想定しなければなりません。CDE (Common Desktop Environment) は、環境をカスタマイズするためのツールと方法を提供します。これらのツールとメソッドは、DECwindows Motif 環境で使用されるツールとメソッドとは異なるものです。この章では、セッションをカスタマイズする方法について簡単に説明します。

この章では、次の事項について説明します。

- スタートアップ環境のカスタマイズ
- セッション・マネージャの設定変更
- ウィンドウのパターンとカラーのカスタマイズ
- セキュリティ設定の変更
- キーボード設定のカスタマイズ
- セッション言語の指定
- マウスおよびポインタの動作内容のカスタマイズ
- 設定のセーブおよびリストア
- リソース・ファイルの変更

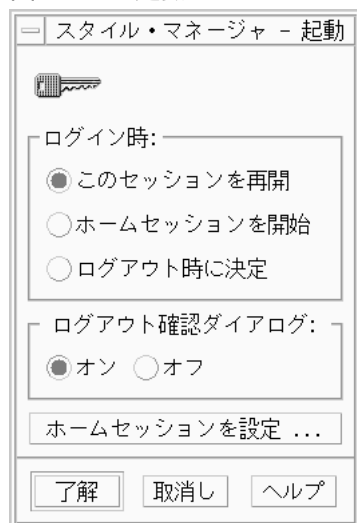
8.1 スタートアップ環境のカスタマイズ

CDE では、よく使用するアプリケーションをフロント・パネルとサブパネルに追加できます。フロント・パネルとサブパネルへのアプリケーションの追加については、7.2.1 項を参照してください。スタートアップ時に自動的に開始するアプリケーションは、スタイル・マネージャの「起動」コントロールの使用時に設定したオプションによって決定されます。



スタイル・マネージャの「起動」コントロールをクリックすると、ダイアログ・ボックスが表示されます。ログインする時に、現在のセッションを再開するか、ホーム・セッションに戻るか、または、ログアウト時に決定するかを、オプションで指定できます。

図 8-1: 「起動」コントロール



- 「このセッションを再開」を選択すると、セッションはログアウト時の状態にリストアされます。
- 「ホームセッションを開始」を選択すると、いつも同じ状態でログインします。つまり、現在のセッションで指定された設定はすべて無視されます。
- リモートのワークステーションからログインしているときに、特定のディスプレイを使用している場合は、「ログアウト時に決定」を選択すると、セッション・リソースの特定のセットが使用されます。ディスプレイ固有のセッションを設定するには、次の手順に従ってください。

1. `$HOME/.dt/display` ディレクトリを作成します。`display` には、`host:0` など、実在するホスト名を修飾子なしで指定します。修

飾子を付けて `host.site.com:0` のように指定すると無効になります。

2. `$HOME/.dt/sessions` ディレクトリのすべての内容を新しいディレクトリ `$HOME/.dt/display` にコピーします。ファイルおよびサブディレクトリをすべて含めるようにしてください。

`$DISPLAY` を `display` (たとえば `host:0`) に設定してログインすると、`$HOME/.dt/display` ディレクトリにあるセッション・リソースが使用されます。

アプリケーションの追加およびログイン・セッションの設定についての説明は、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。ディスプレイ固有のセッションの設定についての説明は、『*Common Desktop Environment: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド*』を参照してください。

8.2 セッション・マネージャの設定変更

CDE では、フェイルセーフ・セッション、またはコマンド行ログイン・セッションを起動しない限り、フロント・パネルは必ず表示されます。システムへのログイン後にフロント・パネルをアイコンに変えるには、ウィンドウまたはメニュー・コントロールを使用します。

ログアウト時の確認メッセージのオン/オフの切り替えには、スタイル・マネージャの「起動」コントロール  を使用します。

DECwindows Motif で可能だったロック (一時停止) スクリーン・メッセージの変更はできません。

8.3 ウィンドウのパターンとカラーのカスタマイズ

この節では、次の操作を行う方法について説明します。

- 異なるウィンドウ・マネージャの選択
- スクリーン・セーバの指定
- バックグラウンド・パターンの変更
- ソリッド・フォアグラウンドとバックグラウンドの選択

- ウィンドウのフォアグラウンド、バックグラウンド、強調表示、および境界のカラーの選択


CDE を使用している場合には、これらのオプションの変更操作が異なります。以降の各項では、ウィンドウ・マネージャの変更方法、スクリーン・セーバとロック・バックグラウンドの指定方法、バックグラウンド・パターンの選択方法、およびカラーの変更方法について説明します。

8.3.1 ウィンドウ・マネージャの変更

CDE セッションを開始すると、省略時のウィンドウ・マネージャである `/usr/dt/bin/dtwm` が開始されます。DECwindows Motif 環境の場合とは違って、代替ウィンドウ・マネージャの指定は高度な機能です。CDE のウィンドウ・マネージャを変更するには、リソース・ファイルを編集します。詳細については、『*Common Desktop Environment: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド*』を参照してください。

8.3.2 スクリーン・セーバおよびロック・スクリーン・バックグラウンドの指定

スクリーン・セーバを使用すれば、指定した経過時間後にスクリーンをブランクにするので、モニタの寿命を延ばすことができます。省略時の設定では、モニタは 10 分後に表示をブランクにします。マウスを動かすと、表示は再開します。CDE のフロント・パネルからセッションを休止させると、スクリーン・ロック・バックグラウンドが表示されます。

スタイル・マネージャの「画面」コントロール  を使用して、表示するものをカスタマイズできます。4.3.2 項を参照してください。

8.3.3 バックグラウンド・パターンの選択


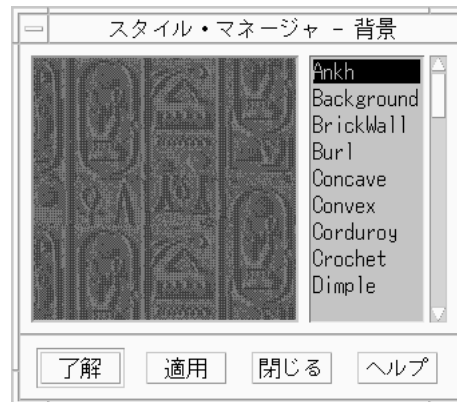
CDE では、スタイル・マネージャの「背景」コントロール  を使用して、ワークスペースのそれぞれにバックグラウンド・パターンを指定できます。スタイル・マネージャの「背景」コントロールはダイアログ・ボックスをオープンし、使用するバックグラウンドの選択リストを示します。オプションのリストから「NoBackdrop」を選択して、ルート・ウィンドウを表示することもできます。

図 8-2: 「背景」コントロール



8.3.4 スクリーンおよびウィンドウのカラーの変更


CDE スタイル・マネージャ使用時には、スタイル・マネージャの「カラー」コントロール  を使用してカラーが設定されます。

図 8-3: カラー・コントロール






「カラー」コントロールは、ディスプレイのタイプに従って、スクリーン、ウィンドウ、ワークスペース、およびフロント・パネルのカラーを設定します。ディスプレイのタイプによって、2、4、または8個のカラー・ボタンを使用して、ウィンドウ、ウィンドウ枠、ワークスペース、テキスト領域、リスト領域、およびフロント・パネルのバックグラウンドのカラーを制御で

きます。カラーの制御とカラー・パレットの選択については、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

8.4 セキュリティ設定の変更

セキュリティの設定を変更するには、ホスト・マネージャ・アプリケーションまたは `xhost` コマンドを使用します。ホスト・マネージャにより、ローカル・システムが認識するすべてのホストのアイコン、または指定したホストのアイコンが表示されます。ホスト・マネージャを使用すれば、`DISPLAY` 環境変数を設定し、リモート・システムからアプリケーションを実行できます。


アプリケーション・マネージャから Host Manager を開始するには、次の手順に従います。

1. システム管理  をダブルクリックします。
2. 日常管理  をダブルクリックします。
3. ホスト・マネージャ  アプリケーションをダブルクリックします。

詳細については、Host Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。オンライン・ヘルプを見るには、アプリケーションの中から「Help」メニューをクリックします。

`xhost` コマンドについては、`xhost(1X)` リファレンス・ページを参照してください。

8.5 キーボード設定のカスタマイズ

CDE を使用している場合には、スタイル・マネージャ・コントロールおよび「キーボード設定」 アプリケーションを使用して、キーボード設定を変更できます。以降の項では、これらの方法について説明します。

注意


省略時のキーボード設定については、『リリース・ノート』および『インストール・ガイド』を参照してください。

この節では、次の事項について説明します。

- スタイル・マネージャによるキーボード設定の調整
- 「キーボード設定」によるキーボード設定の調整
- PC スタイル・キーボードの変更

8.5.1 スタイル・マネージャによるキーボード設定の調整

スタイル・マネージャのコントロールを使用すれば、次のキーボード設定が調整可能です。

- ビープ音 (ベル) の音量 

警告ビープ音 (ベル) の音量、音程および鳴っている時間を設定できます。またはビープ音が鳴らないように設定できます。警告ビープ音はシステム・メッセージを通知したり、vi テキスト・エディタなどのアプリケーションで間違ったキーの組み合わせをタイプしたときに鳴ります。

図 8-4: 「ビープ音」コントロール



- キーのクリック音のボリュームとオートリピート


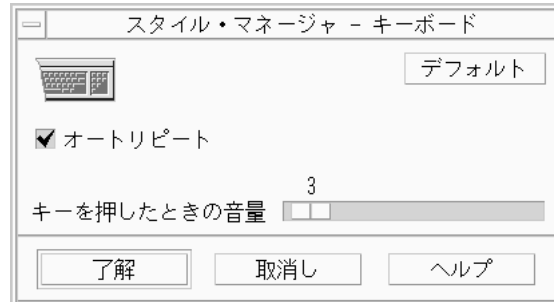
タイプしたときのキーのクリック音の音量を設定できます。またはタイプ音がしないように設定できます。キーを押し続けた場合にそのキーの入力を繰り返すかどうか (オートリピート) も設定できます。キーのクリック音の音量を調整し、オートリピートのオン/オフを切り替えるには、スタイル・マネージャの「キーボード」コントロール  を使用します。ダイアログ・ボックスが表示され、キーのクリック音の音量とオートリピートの設定を変更できます。


図 8-5: 「キーボード」コントロール



注意

すべてのキーボードで、キーのクリック音やビープ (ベル) 音の音量、音程、音長を変更できるわけではありません。

8.5.2 「キーボード設定」によるキーボード設定の調整

「キーボード設定」アプリケーション  は、CDE インタフェースに移行されて、組み込まれています。「キーボード設定」は、キーボード設定を制御するための多くのオプションを提供します。このアプリケーションを使用して、次の値を設定できます。

- キーボード・タイプ
- 言語タイプ
- ロック・キーの状態

「キーボード設定」アプリケーションを使用すれば、キーキャップ編集アプリケーションを開始し、それ以降のセッションの設定をセーブしてロードすることもできます。キーボード設定およびキーキャップ編集アプリケーションについての詳しい説明は、第 5 章を参照してください。

8.5.3 PC スタイル・キーボードの変更

ワークステーションの中には、PC (パーソナル・コンピュータ) スタイルのキーボードが付いているものがあります。現時点では、この種のキーボードには次のモデル番号のうちのいずれか 1 つが付いています。今後、モデルの種類は増える可能性があります。

- PCXAL
- LK443
- LK444
- PCXAJ（日本語 106 PC キーボード）

その他のワークステーションには、LK201 や LK401 などのキーボードが付いています。

これら 2 つのスタイルのキーボードでは、キーに割り当てられた機能もファンクション・キーの数も異なります。たとえば、PC スタイルのキーボードには、ファンクション・キーが 12 個 (F1 ~ F12) しかありませんが、LK201/LK401 キーボードには 20 個 (F1 ~ F14, Help, Do, および F17 ~ F20) があります。

このオペレーティング・システムでは、キーボードのスタイルを切り替えるためのマッピングを自動的に実行するスクリプトを提供しています。/usr/examples/pc_to_lk_keys.sh スクリプトは、xmodmap ユーティリティを使用して、キーボード修飾キーマップと keysym テーブルを編集します。このユーティリティについての詳細は、リファレンス・ページ xmodmap(1X) を参照してください。

PC スタイルのキーボードを使用する場合には、スクリプトの実行によって、キーボードの一番上にあるファンクション・キー列のいくつかのキーと同じように、メイン・キーボードの右側にある 2 つのキーパッドのキーのほとんどを LK201/LK401 キーボードの対応するキーへマップできます。たとえば、LK201/LK401 キーボードからキーパッドの **Find** 機能を実行するために、スクリプトを実行して、PC スタイル・キーボードのキーパッドの **Insert** キーの機能を変更できます。

同様に、LK201/LK401 スタイルのキーボードを使用する場合には、同じスクリプトを -u フラグを指定して実行し、キーパッドのキーを対応する PC スタイルのキーへマップできます。

スクリプトのコピーは、システムの次のファイルにあります。

```
/usr/examples/pc_to_lk_keys.sh
```

スクリプトを実行するには、システム・プロンプトで、コマンドを入力する場合と同じように、入力ファイル名を入力します。次に示す例の最初のコマ

ンド行は、PC スタイルのキーを LK201/LK401 のキーに変更します。2 番目のコマンド行は、LK201/LK401 のキーを PC スタイルのキーに変更します。

```
% /usr/examples/pc_to_lk_keys.sh
% /usr/examples/pc_to_lk_keys.sh -u
```

ワークステーションにログインするたびに自動的にスクリプトを実行させるには、エディタを使用して、ホーム・ディレクトリに次の内容の `.xsession` ファイルを作成または変更します。

```
#!/bin/sh
/usr/examples/pc_to_lk_keys.sh
dxsession
```

この内容は、PC スタイルのキーを LK201/LK401 のキーに変更します。同じ `.xsession` ファイルで、`-u` フラグを 2 番目の行の終わりに付加すると、LK201/LK401 のキーを PC スタイルのキーに変更します。

これで、ログインするたびにキーボードは異なるキーボード・スタイルに自動的に設定されます。





表 8-1 は、LK201/LK401 キーボードのキーと、それに対応する PC スタイル・キーボードを示します。

表 8-1: LK201/LK401 キーの機能および対応する PC スタイル・キー

LK201/LK401 キーボードのキー	対応する PC スタイル・キーボードのキーまたは機能
Help	Print Screen
Do/Menu	Scroll Lock
Insert	Home
Find	Insert
Remove	Page Up
Next	Page Down
Select	Delete
Prev	End
キーパッド 0	Ins, キーパッド 0
キーパッド 1	End, キーパッド 1
キーパッド 2	, キーパッド 2
キーパッド 3	PgDn, キーパッド 3

LK201/LK401 キーボードのキー	対応する PC スタイル・キーボードのキーまたは機能
キーパッド 4	, キーパッド 4
キーパッド 5	キーパッド 5
キーパッド 6	, キーパッド 6
キーパッド 7	Home, キーパッド 7
キーパッド 8	, キーパッド 8
キーパッド 9	PgUp, キーパッド 9
キーパッド . (ピリオド)	キーパッド Del
キーパッド -	キーパッド + (加算記号)
キーパッド ,	対応する PC スタイル・キーパッドのキーはありません。
キーパッド Enter	キーパッド Enter
PF1	Num Lock
PF2	キーパッド / (除算記号)
PF3	キーパッド * (乗算記号)
PF4	キーパッド - (減算記号)

注意

PC スタイル・キーボードには、LK201/LK401 キーボードの  とマークされたキーに対応する位置に、 のラベルをもつキーがあります。どちらのスタイルのキーボードでも、このキーを押すと、カーソルの左側の文字が削除されます。PC スタイルのキーボードでは、近くのキーパッドにある  キーを使用して、ブロック・カーソルがある文字または行カーソルの左側の文字を削除できます。キーボード・マッピングでは、 と  キーでバックスペース機能になります。PC スタイル・キーボードの  キーで削除機能になります。

8.6 セッション言語の指定

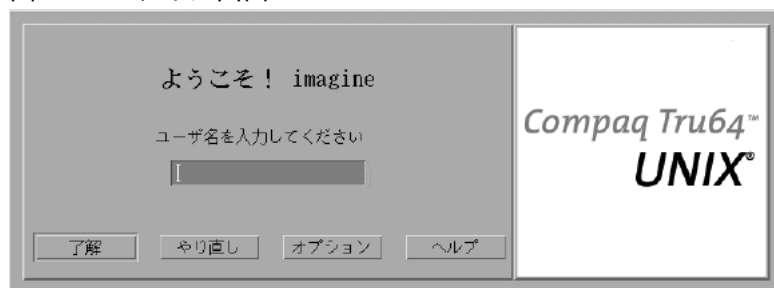
CDE を使用すれば、システムにログインするたびに言語タイプを指定できます。セッション中は言語を変更できません。

デフォルトの言語は、システム管理者が設定します。ログイン画面からセッション言語を設定するには、「オプション」メニューをクリックしてから、「言語」メニュー項目をクリックして言語グループを選択します。システムにインストールされている言語のリストから選択できます。セッションを終了すると、デフォルトの言語がリストアされます。

注意

CDE では、`.Xdefaults` ファイルでの `xnlLanguage` の設定はすべて無視されます。CDE がこの設定を無視するのは、ユーザがログイン画面の「オプション」メニューで選択した言語が変更されないようにするためです。

図 8-6: ログイン画面



8.7 マウスおよびポインタの動作内容のカスタマイズ


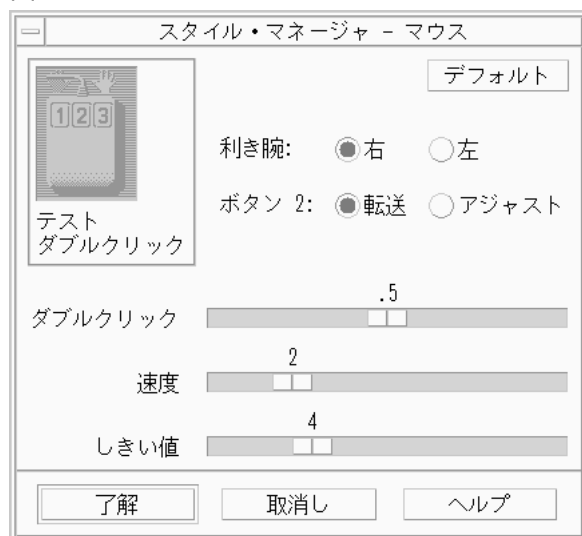
CDE では、スタイル・マネージャの「マウス」コントロール  を使用して、マウスとポインタの動作内容を調整できます。CDE には、DECwindows Motif 環境では利用できない調整機能がいくつか用意されています。ただし、CDE の使用時にはポインタの色または形の調整はできません。

図 8-7: 「マウス」コントロール



「マウス」コントロールを使用して、次の設定を調整できます。

- 利き腕 (ボタンの配列)

マウス・ボタンの解釈方式を指定します。省略時の設定では、マウス・ボタンは右利き用に配置されます。つまり、左端のボタンがマウス・ボタン 1 で、右端のボタンがマウス・ボタン 3 です。左利き用に、マウス・ボタン 1 を左端のボタンに、マウス・ボタン 3 を右端のボタンに設定することもできます。

- ボタン 2

マウス・ボタン 2 の動作内容を指定します。マウス・ボタン 2 は転送またはアジャスト・モードに設定できます。「転送」を選択すると、リストまたはテキスト項目のドラッグ・アンド・ドロップ操作にマウス・ボタン 2 を使用します (アプリケーションがサポートしている場合)。

「アジャスト」を選択すると、複数選択リストでのリスト選択の拡張あるいはテキスト・フィールドでのテキスト選択の拡張にマウス・ボタン 2 を使用できます。リスト項目は、マウス・ボタン 1 を使用してドラッグ・アンド・ドロップされます。

- ダブルクリック

2 回連続してマウスをクリックしたときにダブルクリック・アクションとして認識するための制限時間を設定します。

- 速度


スクリーン内をポインタが移動する速度を変更するためのスライダを提供します。たとえば、速度を 2 に設定すると、マウスが移動する速度の 2 倍の速度でポインタが移動します。

- しきい値

指定した加速度でポインタを移動させるためにマウスを移動させなければならない最小のピクセル数を指定します。

8.8 設定のセーブおよびリストア

セッション中に行った変更はセーブできます。スタイル・マネージャを使用してオプションまたは設定を変更する場合には、各コントロールによって提供されるダイアログ・ボックスで「了解」または「適用」を選択します。CDE スタイル・マネージャの「起動」コントロールを使用すれば、変更した設定を次のセッションでも使用するかどうかを指定できます (図 8-1 を参照)。

CDE スタイル・マネージャの「起動」コントロール  は、現在のセッション、ホーム・セッション、またはディスプレイ固有のセッションのどれに戻るのかを指定します。

8.9 リソース・ファイルの変更

『*Common Desktop Environment: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド*』は、環境を変更するために変更できるリソース・ファイルについて記述しています。この節では、以前 DECwindows Motif で編集されていたリソース・ファイルについて簡単に説明し、それらのファイルが現在でも有効であるかどうかを示します。

- `.xsession` ファイルは新しい環境でも有効です。
- `.Xdefaults` ファイルはまだ使用できますが、アプリケーションの自動スタートアップは有効ではありません。
- `.mwmrc` ファイルは `$HOME/.dt/dtwmrc` ファイルに置き換えられました。
- `.X11start` ファイルは `$HOME/.dt/session/sessionetc` ファイルに置き換えられました。

DECwindows Motif では、システム管理者はしばしば `/usr/lib/X11/xdm` のファイルを編集していました。CDE にも同等のファイルが `/usr/dt/config` にあります。これらのファイルには、`Xaccess`、`Xservers`、`Xsession` および `Xsetup/Xsetup -0` が含まれます。



国際化機能の使用方法

この章では、国際化機能の使用方法について説明します。DECwindows Motif 環境から CDE への移行は、国際化機能を使用しているユーザにいくつかの影響を与えます。DECwindows Motif 環境と CDE では、次のような国際化機能に関する違いがあります。

- 使用言語の選択方法
- キーボード・タイプの指定、キーマップのロード、および入力メソッドの選択方法
- 端末エミュレータの使用方法
- メールの使用方法

以降の各項で、これらの違いについて説明し、CDE で同じ作業を行う方法について説明します。

9.1 使用言語の選択

CDE 環境では「オプション」メニューを使用して使用言語を随時変更します。デフォルトの言語はシステム管理者が設定しますが、セッション開始時に言語を選択したり、CDE の `xconfig` ファイルにリソースを設定したりすることができます。ただし、セッション中、選択した言語は変更できません。ログイン画面から言語を設定する方法については、2.3.1 項を参照してください。

注意

CDE では、`.Xdefaults` ファイルでの `xnlLanguage` の設定はすべて無視されます。CDE がこの設定を無視するのは、ユーザがログイン画面の「オプション」メニューで選択した言語が変更されないようにするためです。

Xconfig リソース・ファイルを編集して省略時のセッションを設定するには、次の手順に従います。

1. /etc/dt/config というディレクトリがない場合は、これを作成します。このディレクトリの作成には、ルート特権が必要です。
2. 手順 1 で作成したディレクトリに /usr/dt/config/Xconfig ファイルをコピーします。
3. /etc/dt/config/Xconfig ファイルを編集し、省略時の言語として使用したい言語を登録します。たとえば、日本語 EUC を使用したい場合には次のように入力します。

```
defaultLanguage: ja_JP.eucJP
```

CDE ログイン画面の「オプション」メニューで別の言語を選択することによって、この言語設定を変更することもできます。

システムにログインした後に開始するアプリケーションは、言語の選択方法に関係なく、選択された言語で表示されます。

9.2 キーボード・タイプ、キーボード属性、入力方法の指定

CDE を使用している場合には、キーキャップ編集、キーボード設定、および入力サーバ・オプションの各アプリケーションを使用して特性を変更しなければなりません。

キーボード設定アプリケーションを使用すると、ローカライズされたキーマップを選択したり、ロック・キー状態を設定したりできます。また、このアプリケーションからは、キーキャップ・マッピングの変更のためのキーキャップ編集アプリケーションも起動できます。キーボード設定アプリケーションの使用方法については、5.3.5 項を参照してください。

キーキャップ編集アプリケーションを使用すれば、キーボード・タイプの選択、キー・イベントのシミュレーション、キーボード・マッピングの表示および編集などができます。キーキャップ編集アプリケーションの使用方法については、5.3.6 項を参照してください。

入力サーバ・オプション・アプリケーションを使用すると、システムがどのようにキーストロークを解釈するかを変更できます。たとえば、日本や中国で用いる漢字などのアジア系の言語の文字 (マルチバイト文字) をキーボー

ドから入力できます。このアプリケーションの詳細については 5.3.4 項を参照してください。

注意

アジア系の言語の場合は、システムにログインすると、CDE セッション・マネージャによって該当する入力方法に対応するサーバが自動的にスタートします。この機能を使用しないようにするには、`.dtprofile` ファイルを編集し、`DTSTARTIMS` を `False` に設定してください。

日本語環境で自動的に起動される入力サーバは、`dxjim` です。`dxjim` の詳細については、『日本語 Motif 日本語機能説明書』を参照してください。

9.3 端末エミュレータの使用方法

CDE インタフェースの省略時の端末エミュレータは `dtterm` です。この `dtterm` 端末エミュレータには次の機能はありません。

- 双方向対応 (ヘブライ語の場合に必要)
- ゼロ幅文字のサポート (タイ語の場合に必要)
- 罫線のサポート (日本語の場合に必要)

この端末エミュレータはこれらの機能をサポートしていないので、上述の対応が必要な場合には DECwindows Motif の端末エミュレータである `dxterm` を使用してください。`dxterm` は、アプリケーション・マネージャからアクセスできます。ロケールによっては、個人用テキスト・エディタ・アプリケーション・サブパネルからも `dxterm` を使用できます。また、`dxterm` 端末エミュレータを `dtterm` 端末エミュレータ・ウィンドウから起動したり、7.2.1 項に示す手順に従ってフロント・パネルまたはサブパネルに登録したりすることもできます。

注意

日本語の場合、`dxterm` は漢字端末エミュレータという名前で個人アプリケーション・サブパネルに登録されています。

dxterm 端末エミュレータの使用方法については、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

9.4 メール使用方法

CDE のメール・アプリケーション dtmail を使用する場合は、コードセット変換機能をオンにする必要はありません。この機能は、`/usr/dt/config/svc/OSF1.lcx` 構成ファイルにより自動的にオンに設定されます。この構成ファイルには必要な情報が保管されています。

メールとカレンダーの移行

この章では、メールおよびカレンダーを CDE へ移行する方法について説明します。多くのユーザは、現在のメール・フォルダとカレンダー・データベースを新しい環境下でも引き続き利用したいと思うものですが、一般に新しいアプリケーションに変更することによって、この情報が失われることがよくあります。複雑な移行を簡単にするために、この章で説明するツールを使用して、既存の `dxmail` および `dxcalendar` のフォルダとデータベースを、CDE メール・アプリケーションおよびカレンダー・アプリケーションで認識可能なフォーマットに変換できます。

CDE のメール・アプリケーションおよびカレンダー・アプリケーションの使用方法については、『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。メール・ハンドラ `MH/dxmail` および `dtmail` の相違点については、付録 A を参照してください。

この章では、次の事項について説明します。

- メール・フォーマットの変換
- カレンダー・データベースの変換

10.1 メール・フォーマットの変換

CDE のメール・アプリケーションは環境と完全に一体化しているため、既存の `dxmail` アプリケーションを引き続き使用するよりもユーザにとって便利です。たとえば、CDE の別のアプリケーションからファイルをドラッグして、このメール・アプリケーションにドロップすれば、そのファイルをメール・アプリケーションで処理することができます。

また、CDE メール・アプリケーションでは、MIME (Multimedia Internet Messages Extension) をサポートしています。この機能により、ASCII テキスト以外のフォーマットのメール・メッセージ (たとえば、ビデオ・フォーマットのメッセージ) を送受信できます。

メールのフォーマットを、CDE メール・アプリケーションで読み取り可能なフォーマットに変換するには、両方のアプリケーションでのメールの格納方法を理解しておく必要があります。その上で、mailcv ユーティリティまたは CDE ファイル・マネージャを使用することによって、メールを dxmail フォーマットから dtmail フォーマットに変換できます。

この節では、次の事項について説明します。

- メール格納方法について
- メール変換ユーティリティによるメールの変換
- ファイル・マネージャによるメールの変換方法

10.1.1 メール格納方法について

アプリケーション dxmail および dtmail では、それぞれ異なる方法で情報を格納します。このため、dxmail フォルダを、dtmail アプリケーションで読み取り可能なフォーマットに変換しなければなりません。

10.1.1.1 MH/dxmail の格納

メールを格納するために、MH/dxmail アプリケーションはメールの階層構造を最上位ディレクトリで作成します。このディレクトリの位置は、`$HOME/.mh-profile` で定義されています。このプロファイルは、最上位ディレクトリの位置を指定するだけでなく、メールの設定に関するその他の情報も含んでいます。通常、最上位ディレクトリのパスは `$HOME/Mail` に設定されています。このパスを変更した場合は、`+` フラグを指定して `mhpath` コマンドを使用することにより、ディレクトリの位置を確認できます。メール・フォルダの変換の際には、最上位ディレクトリの位置を把握しておく必要があります。

注意

`mhpath` コマンドを使用するには、MH サブセットがシステムにインストールされている必要があります。

最上位ディレクトリ `Mai` の下に、他のディレクトリ (フォルダ) またはファイルを複数設定できます。メッセージはフォルダ内に番号順に格納されます。各メッセージは、次に示すように、個々のファイルに対応しています。

10-2 メールとカレンダーの移行

Mail

/inbox	/drafts	/meetings		/personal	
1,2,3	1,2	/group	/unit	1,2,3	/gardening
		1,2,3	1,2,3		1,2,3

上記の例では、最上位ディレクトリ Mail のすぐ下に 4 つのフォルダがあります。各メッセージは、番号がついて格納されます。たとえば、Inbox フォルダの下には、各メール・メッセージを保持する 3 つのファイルがあります。これらのファイルにはそれぞれ、1, 2, 3 という番号がつけられます。meetings ディレクトリなどのように、その下にサブディレクトリを持つこともできます。meetings ディレクトリの場合、さらにその下に group および unit というサブディレクトリがあります。メール・メッセージは、これらのディレクトリにおいてさらに細かく番号順に分類されます。

10.1.1.2 CDE メール の格納

CDE メール・アプリケーション dtmail には、メッセージ格納のために設定された構造がありません。アクセスできるディレクトリであればどのディレクトリにもメール・フォルダを作成できます。また、UNIX “From” フォーマットを使用して、1 つのメール・フォルダに複数のメッセージを格納できます。同じメール・フォルダに格納されたメール・メッセージは連結され、UNIX From ヘッダによって各メッセージが区切られます。mailx などのメール・ユーティリティではこのフォーマットを使用しているため、これらのメッセージを読み取ることができます。次に示すのは、dtmail アプリケーションを使用して作成できるメール階層の例です。この例では、.mbe という拡張子のついたメール・フォルダにメッセージが格納されます。

MailBox

inbox.mbe	drafts.mbe	/meetings		/status
		/group	/unit	jan.mbe feb.mbe
		wkly.mbe	mthly.mbe	

この例では、MailBox という最上位ディレクトリが表示されています。この最上位ディレクトリの下には、ディレクトリとメール・フォルダがあります。メール・フォルダには 1 つまたは複数のメール・メッセージを保持できます。メール・ディレクトリにはメール・フォルダおよび他のサブディレクトリを入れることができます。メッセージは、格納された順に連結されます。

10.1.2 メール変換ユーティリティによるメールの変換

mailcv ユーティリティは、ディレクトリ全体または個々のフォルダを変換するためのコマンド行インタフェースです。メールの変換方法を制御するためのフラグもいくつか用意されています。さらに、mailcv ユーティリティを使用してメッセージ格納時のエラーを検出することもできます。メール変換ユーティリティについての詳細は、mailcv(1) リファレンス・ページを参照してください。

省略時の設定では、dxmail アプリケーションで作成したすべてのメッセージ (不正なメッセージも含む) が変換されます。不正なメッセージについては、10.1.2.4 項を参照してください。

10.1.2.1 メール・ディレクトリ全体の変換方法

mailcv ユーティリティを使用してメール・ディレクトリ (フォルダ) 全体を変換するには、次の手順に従ってください。

1. 最上位のメール・ディレクトリに移動します。省略時のパスは \$HOME/Mail です。
2. ディレクトリおよびサブディレクトリ全体を変換したい場合は、-A フラグをつけて mailcv コマンドを入力します。その際、現在のディレクトリ名と作成する新しいディレクトリ名を指定しなければなりません。

```
% mailcv -A $HOME/Mail $HOME/NewMail
```

上記の例では、NewMail という新しい最上位ディレクトリが作成されます。このとき、dxmail のフォルダ構造に対応するサブディレクトリが作成されて、すべてのメール・メッセージが変換されます。

10.1.2.2 個々のフォルダの変換方法

mailcv ユーティリティを使用して個々のフォルダを変換するには、次の手順に従ってください。

1. 変換したい MH のフォルダ・ファイルおよびメッセージ・ファイルが入っているディレクトリに移動します。
2. フォルダを UNIX From フォーマットに変換したい場合は、-f フラグをつけて mailcv コマンドを入力します。その際、次に示すように現在のフォルダ名と新しいフォルダ名を指定しなければなりません。

```
% mailcv -f inbox Inbox
```

上記の例では、Inbox という新しいフォルダが作成されます。新しいフォルダ名を指定しなかった場合は、現在のフォルダ名に拡張子 .mbe がついた名前で作成されます。

変換するフォルダにサブフォルダがある場合、サブフォルダは変換されません。各フォルダまたはサブフォルダを変換するには、そのつど上記の処理を行います。

10.1.2.3 メール変換制御フラグの使用方法

mailcv コマンドには、メール・フォルダおよびメール・ディレクトリの変換時に使用するコマンド・フラグが用意されています。これらのフラグについての詳細は、mailcv リファレンス・ページを参照してください。

mailcv コマンドには、次のような処理のためのフラグが用意されています。

- 不正なメッセージが検出された場合にフォルダの変換を中止します。
メッセージが不正な原因は、RFC 822 のメイン・ヘッダ (From, Date, Reply-To など) のいずれかがそのメッセージに含まれていない場合です。
この場合、不正なメッセージの番号とフォルダ名を示すエラー・メッセージが表示され、それ以降のメッセージはフォルダにはコピーされません。
- MH/dxmail のフォルダおよびメッセージを変換後に削除します。ただし、MH フォーマット以外のメッセージを含むフォルダは削除されません。
- 不正なメッセージをスキップし、正しいメール・ヘッダのついたメッセージの変換を続行します。
- 変換したフォルダとメッセージの番号を標準出力に書き込みます。

10.1.2.4 不正なメール・メッセージの変換

不正なメッセージを処理するフラグを指定しないで mailcv ユーティリティを使用すると、メッセージ・ヘッダは次のように変換されます。

- From フィールドは、USER@UNKNOWN に設定されます。
- Date フィールドは、Mon, 01 Jan 1976 09:00:00 -000 に設定されます。

10.1.3 ファイル・マネージャによるメールの変換方法

CDE ファイル・マネージャは、ディレクトリおよびファイルをグラフィック表示します。CDE ファイル・マネージャを使用すると、メール階層全体を変換できます。また、フォルダを 1 つ選択して変換することもできます。

CDE ファイル・マネージャは `mailcv` ユーティリティを呼び出して変換を実行しますが、メール・ヘッダのエラーを検出するフラグを指定するオプションはありません。メール・ディレクトリを変換する前にエラーを検出するには、`mailcv` ユーティリティのコマンド行インタフェースを使用してください。不正なファイルを解決しておかないと、それらのファイルは 10.1.2.4 項に示すように変換されます。

10.1.3.1 メール階層全体の変換方法

CDE ファイル・マネージャを使用してメール階層全体を変換するには、次の手順に従ってください。

1. CDE ファイル・マネージャを起動します。
2. 変換する MH フォルダが入っているディレクトリに移動します。
3. マウス・ポインタを MH メール・フォルダ・アイコンの上に置き、マウス・ボタン 3 をクリックしてアクション・メニューを表示します。
4. アクション・メニューで Mail Convert を選択します。

ダイアログ・ボックスが表示されます。ここで新しいディレクトリ階層のパス名を入力します。新しいディレクトリ名を入力した後、OK をクリックしてください。

ディレクトリ階層の新しい位置を選択した後、`mailcv` ユーティリティは変換を開始します。メール階層の規模により、変換に多少時間がかかる場合があります。変換が終了すると、メールは CDE メール・アプリケーションからアクセスできるようになります。

10.1.3.2 個々のフォルダの変換方法

CDE ファイル・マネージャを使用して 1 つのフォルダを変換するには、次の手順に従ってください。

1. CDE ファイル・マネージャを起動します。

2. パスを、最上位メール・ディレクトリのある MH パス名に設定します。ディレクトリの位置が分からない場合には、+ フラグをつけて `mhpath` コマンドを実行して確認してください。

注意

`mhpath` コマンドを使用するには、システムに MH サブセットがインストールされている必要があります。

パスの設定後、CDE ファイル・マネージャは Mail ディレクトリ (フォルダ) を表示します。各ディレクトリ (フォルダ) はアイコンで表示されます。

3. 変換したいフォルダに移動します。
4. アクション・メニューで Mail Convert を選択します。
ダイアログ・ボックスが表示されます。ここで新しいフォルダ名を入力します。入力後、OK をクリックしてください。

フォルダの新しい位置の選択後、`mailcv` ユーティリティは変換を開始します。変換するフォルダのサブフォルダは変換されません。フォルダのサイズにより、変換に多少時間がかかる場合があります。変換が終了すると、メールは CDE メール・アプリケーションからアクセスできるようになります。

10.2 カレンダ・データベースの変換

`dxcaltodtcm` アプリケーションは、`dxcalendar` アプリケーションで作成したカレンダ・データベース・ファイルを、CDE カレンダ・アプリケーション `dtcm` で使用可能なフォーマットに変換します。

`dxcalendar` データベースを変換するには、次の手順に従ってください。

1. `-migrate` オプションを指定して `dxcalendar` コマンドを起動します。

```
$ dxcalendar -migrate
```

`$HOME/dwc_db_migration.data` というテキスト・ファイルが作成されます。このファイルにはカレンダ・エントリが格納されます。

2. CDE カレンダ・アプリケーション、`dtcm` を実行して、時間の表示を 12 に設定します。

3. `dxcaltodtcm` アプリケーションを起動して、作成されたテキスト・ファイルを読み込み、そのファイル内のエントリを CDE カレンダ・データベースに追加します。

`dxcalendar` コマンドは `/usr/bin/X11` に入っています。`dxcaltodtcm` コマンドは `/usr/dt/bin` に入っています。

注意

DECwindows カレンダの機能の一部が CDE のカレンダで使用できないため、カレンダ・データベースの変換時に情報の一部が失われる場合があります。制限事項については、`dxcaltodtcm(1)` のリファレンス・ページを参照してください。

メール・ハンドラの相違点

CDE のメール・アプリケーションと DECwindows Motif のメール・アプリケーションによるメール操作の管理方法には相違点がいくつかあります。この付録では、次のことについて説明します。

- CDE のメール・アプリケーションにあって、DECwindows Motif のメール・アプリケーションにない機能
- CDE のメール・アプリケーションにはない MH 機能
- MH/DXmail と CDE のメール・アプリケーションの違い

A.1 CDE のメール・アプリケーションで利用できる機能

この節では、CDE のメール・アプリケーションで利用できる機能のうち、MH/DXmail アプリケーションでは使用できないものをいくつか取り上げて説明します。

- MIME (Multipurpose Internet Messages Extension) 規格に最小限度の範囲で準拠しています。MIME についての詳細は、Internet Message RFC を参照してください。
- dtmail アプリケーション内で、休暇の通知をオンまたはオフに設定できます。
- メッセージ作成時のスペル・チェックのためのスペル・チェッカが用意されています。
- メッセージ作成時のテキスト検索およびテキスト置換をサポートしています。
- メール・メッセージに流用できるテンプレート (前もって作成されたテキスト) が用意されています。
- 次の場合に使用する、Comprehensive Options ダイアログ・ボックスが用意されています。
 - 別名の設定

- メッセージ作成の際の定義済みヘッダの指定
- メッセージ読み取りの際のヘッダ削除の指定
- メッセージ番号の設定
- リプライの際のインクルードしたメッセージのインデント
- 送信メッセージの自動ログの設定
- メール・フォルダの最上位ディレクトリ，およびその他のファイルの指定
- CDE Mailer を Office Protocol (POP) クライアントとして使用することにより，POP サービスを提供しているネットワーク・メール・サーバに接続することができます。このオプションを選択した場合は，APOP 認証を選択して (使用しているネットワーク・メール・サーバでサポートしている場合)，メール・サーバと通信している間に，ユーザ ID およびパスワードの暗号化も行うことができます。

A.2 CDE のメール・アプリケーションで使えない機能

次に，DECwindows Motif のメール・アプリケーションと CDE のメール・アプリケーションの相違点をいくつか取り上げて説明します。

- ユーザのフォルダ表示
dxmail アプリケーションは，各ユーザが使用できるメールボックス (フォルダ) をリストするウィンドウを提供します。dtmail アプリケーションには，この機能はありません。CDE でメール・フォルダを表示するには，ファイル・マネージャを使用しなければなりません。したがって，メールの保守を 1 つのディレクトリで行う場合には，dtmail アプリケーションでファイル・マネージャの機能を使用して，フォルダのオープンなどの操作，つまりメール・ディレクトリの管理ができます。ファイル・マネージャおよびデータ型の使用については，『*Common Desktop Environment: ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。
- パーソナル・エディタ
dtmail アプリケーションでは，メール作成時に希望のエディタを指定する機能をサポートしていません。
- 読み取り時のメッセージの変更

dtmail アプリケーションには、読み取りモードのときにメッセージを変更する機能はありません。メッセージを変更するには、そのメッセージを自分に転送し、作成ウィンドウで編集してから送信します。

- 署名

dtmail アプリケーションには、署名を指定する機能はありません。代わりに、`/etc/passwd` ファイルに指定される GECOS フィールドを使用します。

A.3 MH と CDE メール・アプリケーションの相違点について

dtmail アプリケーションとは異なり、dxmail アプリケーションでは、Rand Corporation の MH (Mail Handler) を使用してメール进行处理します。表 A-1 に、CDE のメール・アプリケーションで MH 属性が使用できるかどうかについて示します。

表 A-1: メール・ハンドラの相違点

MH コマンド	機能	CDE のメールの使用
alex	メッセージ・ヘッダからアドレスを抽出します。	不可
ali	メールの別名をリストします。	可
anno	メッセージに注釈をつけます。	不可
ap	RFC 822 形式のアドレスを解析します。	可
burst	メッセージを展開して、ダイジェスト版を作成します。	不可
comp	新しいメッセージを作成します。	可
conflict	矛盾する別名およびパスワードがないかどうかを検索します。	不可
dist	メッセージを追加アドレスに再配布します。	可
dp	RFC 822 形式の日付を解析します。	可
folder	現在のフォルダ/メッセージを設定 (またはリスト) します。	可
forw	メッセージを転送します。	可
inc	新しいメールを取り込みます。	可 (新しいメールを読み取ります。)

MH コマンド	機能	CDE のメールの使用
install-mh	MH 環境を初期化します。	不可
mark	メッセージにマークをつけます。	不可
mhl	編集済みのMHメッセージのリストを作成します。	不可
mhmail	メールを送信するか、または読み取ります。	可
mhpath	MH のメッセージおよびフォルダの完全パス名をプリントします。	不可
msgchk	メッセージがあるかどうかチェックします。	可
msh	MH シェルを起動します。	適用外
next	次のメッセージを表示します。	可
packf	フォルダの内容を 1 つのファイルに圧縮します。	適用外
pick	メッセージを内容によって選択します。	部分的に可
post	メッセージを配布します。	可
prev	前のメッセージを表示します。	可
prompter	プロンプト形式のフロント・エンド・エディタ。	不可
rcvstore	新しいメールを非同期に取り込みます。	適用外
refile	メッセージを別のフォルダに、ファイルとして入れます。	可
repl	メッセージに対する返信を作成します。	可
rmf	フォルダを削除します。	不可
rmm	メッセージを削除します。	可
scan	メッセージごとに 1 行の情報が表示される検索リストを作成します。	可
send	メッセージを送信します。	可
slocal ^a	メール・フックを受信します。	可
show	メッセージを (リストで) 表示します。	可
sortm	メッセージをソートします。	可

A-4 メール・ハンドラの相違点

MH コマンド	機能	CDE のメールの使用
whatnow	送信時のプロンプト・タイプのフロントエンド。	不可
whom	送信するメッセージの受信者を報告します。	不可

^aMH サブセットが組み込まれている場合のみ可。



索引

A

ASCII テキスト・ファイル
比較, 5-7

B

Bourne シェル
DISPLAY 環境変数の設定, 5-3

C

C シェル
DISPLAY 環境変数の設定, 5-3
CDE
デスクトップおよびアプリケーションの管理, 1-5
フロント・パネル, 1-4
ログイン, 1-2
ワークスペース, 1-4
ワークスペース・メニュー, 3-12
説明, 1-1
CDE オンライン・ヘルプ, 1-10
アイテム・ヘルプ, 1-12
アプリケーションのヘルプ・メニューの使用, 1-13
アプリケーション内からのアクセス, 1-11
フロント・パネルからのアクセス, 1-11
ヘルプ・マネージャの使用, 1-11
CDE デスクトップ
ナビゲート, 2-1
CDE ドキュメント・セット, 1-7

ネットスケープ・ナビゲータ
によるオンライン参照, 1-9
CDE リファレンス・ページ, 1-14
コマンドおよびアプリケーションの検索, 1-14
マニュアル・ページ・ビューア
の使用, 1-15
man コマンドの使用, 1-15
CDE Window List
図, 3-13f
CDE window list, 3-13
マウス・ボタン 2 を使用した表示, 2-2
Common Desktop Environment
説明, 1-1

D

DECwindows Motif
CDE への移行, 6-1
CDE アプリケーションへの移行, 7-9
DISPLAY 環境変数
異なるシェルからの設定, 5-3
dtmail, 10-1
格納方法, 10-3
dtssession, 6-2
dtwmrc ファイル, 8-14
dxcalendar
CDE フォーマットへの変換, 10-7
dxcaltodtcm コマンド, 10-7
dxmail
格納方法, 10-2
CDE のメール・フォーマットへの変換, 10-1

K

Korn シェル
DISPLAY 環境変数の設定, 5-3

M

mailcv ユーティリティ, 10-4
.mwmrc ファイル, 8-14

N

Netscape Navigator
起動, 1-10

O

OpenVMS
ディスプレイを使用可能にする,
5-3
TCP/IP 実行するネットワー
ク・ホスト, 5-4

P

PC スタイル・キーボード, 8-8

R

Regular Desktop セッション, 2-11

S

sessionetc ファイル, 8-14
SysMan アプリケーション, 5-11
アクセス, 3-2
Configuration, 5-12, 5-13
SysMan Applications サブパネル,
3-9

U

/usr/dt/config ディレクトリ, 8-15

X

.X11start ファイル, 8-14
X クライアント, 6-2
X サーバ, 6-2
X Window System, 6-2
Xaccess ファイル, 8-15
.Xdefaults ファイル, 8-14
xdm ファイル, 8-15
xhost プログラム
ディスプレイへのアクセスを可
能にするための使用, 5-3
xmodmap, 8-9
Xservers ファイル, 8-15
Xsession, 6-3
Xsession ファイル, 8-15
.xsession ファイル, 8-14
キーボードのカスタマイズ, 8-10

あ

アイテム・ヘルプ, 1-12
アプリケーション, CDE に統合さ
れている, 5-4
アプリケーション, CDE を使用し
てのアクセス, 7-3
アプリケーション, DECwindows
Motif と対応する CDE へのア
クセス, 7-9
アプリケーション, X サーバへのア
クセス権限の付与, 5-3
アプリケーション, アプリケーショ
ン・グループへのアクセス, 4-5
アプリケーション, アプリケーショ
ン・マネージャからの起動, 5-1
アプリケーション, アプリケーショ
ン・マネージャからの実行, 4-7
アプリケーション, アプリケーショ
ン・マネージャによる管理, 4-5

アプリケーション、グループへの
編成, 4-5
アプリケーション、サブパネルへ
の追加, 7-4
アプリケーション、システム管
理ツールへのアクセス, 4-7
アプリケーション、省略時の設定
のアプリケーション・グルー
プ, 4-6
アプリケーション、使用の推奨, 7-9
アプリケーション、自動的に起動,
7-2
アプリケーション、端末エミュ
レータからの起動, 5-1
アプリケーション、ディスプレイ
を使用可能にする, 5-3
アプリケーション、デスクトッ
プ・アプリケーションへのアク
セス, 4-6
アプリケーション、デスクトッ
プ・ツールへのアクセス, 4-6
アプリケーション、ドラッグ・ア
ンド・ドロップ操作の使用方
法, 7-9
アプリケーション、ネットワー
ク上での実行, 5-2
アプリケーション、表示, 5-3
アプリケーション、ファイル・マ
ネージャから起動, 7-8
アプリケーション、フロント・パ
ネルからのアクセス, 3-1
アプリケーション、フロント・パ
ネルへの追加, 7-6
アプリケーション、ヘルプ・ボ
リュームへのアクセス, 4-6
アプリケーション、変換ツールへ
のアクセス, 4-6
アプリケーション、リモート・シ
ステムからの実行, 5-2
アプリケーション・ウィンドウ, 2-4
アプリケーション・グループ、ア
クセス, 4-5
アプリケーション・マネージャ,
1-6, 4-1

アプリケーション・マネー
ジャ、information グループ,
4-6
アプリケーション・マネー
ジャ、アクセス, 3-2
アプリケーション・マネージャ、ア
プリケーションの起動, 5-1
アプリケーション・マネージャ、ア
プリケーションの実行, 4-7
アプリケーション・マネージャ、ア
プリケーションの編成, 4-5
アプリケーション・マネージャ、ア
プリケーションへの編成, 4-7
アプリケーション・マネージャ、
システム管理グループ, 4-7
アプリケーション・マネージャ、
図, 4-5f
アプリケーション・マネージャ、
デスクトップ・ツール, 4-6
アプリケーション・マネージャ、
デスクトップ・アプリケーショ
ン, 4-6
アプリケーション・マネージャ、
メニューの使用方法, 4-7

い

移行、DECwindows Motif から
CDE へ, 7-1
一時停止、セッションの, 2-12
イメージビューア、ファイル・
フォーマットの表示, 5-8
イメージビューア・アプリケー
ション、図, 5-8
イメージ・ファイル、表示, 5-8
色、スクリーン内での変更, 4-8
印刷マネージャ、アクセス, 3-2
インストール・アイコン、ツール
を追加するための使用方法, 3-4

う

ウィンドウ、アクティブ化, 2-6

ウィンドウ, 移動, 2-6
ウィンドウ, オプション・メニューの使用
方法, 2-7
ウィンドウ, コントロールの使用
方法, 2-5
ウィンドウ, 最小化ボタンおよび
最大化ボタンの使用方法, 2-5
ウィンドウ, サイズ変更, 2-5
ウィンドウ, サブメニューの使用
方法, 2-8
ウィンドウ, 使用方法, 2-4
ウィンドウ, スクロール・バーの
使用方法, 2-5
ウィンドウ, スライダおよび
スケールの使用方法, 2-9
ウィンドウ, タイトル・バーの使
用方法, 2-5
ウィンドウ, ダイアログ・ボック
スのオープン, 2-8
ウィンドウ, テキストのコ
ピーおよびペースト, 2-7
ウィンドウ, 特性の設定, 4-10
ウィンドウ, プッシュ・ボタンの
使用方法, 2-9
ウィンドウ, プルダウン・メ
ニューの使用, 2-7
ウィンドウ, ポップアップ・メ
ニューの使用, 2-7
ウィンドウ, メニューの使用, 2-7
ウィンドウ, メニューの使用, 2-5
ウィンドウ, ラジオ・ボタンおよ
びチェック・ボタンの使用方
法, 2-9
ウィンドウ, リスト・ボックスの
使用方法, 2-9
ウィンドウ・コントロール, 2-4
ウィンドウのサイズ変更, 2-5
ウィンドウ・フレーム, 2-4

お

オプション・メニュー, ウィン
ドウ内, 2-7

か

隠しディレクトリ, 表示, 4-4
隠しファイル, 表示, 4-4
確認, ログアウト時のオンおよ
びオフ, 4-10
カスタマイズ, ポインタの動作, 8-12
カレンダー, CDE フォーマットへの
変換, 10-7
カレンダー, アクセス, 3-2
環境, スタイル・マネージャの使
用によるカスタマイズ, 4-7

き

キーキャップ編集, キーボード
のカスタマイズ, 5-10
キーストローク文字, 変更, 5-8
キーボード, LK201/LK401, 8-8
キーボード, LK201 または LK401
の付いた PC スタイル, 8-8
キーボード, PCXAL の LK スタイル,
8-8
キーボード, キーストローク文字
の変更, 5-8
キーボード, 設定のカスタマイズ,
5-9
キーボード, ナビゲート, 2-3
キーボード, マッピングの再定義,
5-10
キーボード設定, 設定の変更に使
用, 5-9
キーボード設定アプリケーション,
図, 5-10
起動, ネットスケープ・ナビゲー
タ, 1-10
許可, ファイルおよびディレクト
リに対する変更, 4-4

く

組み込みアプリケーション・グループ, 4-5
クリック, マウスの使用方法, 2-3
クロック, アクセス, 3-2

け

警告ベル, 設定, 4-9
言語, 入力メソッドの変更, 5-8
言語, ログイン時に指定, 2-11
現在のセッション, 4-10

こ

国際化機能, 9-1
個人アプリケーションのサブパネル, 3-5
個人アプリケーションのサブパネル, 図, 3-5
個人プリンタのサブパネル, 3-6
個人プリンタのサブパネル, 図, 3-7
コマンド行セッション, 2-12
コマンド行セッション, 開始, 7-2
ごみ箱, アクセス, 3-2

さ

再開, セッション, 8-2
作業領域, ウィンドウの使用方法, 2-4
削除ファンクション・キー, 8-11n
サブパネル, SysMan applications の使用, 3-9
サブパネル, アプリケーションの追加, 7-5
サブパネル, 個人アプリケーションのメニューの使用方法, 3-5
サブパネル, 個人プリンタのメニューの使用方法, 3-6

サブパネル, フロント・パネルへの追加, 7-6
サブパネル, ヘルプ・メニューの使用方法, 3-7
サブパネル, メニューの使用方法, 3-4
サブメニュー, 2-8

し

終了, セッションの, 2-12
省略時プリンタのコントロール, 3-7
使用中インディケータ, 3-2

す

スクリーン, 色の変更, 4-8
スクリーン, 表示の変更, 4-8
スクリーン, フォントの指定, 4-8
スクリーン, ワークスペースの変更, 3-11, 7-4
スクリーン・サーバ, 使用, 4-10
スクロール・バー, 2-5
スケール, 使用方法, 2-9
スタートアップ, カスタマイズ, 8-1
スタートアップ, 属性の指定, 4-10
スタートアップ環境, カスタマイズ, 8-1
スタイル・マネージャ, 1-6, 3-2, 4-1
スタイル・マネージャ, アクセス, 3-2
スタイル・マネージャ, 色の変更, 4-8
スタイル・マネージャ, 環境のカスタマイズ, 4-7
スタイル・マネージャ, スクリーン表示の変更, 4-8
スタイル・マネージャ, スタートアップおよびログアウト動作の指定, 4-10
スタイル・マネージャ, 図, 4-8
スタイル・マネージャ, 背景の設定, 4-8

スタイル・マネージャ, フォント
の変更, 4-8
スライダ, 使用方法, 2-9

せ

セッション, DECwindows Motif
と CDE の相違点, 7-1
セッション, アプリケーションを
実行して終了, 7-2
セッション, 一時停止, 2-12
セッション, 開始, 2-10
セッション, カスタマイズ, 8-1
セッション, 言語の指定, 8-12
セッション, 固有の表示, 8-2
セッション, 再開, 8-2
セッション, 終了, 2-12
セッション, 設定のリストア, 8-14
セッション, タイプの選択, 7-1
セッション, ホーム, 8-2
セッションの開始, 2-10
セッションの開始, カスタマイズ,
8-1
セッションの終了, 3-2, 4-10
セッション・マネージャ, CDE で
のカスタマイズ, 8-1
セッション・マネージャ, 起動, 6-2
セッション・マネージャ, 設定変
更, 8-3

た

ダイアログ・ボックス, オープン,
2-8
ダイアログ・ボックス, 使用方法,
2-8
ダイアログ・ボックス, スライ
ダおよびスケールの使用方法,
2-9
ダイアログ・ボックス, プッ
シュ・ボタンの使用方法, 2-9

ダイアログ・ボックス, ラジオ・
ボタンおよびチェック・ボタン
の使用方法, 2-9
ダイアログ・ボックス, リスト・
ボックスの使用方法, 2-9
ダブルクリック, マウスの使用方
法, 2-3
端末エミュレータ, 9-3
端末エミュレータ, アプリケー
ションの起動, 5-1
端末エミュレータ, ファイル・マ
ネージャからのオープン, 4-3

ち

チェック・ボタン, 使用方法, 2-9

つ

通常のデスクトップ・セッショ
ン, 開始, 7-1

て

ディスプレイ, 5-3
ディスプレイ固有のセッション, 8-2
ディレクトリ, 隠されている場合
の表示, 4-4
ディレクトリ, 管理, 4-1
ディレクトリ, 許可の変更, 4-4
ディレクトリ, 検索, 4-3
ディレクトリ, コピー, 4-4
ディレクトリ, 作成, 4-3
ディレクトリ, 内容の表示, 4-4
ディレクトリ, 名前の変更, 4-4
ディレクトリ, 表示, 4-3
ディレクトリ, ファイル・マネー
ジャからのプリント, 4-4
ディレクトリ, 変更, 4-3
ディレクトリ, ワークスペースへ
の移動, 4-4
ディレクトリの管理, 4-1

テキスト, コピーおよびペースト, 2-7
テキスト・エディタ, アクセス, 3-2
テキスト比較, ファイルの比較, 5-7
テキスト比較アプリケーション, 図, 5-7
テキスト・ファイル, 比較, 5-7
デスクトップ・アプリケーション, CDE に統合されている, 5-4
デスクトップ・セッション, 管理, 4-1
デスクトップ・セッション, セッション・タイプの選択, 2-11

と

ドキュメント, イメージ・ファイルの表示, 5-8
ドキュメント・セット, CD-ROM のマウント, 1-9
ドキュメント・セット, ToolTalk ドキュメント, 1-8
ドキュメント・セット, ネットスケープ・ナビゲータの起動, 1-10
ドキュメント・セット, プログラミング・ドキュメント, 1-8
ドキュメント・セット, ユーザ・ドキュメント, 1-7
ドキュメントの表示, 5-8
ドラッグ・アンド・ドロップ, マウスの使用方法, 2-3

な

ナビゲート, キーボードの使用方法, 2-3
ナビゲート, マウスの使用方法, 2-1

に

入力サーバ・オプション, キーストローク文字の変更, 5-8
入力サーバ・オプション・アプリケーション, 図, 5-9

ね

ネットスケープ・ナビゲータ, 起動, 1-10
ネットスケープ・ナビゲータ, 起動, CDE デスクトップから, 1-10
ネットスケープ・ナビゲータ, 起動, 端末エミュレータ・ウィンドウから, 1-10

は

背景, 使用, 4-8
背景パターン, 4-8
バックスペース・ファンクション・キー, 8-11n
パレット, 色の選択, 4-8

ひ

ビープ音ボリューム, 設定, 4-9
ビジー・ライト, 3-2

ふ

ファイル, 移動, 4-4
ファイル, 隠されている場合の表示, 4-4
ファイル, 許可の変更, 4-4
ファイル, 検索, 4-3
ファイル, 異なるフォーマットの表示, 5-8

ファイル、コピー、4-4
ファイル、作成、4-3
ファイル、ディレクトリ内での管理、4-1
ファイル、内容の表示、4-4
ファイル、名前の変更、4-4
ファイル、比較、5-7
ファイル、ファイル・マネージャからのプリント、4-4
ファイル、ワークスペースへの移動、4-4
ファイルおよびディレクトリのコピー、4-4
ファイルの管理、4-1
ファイル・マネージャ、1-5, 4-1
ファイル・マネージャ、dxmailフォルダの変換、10-6
ファイル・マネージャ、アクセス、3-2
ファイル・マネージャ、新しいウィンドウのオープン、4-4
ファイル・マネージャ、新しいファイルの作成、4-3
ファイル・マネージャ、アプリケーションの実行、7-8
ファイル・マネージャ、オブジェクトのワークスペースへの移動、4-4
ファイル・マネージャ、隠しファイルおよびディレクトリの表示、4-4
ファイル・マネージャ、からのアプリケーションのドラッグ、7-9
ファイル・マネージャ、許可の変更、4-4
ファイル・マネージャ、終了、4-3
ファイル・マネージャ、図、4-2
ファイル・マネージャ、設定の保存、4-4
ファイル・マネージャ、新しいディレクトリの作成、4-3
ファイル・マネージャ、端末エミュレータ・ウィンドウのオープン、4-3
ファイル・マネージャ、ディレクトリおよびファイルの管理、4-1
ファイル・マネージャ、ディレクトリの表示、4-3
ファイル・マネージャ、ディレクトリの変更、4-3
ファイル・マネージャ、ファイルおよびディレクトリの移動、4-4
ファイル・マネージャ、ファイルおよびディレクトリの検索、4-3
ファイル・マネージャ、ファイルおよびディレクトリのコピー、4-4
ファイル・マネージャ、ファイルおよびディレクトリの名前の変更、4-4
ファイル・マネージャ、ファイルおよびディレクトリの表示、4-4
ファイル・マネージャ、ファイルおよびディレクトリのプリント、4-4
ファイル・マネージャ、「ファイル」メニューの使用法、4-3
ファイル・マネージャ、フォーマットの指定、4-4
フェイルセーフ・セッション、2-11
フェイルセーフ・セッション、開始、7-1
複数ウィンドウ、管理、2-6
ブッシュ・ボタン、使用法、2-9
プルダウン・メニュー、2-7
フロント・パネル、アプリケーションの追加、7-4, 7-6
フロント・パネル、カスタマイズ、7-7
フロント・パネル、カスタマイズの削除、7-7
フロント・パネル、コントロール、3-1
フロント・パネル、コントロールの置換、7-6
フロント・パネル、使用法、3-1

フロント・パネル, 図, 1-4, 3-1
フロント・パネル, 図, ワークス
ペース・スイッチ, 3-11
フロント・パネル, セッションの
一時停止, 3-2
フロント・パネル, セッションの
終了, 3-2
フロント・パネル, ツール, 3-1
フロント・パネル, 図, SysMan
Station コントロール, 3-3

へ

ヘルプのサブパネル, 3-7
ヘルプ・マネージャ, 1-11
ヘルプ・マネージャ, アクセス, 3-2
ヘルプ・マネージャのサブパネ
ル, 図, 3-8
変換, dxcalendar データベース,
10-7

ほ

ホーム・セッション, 4-10, 8-2
ポインタの動作のカスタマイズ, 8-12
ポップアップ・メニュー, 2-7

ま

マウス, ウィンドウ内のテキスト
のコピーおよびペースト, 2-7
マウス, ウィンドウのアクティブ
化に使用, 2-6
マウス, ウィンドウの移動に使用,
2-7
マウス, クリック・アクションの
変更, 4-9
マウス, クリック操作, 2-2
マウス, ダブルクリック操作, 2-3
マウス, ドラッグ・アンド・ド
ロップ操作, 2-3
マウス, ナビゲート, 2-1

マウス, ボタン・コントロールの
変更, 4-9
マウス, ポインタのしきい値の変
更, 4-9
マウス・ボタン 1, 2-2
マウス・ボタン 2, 2-2
マウス・ボタン 3, 2-2

め

メール, CDE フォーマットへの変
換, 10-1
dtmail と dxmail の相違点, A-1
メール, dtmail フォーマットでの
格納, 10-3
メール, MH/dxmail フォーマット
での格納, 10-2
メール, アクセス, 3-2
メール変換ユーティリティ, 10-4
メニュー, オプション・メニュー
の使用方法, 2-7
メニュー, サブメニューの使用方
法, 2-8
メニュー, 使用方法, 2-7
メニュー, ダイアログ・ボックス
のオープン, 2-8
メニュー, プルダウンの使用方法,
2-7
メニュー, ポップアップの使用方
法, 2-7
メニュー・バー, 2-4

ら

ラジオ・ボタン, 使用方法, 2-9

り

リスト・ボックス, 使用方法, 2-9
リモート・アプリケーション,
ローカル・システムでの実行,
5-2

ろ

ログアウト, 確認のオン/オフ, 4-10
ログアウト, システム動作の指定,
4-10
ログアウト確認, オン/オフ, 8-3
ログイン, 2-10
ログイン, 言語の指定, 2-11
ログイン, システム動作の指定, 4-10
ログイン, セッションの指定, 2-11
ログイン, ログイン画面のリセッ
ト, 2-12
ログイン画面, Regular Desktop
セッションの指定, 2-11
ログイン画面, オプションの選択,
1-2
ログイン画面, 言語の指定, 2-11
ログイン画面, コマンド行セッ
ションの指定, 2-12
ログイン画面, セッション・タイ
プの指定, 2-11
ログイン画面, 表示, 2-9
ログイン画面, フェイルセーフ・
セッションの指定, 2-11
ログイン画面, リセット, 2-12
ログイン・マネージャ, 2-9

ロック, アクセス, 3-2
ロック, セッションの, 2-12

わ

ワークスペース, アクセス, 3-2
ワークスペース, 色の変更, 4-8
ワークスペース, 作業領域間の移
動, 3-11, 7-4
ワークスペース, 追加, 3-11
ワークスペース, ディレクトリおよ
びファイルのドロップ, 4-4
ワークスペース, 名前の変更, 3-11
ワークスペース, 背景パターンの
指定, 4-8
ワークスペース・スイッチ, 3-11,
7-4
ワークスペース・スイッチ, ワー
クスペースの追加, 3-11
ワークスペース・スイッチ, ワー
クスペースの名前変更, 3-11
ワークスペース・スイッチ, ワー
クスペースの変更, 3-11, 7-4
ワークスペース・ボタンのポッ
プアップ・メニュー, 3-11
ワークスペース・メニュー, 図, 3-12

マニュアルに対するご意見

Tru64 UNIX
CDE ガイドブック
AA-RK3JA-TE

弊社のマニュアルに関して、ご意見、ご要望、または内容の不明確な部分など、お気づきの点がございましたら、下記にご記入の上、弊社社員にお渡しくださるようお願い申し上げます。

マニュアルの採点：

	大変良い	良い	普通	良くない
正確さ (説明どおりに動作するか)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報量 (十分か)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
分かり易さ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
マニュアルの構成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
図 (役立つか)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
例 (役立つか)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
索引 (項目の検索性)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ページ・レイアウト (情報の検索性)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

内容の不明確な部分がありましたら、以下にご記入ください：

ペ ー ジ

その他お気づきの点がございましたら、以下にご記入ください：

ご使用のソフトウェアのバージョン： _____

貴社名/部課名 _____

御名前 _____

記入日 _____

(注) 当用紙を受け取った弊社社員は、すみやかに下記にお送りください。

コンパックコンピュータ株式会社 開発本部/ソフトウェア製品開発部